Canon

ネットワークカメラ

VB-M700F
VB-M600D/VB-M600VE
VB-M40

操作ガイド

ご使用の前に必ずこの『操作ガイド』をお読みください。

日本語

はじめに

キヤノンネットワークカメラVB-M700F/VB-M600D/VB-M600VE/VB-M40/VB-M40B (以下、カメラ) をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
VB-M40とVB-M40Bの違いは外観色のみです。VB-M700F、VB-M600D、VB-M40、VB-M40Bは屋内専用、VB-M600VEは軒下設置も可能です。
この『操作ガイド』は、カメラの設定や操作方法について説明しています。ご使用前によくお読みになり、カメラを正しく利用してください。また、セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダ内のファイルも必ずお読みください。

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。
製品紹介ホームページ：canon.jp/webview

■ ご注意

1 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
2 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載のお客様相談センターまでご連絡ください。
4 運用した結果の影響につきましては、上記2項、3項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

ネットワークのセキュリティについてのご注意

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。
不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

＜対策例＞

- カメラのパスワードを定期的に変更する。
- カメラの通信ポートを変更する。
- 通信機器でカメラへのアクセス制限を行う。

著作権について

お客様が撮影した映像や画像、録音した音声などは、著作権法上、権利者に無断で使用・公開することはできませんのでご注意ください。

ラジオやテレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ＶＣＣＩ－Ｂ

映像・音声の利用によるプライバシー・肖像権の注意

カメラの使用 (映像・音声) につきましては、お客様の責任でプライバシーの保護や肖像権の侵害防止などに十分なご配慮のうえ、行ってください。弊社では一切の責任を負いません。

＜参考＞

- 特定の建築物や屋内などが映し出される場合には、管理者のかたに対して、あらかじめ了承をいただいてからカメラを設置してください。

法律上の注意事項
カメラによる監視は法律によって禁止されている場合があり、その内容は国によって異なります。本製品をご利用になる前に、ご利用いただく地域の法律を確認してください。

商標について

- CanonおよびCanonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows ServerおよびActiveX は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- 本製品には、Microsoft 社より使用を許諾された exFATファイルシステムの技術が組み込まれています。
- SD、SDHC ロゴは SD-3C、LLC の商標です。
- その他、本書に記載された商品名、社名などは各社の商標または登録商標です。

同梱ソフトウェアRM-Liteの利用に関するお願い (免責事項)

RM-Liteの不具合などにより、録画ができなかったり、録画データが破壊、消失する場合があります。これにより生じるお客様の損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

同梱ソフトウェアの使用許諾契約について

同梱ソフトウェアの使用許諾契約については、同梱セットアップ CD-ROM の LICENSE フォルダの中のBundledSoftwareフォルダ内にある次のファイルをご覧ください。

ソフトウェアの種類	ファイル名
VB 初期設定ツール	VBTools-J.txt
カメラアングル設定ツール (VB-M40では使用しません。)	
ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite	RM-Lite-J.txt

H.264のご利用について

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
(この文書は英語での掲載が義務付けられています。)

第三者のソフトウェアについて

この製品 (本体および同梱のRM-Lite) には、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。詳細は同梱セットアップ CD-ROM の LICENSE フォルダの Open-SourceSoftwareフォルダ内「ThirdPartySoftware-J.pdf」(第三者ソフトウェアライセンスについて) をご覧ください。また、各モジュールのライセンス条件につきましては、同じフォルダに含まれていますのでご覧ください。

GPLおよびLGPLで許諾されるソフトウェアについて

GPLおよびLGPLに基づき、ソースコードの入手を希望されるお客様は、製品をお買い上げいただいた販売会社または販売代理店にお問い合わせください。

輸出規制について

本製品は、安全保障輸出規制貨物に該当します。そのため、輸出または海外に持ち出す場合は、関係当局の許可が必要となることがあります。

操作ガイドの見かた

使用説明書について

カメラには『設置ガイド』とセットアップCD-ROMに収録されている『操作ガイド』(本書) があります。

「設置ガイド」(同梱)
カメラ設置上の注意、設置手順、主な仕様を説明しています。同書を参照していただきたい部分は『設置ガイド』とし、その項目を記しています。
「操作ガイド」(本書) (VBM467OG_J.pdf)
カメラの初期設定、カメラアングル設定ツール、管理ツールの設定、ビューワーの操作、トラブルシューティングなどを説明しています。本書はセットアップCD-ROMに収録されています。

さらにセットアップCD-ROMには、録画ソフトウェアのRM-Lite (「1章 ご使用の前に」の「ネットワークビデオレコーディングソフトウェア RM-Lite」) が収録されています。次の使用説明書があります。

ネットワークビデオレコーディングソフトウェア RM-Lite
『システム管理者マニュアル』(RM10AM_J.pdf)
RM-Liteの詳しい使いかたについて解説しています。
ネットワークビデオレコーディングソフトウェア RM-Lite
『ビューワー操作ガイド』(RM10VOG_J.pdf)
RM-Liteビューワーの操作ガイドです。ビューワーの詳しい操作方法は『システム管理者マニュアル』をご参照ください。

この操作ガイドの使いかた

この使用説明書はPCの画面上に表示して読むことを想定しています。

ソフトウェアの画面例について
この使用説明書に記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。
また、説明にはWindows 7で、VB-M40を接続した画面例を基本的に使用しています。

対応カメラの機種固有の情報について

機種によって使用が制限される機能には、機種名を記載したり、以下の記号を使って使用できる機種を示しています。

記号	カメラ機種
M700	VB-M700F
M600	VB-M600D、VB-M600VE
M40	VB-M40

安全上の注意を示す記号

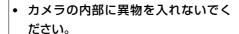
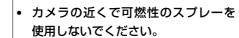
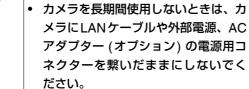
この『操作ガイド』で使用しているマークについて説明します。この『操作ガイド』では製品を安全にお使いいただくため、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。表示の内容を十分理解して作業を行ってください。

マーク	意味
⚠警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
⚠注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。必ずこの注意事項をお守りください。
火災注意 感電注意	これらの記号を無視して取り扱いを誤った場合に、火災の発生や感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
禁止 分解禁止 水ぬれ禁止	これらの記号は、行ってはいけない行為 (禁止事項) を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれてる場合もあります。
指示	この記号は、必ず実行していただく指示の内容を示しています。

マーク	意味
重要	この記号は、その他の注意していただきたい行為や内容を示しています。重要事項や制限事項が書かれています。必ずお読みください。
メモ	操作の参考になることや補足説明が書かれています。

安全にお使いいただくために

カメラをお使いいただくうえで、必ず守っていただきたい注意事項について説明します。
守られない場合、けがや死亡事故、物的損害が発生することがありますので、よくお読みになったうえ、必ずお守りください。

使用上の注意

	⚠ 警告
	• 発煙、異音、発熱、異臭などの異常を発見したときは、直ちに使用を中止し、最寄りの販売店にご連絡ください。 継続して使用すると火災、感電の原因になります。
	• 分解、改造はしないでください。 • カメラの内部に水などの液体を入れたり、カメラに水をかけたり濡らしたりしないでください。 • カメラの内部に異物を入れないでください。 • カメラの近くで可燃性のスプレーを使用しないでください。 • カメラを長期間使用しないときは、カメラにLANケーブルや外部電源、ACアダプター (オプション) の電源用コネクターを繋いだままにしないでください。 • 接続ケーブル類を傷つけないでください。 火災、感電の原因になります。
	• 医療機器などの人命に関わるシステムには使用しないでください。 PCやネットワークの環境によっては映像の遅延や欠落が発生するため高精度の映像伝送は保証できません。 上記の場合にカメラを使用した結果生じた事故や損害について、キヤノンは一切の責任を負いかねます。

	注意
	• 太陽、ハロゲン灯など高輝度の光源や被写体を撮影しないでください。 • カメラに強い衝撃や振動を与えないでください。 • M40 カメラヘッド部を持たないでください。 • M40 カメラ回転部を手で回さないでください。 • 故障の原因になることがあります。

カメラアングル設定ツール使用上の注意 M700 M600

	注意
	• カメラアングル設定ツールは、カメラ設置時の使用を想定しています。日常の頻繁な使用はしないでください。 故障の原因になることがあります。

カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意

	注意
	• カメラに搭載されている下記の機能および下記の同梱ソフトウェアは、常に高い信頼性が要求される用途では使用しないでください。 – インテリジェント機能 – M40 ブレ補正機能 – ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite これらの機能は高精度の撮影を保証するものではなく、一定範囲を超えると対応できません。これらの機能を使用した結果生じた事故や損害について、キヤノンは一切の責任を負いかねます。

お手入れに関する注意

⚠ 警告	
禁止 火災注意 感電注意	• アルコールやシンナー、ベンジンなど引火性溶剤は使用しないでください。 火災や感電の原因になります。

日常のお手入れ

お手入れは、電源を切って行ってください。

■ 外装のお手入れ

1 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
2 乾いた布で拭きます。

■ レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- M40 レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。
- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。

■ フロントカバー、ドームケースまたはドームハウジングのお手入れ

カメラの下記の部分に汚れがつくと、画質が悪くなる原因になりますので、定期的なお手入れが必要です。

M700 フロントカバー
M600 ドームケース
M40 ドーム (オプションの屋内ドームハウジング使用時)

これらの部分の表面を清掃しても汚れが気になる場合は、下記の手順で取り外してお手入れしてください。

1 フロントカバー、ドームケースまたはドームを取り外します。
M700
『VB-M700F 設置ガイド』の「カメラハウジングをご利用の場合」を参照して、フロントカバーを取り外します。
M600
『VB-M600D/VB-M600VE設置ガイド』の「カメラを設置する」の手順を参照して、ドームケースを取り外します。
M40
屋内ドームハウジングに同梱の『設置ガイド』の「カメラを設置する」の手順を参照して、ドームを取り外します。
2 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
3 乾いた布で拭きます。
4 元どおりにフロントカバー、ドームケースまたはドームを取り付けます。

落下によるけがや機器の破損を防止するため、取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。
点検は販売店にご依頼ください。

■ 埋込取付キット (VB-M600D/VB-M600VE専用オプション)、天井取付用カバー (VB-M40専用オプション) をご使用の場合のお手入れ

落下によるけがや機器の破損を防止するため、取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。
点検は販売店にご依頼ください。

目次

8章 付録

1章

ご使用の前に

- ❏ カメラの特長
- ❏ ソフトウェアの紹介
- ❏ 動作環境と注意事項

特長

本カメラは、カメラ機能とサーバー機能をコンパクトに一体化したネットワークカメラです。

共通の特長

メガピクセル対応	130万画素対応CMOSセンサーにより高画質での映像監視を実現。
H.264対応	従来のJPEGに加え、高画質・高圧縮率を両立するH.264での映像圧縮に対応。 1280×960ピクセルの映像を最大30フレーム/秒 *1 の高画質・高フレームレートで、最大10クライアントに同時配信 (JPEGの場合は最大30クライアント)。
低照度での撮影	被写体の照度が低いときもカラー撮影が可能。 M700 M600 最低被写体照度0.25ルクス (1/30秒、スマートシェード補正オフ) M40 最低被写体照度0.4ルクス (1/30秒、スマートシェード補正オフ)
インテリジェント機能	多彩な検知方法を実現するインテリジェント機能を搭載。 動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、音量検知
プライバシーマスク	映像の一部をマスクして隠すことで、プライバシーとセキュリティーを両立。 M40 カメラのパン・チルト・ズーム操作に合わせてマスク領域がカメラ画像に追従。
SD/SDHCメモリーカード対応	ネットワーク障害時のアップロード画像やログを記録。
RM-Lite (同梱) による小規模映像監視	同梱のネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Liteで、最大4台のカメラの映像を録画およびライブ表示。

*1 実際のフレームレートはビューワー用PCの性能や同時接続クライアント数、ネットワークの負荷状況によって低下することがあります。

VB-M40の特長

光学20倍ズームレンズ搭載	最大水平画角55.4°、光学20倍 (デジタル4倍) のオートフォーカス対応高倍率ズームレンズ搭載。
パン・チルト機能	遠隔地からカメラアングルを自在に操作。

VB-M700F/VB-M600D/VB-M600VEの特長

光学3倍ズームレンズ搭載	最大水平画角101.2°、光学3倍電動ズームレンズ搭載。
カメラアングル設定ツール	PCの画面上で映像を確認しながらカメラアングルの調整することでカメラの設置作業を効率化。 M700 ズーム/フォーカスの設定が可能 M600 パン/チルト/ローテーション/ズーム/フォーカスの設定が可能
対衝撃性に優れた構造 (VB-M600VEのみ)	本体は衝撃緩和機構を備え、外装部材にはポリカーボネート樹脂 (厚さ3.5 mm) とアルミ合金を使用。ドームケースの固定には取り外しにくい特殊ネジを採用。 * すべての条件の衝撃に対応できるものではありません。
防塵・防水機構 (VB-M600VEのみ)	本格的な防塵・防水規格IP66に適合。ハウジングなしでも軒下設置可能。純正ヒーター (オプション) により-30°の低温環境下で使用可。

カメラのソフトウェアについて

カメラ搭載ソフトウェア

■ VB-M700/600/40ビューワー

(「7章 管理者ビューワー / VBビューワー」参照)

一般ユーザーが使用できるVBビューワーと、管理者用の管理者ビューワーがあります。
VBビューワーでは、カメラの基本的な制御と映像の表示ができます。
管理者ビューワーは、カメラのすべての制御と各種イベントのモニターができます。
なお、表示できる映像はJPEGのみです。H.264の映像を表示する場合は、RM-Liteビューワー (P. 1-5) をインストールしてご使用ください。

■ 管理ツール (「6章 管理ツール」参照)

カメラを設定および管理するための次のツールがあります。

- プライバシーマスク設定ツール
- インテリジェント機能設定ツール
- ログビューワー
- M40 パノラマ作成ツール
- M40 可視範囲設定ツール
- M40 プリセット設定ツール

同梱ソフトウェア

同梱のセットアップCD-ROMに収録されています。PCにインストールして使用します。

■ VB初期設定ツール

(「2章 カメラの初期設定」参照)

カメラの初期設定を行うツールです。

■ カメラアングル設定ツール M700 M600

(「3章 カメラアングル設定ツール」参照)

ネットワーク経由で PC から映像を見ながら、設置時のカメラ操作を行うツールです。

■ RM-Lite (P. 1-5)

最大4台までのカメラの映像を同時に表示したり、録画できるソフトウェアです。

■ プロキシ認証対応版 管理者ビューワー / 管理ツール

プロキシ認証が設定されたプロキシサーバー経由で使用する場合は、本ソフトウェアを使用してください。セットアップCD-ROM のProxyAuthSupport フォルダ内に保存されています。

■ SDカードユーティリティ

(「8章 付録」の「SDメモリーカードのアクセスについて」参照)

SDメモリーカードに保存されているJPEG映像の一覧を表示・削除するツールです。また、SDメモリーカードに保存された映像をMOV形式のファイルに変換してPCに保存できます。

ネットワークビデオレコーディングソフトウェア (オプション)

必要に応じて別途お買い求めください。

■ RM-64/RM-25/RM-9

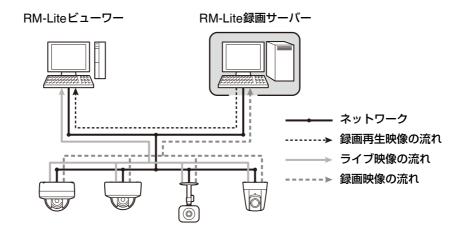
ネットワークカメラを使用して複数拠点をモニタリングし、カメラからの映像を表示・録画・再生するソフトウェアです。RM-64/RM-25/RM-9は登録可能なカメラの台数が異なり、それぞれ64台/25台/9台まで登録できます。

■ RM-Lite-V

複数のPC に RM-Lite ビューワーをインストールするための追加ライセンスです。複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

ユーザーサポートツール

カメラの運用に便利なツールをPCにインストールしてご使用できます。

■ 設定値バックアップ/リストアツール

カメラに設定されている情報をPC に保存するツールです。複数のカメラの情報を一括して保存できます。
また、PCに保存した情報をカメラに戻すこともできます。

RM-Lite (『システム管理者マニュアル』参照)

RM-Liteは、セットアップCD-ROMのApplicationsフォルダにあるRMLiteInstall.exeからインストールして使用します。

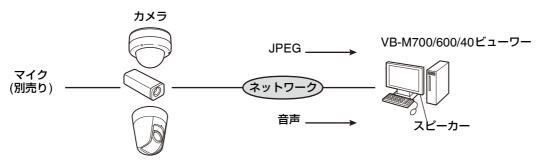
RM-Liteのソフトウェア構成

種類	概要	ライセンス
RM-Lite録画サーバー	最大4台のカメラを登録して映像を録画できます。	1ライセンス
RM-Liteビューワー	録画サーバーに保存された録画映像を再生したり、カメラのライブ映像 (JPEG/H.264) を表示できます。 ビューワーに登録できるカメラは最大4台です。	1ライセンス

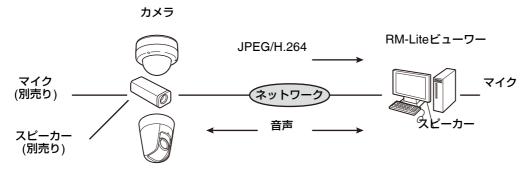
対応カメラ	VB-M700F、VB-M600D、VB-M600VE、VB-M40、VB-C500VD/VB-C500D、VB-C60、VB-C300、VB-C50i/VB-C50iR、VB-C50FSi/VB-C50Fi

重 要

- RM-Liteビューワーを追加する場合は、RM-Lite-V (オプション) をお買い求めください。
- VB-M700F/VB-M600D/VB-M600VE/VB-M40は RM-Lite よりも前のネットワークビデオレコーディングソフトウェアでは使用できません。VK-64/VK-16 など、前のソフトウェアをご使用の場合はRM-Liteに切り換える必要があります。
  詳細は、ホームページをご確認ください。
  製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

メ モ

RM-Liteの使用方法、機能などの詳細情報は、『システム管理者マニュアル』を参照してください。

VB-M700/600/40ビューワーとの比較

RM-Liteビューワーは、カメラ搭載のVB-M700/600/40ビューワーに比べて、以下の違いがあります。

ビューワーの種類	ライブ映像表示	音声
VB-M700/600/40ビューワー	JPEG	カメラからの音声を受信 (片方向通信)
RM-Liteビューワー	JPEG/H.264	音声を送受信 (双方向通信)

VB-M700/600/40ビューワー

カメラに接続したマイクの音声をビューワー側のスピーカーで聞くことができます。

RM-Liteビューワー

カメラとビューワーの間で音声の送受信ができます。

メモ

PCやスピーカー、マイクは別売です。

動作環境

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。
製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

VB初期設定ツール、カメラアングル設定ツール、VB-M700/600/40ビューワー、管理ツール

CPU	Intel Core 2 Duo 2.0GHz 以上
OS	Windows XP Home/Professional SP3 32bit Windows Server 2003 Standard SP2 32bit Windows Server 2003 R2 Standard SP2 32bit Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium SP2 32/64bit Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise/Home Premium 32/64bit Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise/Home Premium SP1 32/64bit Windows Server 2008 Standard SP2 32/64bit Windows Server 2008 R2 Standard 64bit Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64bit
Webブラウザー	Internet Explorer 7.0/8.0/9.0 32bit *1
メモリー	2GB以上
ビューワー用ディスプレイ	1024 x 768 以上
ソフトウェア	.NET Framework 3.5 SP1 *2
音声	カメラの音声機能を使用する場合は、PCの音声サポート機能が必要

*1 JavaScript、XAMLブラウザーアプリケーション、IFRAMEを使用できる設定とすること。
VBビューワーのみCookieが必要。

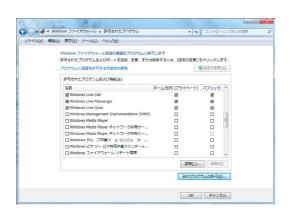
*2 Windows 7、Windows Server 2008 R2以外は別途インストールが必要。ただし、VBビューワーのみ使用する場合は、インストール不要。
.NET Framework 3.5 SP1は、Microsoft のダウンロードセンターからダウンロードしてインストールするか、同梱セットアップCD-ROMの .NET Framework 3.5 インストーラー (Applications フォルダ > DotNetFramework フォルダ > dotnetfx35.exe) から、インストールしてください。
dotnetfx35.exeを起動すると、インストール中に言語パックをインターネットからダウンロードしようとします。
インターネットに接続できない環境では、しばらく待つと言語パックを除いたパッケージがインストールされます。
言語パックがインストールされなくても、動作上の問題はありません。

RM-Lite

動作環境の詳細は、『システム管理者マニュアル』の「動作環境」をご覧ください。

動作環境のご注意

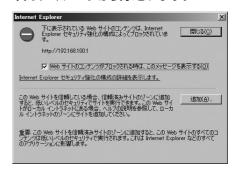
[Windowsファイアウォール] 機能を有効に設定してある場合の注意事項

VB初期設定ツールを起動すると、[Windowsセキュリティの重要な警告] ダイアログが表示されることがあります。
[Windowsセキュリティの重要な警告] ダイアログが表示された場合は、[ブロックを解除する] をクリックしてください。
一度この設定をすると、以降この警告ダイアログは表示されなくなります。
[Windows セキュリティの重要な警告] ダイアログが表示されない場合は、Windowsファイアウォールの警告機能が無効となっている可能性があります。次の手順で、Windowsファイアウォールの例外に [VB 初期設定ツール] を追加してください。

1 **[コントロール パネル] の [システムとセキュリティ]で [Windows ファイアウォール] をクリックする**

2 **[Windowsファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]、[設定の変更]、[別のプログラムの許可] の順にクリックする**

3 **[VB 初期設定ツール] をクリックして選択し、[追加] をクリックする**

Windows Server 2003/Windows Server 2008 およびInternet Explorer 9以降でご使用になる場合の注意事項

■ カメラのトップページを信頼済みサイトとして登録する

Windows Server 2003/Windows Server 2008 および Internet Explorer 9以降では、Internet Explorerにおけるインターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが初期設定で [高] に設定されています。
そのため、VB-M700/600/40ビューワーや設定ページにアクセスすると、コンテンツブロックのダイアログが表示され正常に動作しません。
正常に動作させるには、次の手順で信頼済みサイトに登録してください。

1 **Internet Explorerでカメラのトップページから VB-M700/600/40 ビューワーや設定ページにアクセスする**

次のダイアログが表示されます。

2 **[追加] をクリックする**

[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

3 **[このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする] にチェックがついている場合は外す**

4 **[このWeb サイトをゾーンに追加する] にカメラのIP アドレスを入力し、[追加] をクリックする**

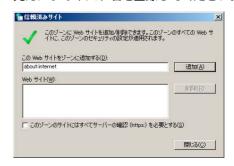
信頼済みサイトへの登録の詳細は、手順1のダイアログで [Internet Explorer セキュリティ強化の構成の詳細を表示します] をクリックし、表示される概要をご覧ください。

なお、コンテンツブロックのダイアログが表示されない場合でも、通常のセキュリティ設定ではJavaScriptが無効化されている場合があり、設定ページやVB-M700/600/40ビューワーの動作が制限されます。信頼済みサイトに登録すると、JavaScriptの設定も自動的に有効になるため、登録をしてください。
コンテンツブロックのダイアログが表示されない場合は、次の手順で [信頼済みサイト] ダイアログを表示できます。

1 **Internet Explorer の [ツール] > [インターネット オプション] メニューから [インターネット オプション] ダイアログを表示する**

2 **[セキュリティ] タブをクリックする**

3 **[信頼済みサイト] をクリックして選択し、[サイト] をクリックする**

[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

以上で、信頼済みサイトの登録が完了です。

Windows Server 2008 でご使用になる場合の注意事項

■ "about:internet" と、カメラのホスト名を登録する

Windows Server 2008 では、IE ESC (Internet Explorer のセキュリティ強化の構成) が有効になっている場合は、管理者ビューワーおよび管理ツールを起動できません。
事前に、Internet Explorerの「ローカル イントラネット」または「信頼済みサイト」に、"about:internet"と、接続先カメラのホスト名を登録してください。

重 要

"about:internet"を登録すると、Windows 7などでInternet Explorerを使用する場合と同等のセキュリティレベルとなります。管理者ビューワー、管理ツールの使用後は、必要に応じて"about:internet" とカメラ名の登録を解除し、元のセキュリティレベルに戻すことをお勧めします。

■ 音声を使用するためにサウンド機能の設定を有効にする

Windows Server 2008の初期設定では、サウンド機能が無効に設定されています。
ビューワーで音声受信をするには、次の手順でサウンド機能を有効にしてください。

1 **[コントロール パネル] の [ハードウェアとサウンド] をクリックする**

メ モ

[コントロール パネル] がクラシック表示の場合、[サウンド] をダブルクリックしてください。

2 **[サウンド] をクリックする**

3 **[オーディオ サービスが実行されていません] というメッセージで [はい] をクリックする**

4 **[サウンド] ダイアログが表示される**
[再生] タブでオーディオデバイスがインストールされていることを確認する (オーディオデバイスがインストールされていない場合はご使用のPCの使用説明書をご確認ください)

Windows Vista/Windows 7でご使用になる場合の注意事項

Windows Vista および Windows 7でご使用になる場合には、次の制限事項があります。

■ 設定ページ、管理ツール

カメラ名など日本語入力箇所でWindows Vista/Windows 7の新文字セットを設定すると、他のPCで正しく文字を表示できない場合があります。Windows Vista/Windows 7の新文字セットは使用しないでください。

メ モ

Windows Vista/Windows 7が対応する「JIS X 0213:2004」文字セットで、第三水準と第四水準の一部の文字について、他のOSで表示できない場合があります。

■ RM-Lite

RM-Liteの動作環境の注意事項については、『システム管理者マニュアル』を参照してください。

2章

カメラの初期設定

カメラ利用開始までの基本的な流れ

カメラの初期設定をする

カメラを設置する前に本章をお読みになり、VB初期設定ツールを使ってIPアドレスを設定してください。

「VB初期設定ツールをインストールする」(P. 2-4)
「カメラの初期設定をする」(P. 2-5)

▼

映像を確認する

初期設定が完了したら、Webブラウザーでカメラにアクセスし、VBビューワーで映像を確認します。

「カメラの映像を確認する」(P. 2-6)

▼

カメラを設置する

利用する環境に合わせてカメラを設置します。

『設置ガイド』

▼

カメラアングルを設定する M700 M600

カメラアングル設定ツールを使って、PCからの操作でカメラアングルを設定します。

「カメラアングル設定ツールをインストールする」(P. 2-4)
「3章 カメラアングル設定ツール」

▼

設定ページからカメラの設定をする

カメラの基本的な設定、ネットワークでの運用方法、ユーザー登録、アクセス制御などについて設定できます。

「5章 設定ページ」

▼

管理ツールを使う

管理ツールを使用すると、可視範囲やプリセットを設定したり、インテリジェント機能を利用するための設定ができます。また、ログを閲覧してカメラの動作状況を確認できます。

「6章 管理ツール」

▼

VB-M700/600/40ビューワーを使う

カメラに搭載されているVB-M700/600/40ビューワーには、管理者向けの管理者ビューワーと、一般ユーザー向けのVBビューワーがあります。VBビューワーを使って一般向けの配信内容を確認し、管理者ビューワーを使ってすべての動作を確認してください。

「7章 管理者ビューワー / VBビューワー」

運用する

エラーメッセージが表示されたり、意図したとおりの動作をカメラがしないときは、エラーメッセージやログメッセージの内容を「8章 付録」でご確認ください。

「8章 付録」

重 要

運用を開始する前に、設定ページと管理ツールでの設定が意図したとおりに動作するか、確認してください。

必要なソフトウェアをインストールする

カメラの初期設定に必要なVB初期設定ツールをインストールします。
M700 M600 設置時のアングル操作に必要となるカメラアングル設定ツールもインストールします。

VB初期設定ツールをインストールする

1 **カメラに同梱されているセットアップCD-ROMの[Applications] フォルダのVBInitInstall.exeをダブルクリックする**

2 **[次へ] をクリックし、画面の指示に従ってインストールする**

インストールが完了すると、デスクトップにアイコンが表示されます。

カメラアングル設定ツールをインストールする M700 M600

1 **カメラに同梱されているセットアップCD-ROMの[Applications] フォルダのAngleInstall.exeをダブルクリックする**

2 **[次へ] をクリックし、画面の指示に従ってインストールする**

インストールが完了すると、デスクトップにアイコンが表示されます。

カメラの初期設定をする

VB初期設定ツールを使って、カメラのネットワークを設定します。

1 カメラとPCをネットワークに接続し、電源を入れる（『設置ガイド』の「カメラを接続する」）

2 VB初期設定ツールを起動する

デスクトップ上の［VB初期設定ツール］のアイコンをダブルクリックして起動します。

ネットワーク接続されたカメラをVB初期設定ツールが自動的に検出し、カメラのMACアドレス、IPアドレス、機種名を表示します。
工場出荷設定では
　IPアドレス：192.168.100.1
に設定されています。MACアドレスはカメラ本体のシールに記載されています（『設置ガイド』の「各部の名称」）。

重 要

- カメラの電源を入れて20分が経過すると、カメラはIPアドレスの割り当て要求を出さなくなり、VB初期設定ツールで検知できません。その場合はカメラの電源を入れ直してください。
- ご使用の動作環境によって、注意事項がある場合があります。初期設定をする前に「動作環境のご注意」(P. 1-8) をご覧ください。
- VB初期設定ツールはルーターを越えた先にあるカメラへの使用はできません。

3 MACアドレスをクリックして選択し、［初期設定］をクリックする

4 ユーザー名「root」と工場出荷設定のパスワード「camera」を入力し、設定するIPアドレスとサブネットマスクを入力する

デフォルトゲートウェイを設定しない場合は［デフォルトゲートウェイを設定する］のチェックを外します。
設定したら［OK］をクリックします。

設定の進行状況がウィンドウで表示されます。

初期設定を行います。
しばらくお待ちください。

メ モ

- 管理者のパスワードは、セキュリティを確保するため、必ず変更してください (P. 4-2)。
- 設定するIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスはシステム管理者にお問い合わせください。

5 ［OK］をクリックする

重 要

IPアドレスをDHCPサーバーから取得する場合は、VB初期設定ツールから設定用PCと通信ができる静的アドレスを一時的に設定し、設定ページの［ネットワーク］で［IPv4］の［IPv4アドレス設定方式］を［自動設定 (DHCP)］に変更してください (P. 5-5)。

カメラの映像を確認する

初期設定が完了したら、カメラの映像をVBビューワーで確認します。このとき、カメラに設定したIPアドレスとサブネットマスクに対応したネットワーク設定を、PC側に設定してください。

1 **動作確認をするカメラのMACアドレスをクリックして選択し、[詳細設定] をクリックする**

2 **Webブラウザーが起動し、カメラのトップページが表示されます。[VB ビューワー] をクリックする**

ビューワーが起動してカメラの映像が表示されます。

カメラのトップページが表示されないときや、VBビューワーが起動できないときは、「8章 付録」の「トラブルシューティング」(P. 8-6)を参照してください。

重 要

- カメラに設定したIPアドレスとサブネットに対応したネットワーク設定がPCに行われるまで、カメラの映像は確認できません。
- [詳細設定] から設定ページを開く場合は、カメラのHTTPポートを80から変更しないでください。HTTPポート番号の設定については、「HTTPサーバー」(P. 5-19) を参照してください。

3章

カメラアングル設定ツール M700 M600

❏ カメラアングルの設定方法
❏ 複数のカメラを管理するカメラ指定ファイルの作成

カメラアングルを設定する

カメラ設置時のカメラアングル調整、およびカメラ設置後、何らかの事情で撮影方向を変更する場合などに、カメラアングル設定ツールをご使用ください。
M700 ズーム、フォーカス、露出補正を設定できます。
M600 パン、チルト、ローテーション、ズーム、フォーカス、露出補正を設定できます。

重 要

- カメラアングル設定ツールは、カメラ設置調整用として同梱しており、日常的な利用は想定していません。多用するとカメラが故障する原因になります。
- カメラアングル設定ツールを使って設定を変更した後は、設定ページと管理ツールでの設定が意図したとおりに動作するか、確認してください。
- カメラアングル設定ツールは、プロキシサーバー経由では使用できません。
- カメラアングル設定ツール接続中は、アップロード機能を使用できません。

カメラアングル設定ツールを起動する

1 デスクトップの [カメラアングル設定ツール] アイコンをダブルクリックする

カメラアングル設定ツールが起動します。

カメラに接続する

1 [ファイル] メニューの [接続] をクリックする

[接続先カメラの指定] ダイアログが表示されます。

2 接続先カメラの各項目を入力して [OK] をクリックする

[ホスト名]
カメラのホスト名またはIPアドレスを入力します (P. 2-5)。

[管理者ユーザー名]
カメラの管理者ユーザー名を入力します (P. 2-5)。

[管理者パスワード]
カメラの管理者パスワードを入力します (P. 2-5)。

[SSL通信を使用する]
SSL通信でカメラに接続する場合にチェックします。通常はSSL通信を使用しない設定 (工場出荷設定) になっています (P. 5-29)。

[ポート番号]
カメラのHTTPポート番号を、80、443、1024～65535の範囲で設定します。通常は [80] (工場出荷設定) になっています (P. 5-19)。

3 次のメッセージで［はい］をクリックする

メモ

カメラアングル設定ツールでカメラに接続すると、そのカメラに接続しているビューワーや録画ソフトは切断されます。

接続したカメラのライブ映像が表示され、カメラアングルの設定が可能になります。

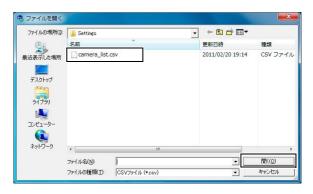
重要

- 1つのカメラに接続可能な時間は30分までに制限されています。30分経過すると自動的に切断されますので、カメラアングルの設定が完了していない場合は、再度接続してください。
- 複数のPCからカメラアングル設定ツールを使って1つのカメラに同時に接続することはできません。

カメラリストを使って接続する

複数のカメラを使用しているときは、あらかじめカメラの接続情報をカメラ指定ファイルに記述して、カメラアングル設定ツールのカメラリストに読み込むことができます。複数のカメラの情報を入力することなく簡単に接続できます。カメラ指定ファイルの作成方法は、「カメラ指定ファイルを作成する」（P. 3-8）を参照してください。

■ カメラ指定ファイルの読み込み

1 ［ファイル］メニューの［カメラ選択］をクリックする

［カメラ選択］ダイアログが表示されます。

2 ［カメラ指定ファイルの読み込み］をクリックする

3 カメラ指定ファイルを選択し、［開く］をクリックする

カメラ指定ファイルが読み込まれ、記述されているカメラ名が［カメラリスト］に表示されます。

メモ

- [カメラ選択] ダイアログは、カメラアングル設定ツールを終了するか、ダイアログ右上の X をクリックしない限り、常に表示されています。
- カメラリストは、カメラアングル設定ツールを終了した時点で破棄されます。次回カメラアングル設定ツール起動時に、カメラ指定ファイルの読み込みを行ってください。

■ カメラに接続する

接続するカメラをカメラリストから選択し、[接続] をクリックしてください。

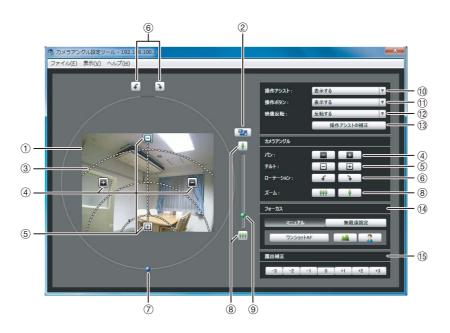
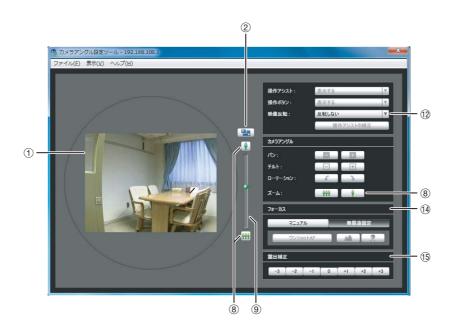
■ リスト上の次のカメラに接続する

[次へ] をクリックすると、接続中のカメラとの接続が切断され、リスト上の次のカメラに接続します。

メモ

[詳細情報]には、カメラリストで選択中のカメラ情報が表示されます。

カメラとの接続を切断、終了する

1 **[ファイル] メニューの [切断] をクリックして、接続中のカメラとの接続を切断する**

2 **[ファイル] メニューの [終了] をクリックして、カメラアングル設定ツールを終了する**

カメラアングル設定ツールの表示画面について

M600

M700

① **映像表示部**
カメラの映像を表示します。

② **[画面サイズ切換] ボタン**
表示画面サイズを「320x240」または「640x480」に切り換えます。表示画面サイズは、[表示] メニューの [表示画面サイズ] で選択することもできます。

③ **操作アシスト** M600
パン操作とチルト操作が可能な範囲を点線で示しています。点線がない位置へカメラアングルを変更することはできません。

④ **[パン] ボタン** M600
カメラのパンを操作します。

⑤ **[チルト] ボタン** M600
カメラのチルトを操作します。

⑥ **[ローテーション] ボタン** M600
カメラのローテーションを操作します。

⑦ **[ローテーション] スライダー** M600
スライダー上をクリック、または、つまみをドラッグしてカメラのローテーションを操作します。

⑧ [ズーム] ボタン
ズーム倍率の操作をするボタンです。

⑨ [ズーム] スライダー
ズーム倍率の操作をするスライダーです。

⑩ [操作アシスト] 選択ボックス M600
映像表示部に操作アシストを [表示する] 、[表示しない] から選択します。

⑪ [操作ボタン] 選択ボックス M600
映像表示部に [パン] ボタンと [チルト] ボタンを [表示する] 、[表示しない] から選択します。

⑫ [映像反転] 選択ボックス
カメラの映像の向きを選択します。
[反転する] を選択すると、映像を180度回転して表示します。

⑬ [操作アシストの補正] M600
カメラの向きを手で動かしたときなど、操作アシストの表示が実際のカメラアングルと一致しないときがあります。その場合は、[操作アシストの補正] をクリックすることで、実際のカメラアングルを確認する動作が行われ、操作アシストの表示位置が自動的に補正されます。なお、操作アシストの補正には、1分程度かかります。

⑭ [フォーカス]
フォーカスを操作します。

⑮ [露出補正]
露出を操作します。

重 要
カメラアングル設定ツールで設定を変更した場合、インテリジェント機能の検知領域とプライバシーマスクを設定し直す必要があります。

カメラアングルを設定する

M600 パン、チルト、ローテーション、ズームを操作して任意のカメラアングルに設定できます。
M700 ズーム操作のみ行えます。

■ 操作ボタンとスライダーで設定する M600

[パン]、[チルト]、[ローテーション] の各ボタンをクリックしてカメラアングルを設定します。ボタンを押している間、その方向にカメラアングルが変わり、ボタンを離すと停止します。

  パン (左右) 操作

  チルト (上下) 操作

  ローテーション (傾き) 操作

[ローテーション] スライダーでローテーションを設定するときは、スライダーをドラッグし、映像内の対象物が水平になる角度でマウスボタンを放します。

▼

■ 映像をクリックして設定する M600

映像上の任意の位置をクリックすると、その位置が画面の中心になるように、カメラアングルが移動します。
ただし、クリックした位置が、パンまたはチルトの範囲を超える場合は、パンまたはチルトのいずれか移動可能なほうだけが移動します。

メ モ
カメラが操作と異なる動きをしたり、操作アシストで示されている範囲まで設定できないときは、操作アシストが実際のカメラアングルと一致していない可能性があります。[操作アシストの補正] をクリックして補正してから、再度カメラアングルを設定してください。

■ カメラのズーム倍率を変更する

カメラのズーム倍率は、[ズーム] ボタン、または [ズーム] スライダーで設定します。

[ズーム] ボタン
押し続けると動作し、放すと停止します。

 ズームイン します。

 ズームアウト します。

[ズーム] スライダー
スライダーをドラッグします。スライダーの位置にあわせてカメラのズーム倍率が変わります。

フォーカスと露出補正を設定する

■ フォーカスを設定する

フォーカスは、マニュアル操作で任意の位置に合わせるか、無限遠に固定します。マニュアル操作時は、ワンショットAF機能を使用して対象物にフォーカスを合わせることができます。

[マニュアル] :
(遠) (近) のボタンを押し続けることで、フォーカスを調整できます。
[ワンショットAF] をクリックすると、一時的にオートフォーカスが作動し、フォーカスが合った後にマニュアル操作に戻ります。
[無限遠固定] :
無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

メ モ

- 次のような被写体は、ワンショット AF ではフォーカスが合いにくいことがあります。

フォーカスが合いにくい被写体

白い壁など明暗の差がないもの

斜めになっているもの

強い光が反射しているもの

斜め線や横縞のみのもの

炎や煙など実体のないもの

ガラス越しのもの

動きが速いもの

暗いところや夜景

遠くと近くに同時にある

- カメラの再起動後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。
- フォーカスの合う範囲 (目安) は次の表の通りとなります。

フォーカスモード	デイナイト設定	
	デイモード	ナイトモード
	0.3 m〜∞	1.0 m〜∞
無限遠固定	無限遠近傍※	

※赤外照明使用時には、フォーカスが合わなくなる場合があります。

■ 露出補正を設定する

映像の明るさを7 段階 (-3 〜 +3)で設定できます。

映像を暗くしたい場合はマイナスの値を、明るくしたい場合はプラスの値を選択してください。

メ モ

- カメラの露出モード (P. 7-15) が [マニュアル] に設定されていた場合は、[オート] に変更されます。
- カメラアングル設定ツールで設定した露出補正値は、カメラを再起動するとリセットされます。設定メニューの [カメラ] − [起動時設定] の [露出補正] (P. 5-9) には反映されません。

カメラ指定ファイルを作成する

カメラへの接続情報を記述したカメラ指定ファイルを作成しておくと、[カメラ選択] ダイアログ (P. 3-3) のカメラリストに読み込めます。複数のカメラを使用していても、簡単な操作でカメラの接続が切り換えられます。
カメラ指定ファイルは、あらかじめテキストエディターなどで作成し、csv形式ファイルとして保存しておきます。

■ カメラ指定ファイルの記述内容

カメラ指定ファイルの1行目に、ヘッダー行として各列のタイトルを記述します。
2行目以降に、1行につき1台のカメラの情報を記述します。
各列には、次の情報を記述します。

列	記述内容
登録名	カメラの名前。接続時にカメラリストに表示されます。
ホスト名	カメラのホスト名またはIPアドレス
ポート番号	カメラのHTTPポート番号 (工場出荷設定は80)
管理者ユーザー名	カメラの管理者ユーザー名 (工場出荷設定はroot)
管理者パスワード	カメラの管理者パスワード (工場出荷設定はcamera)
SSL通信の有無	SSL通信を使用する：1　　使用しない：0 (工場出荷設定は0)

	登録名	ホスト名	ポート番号	管理者 ユーザー名	管理者 パスワード	SSL通信 の有無
	↓	↓	↓	↓	↓	↓
1行目 ヘッダー行 →	RegisterName	HostName	PortNumber	UserName	Password	ConnectType
2行目以降 1行につき1台 のカメラ情報 (30台まで)	B1F VB-M700F	192.168.100.1	80	root	camera1	0
	1Fa VB-M600VE	192.168.100.2	80	root	camera2	0
	1Fb VB-M600D	192.168.100.3	80	root	camera3	0
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

重 要

登録できるカメラの台数は30台までです。30台以上のカメラ情報を記述すると、カメラアングル設定ツールでの読み込み時にエラーになります。

■ テキストエディターでの入力例

各項目をカンマで区切って入力します。保存の際に拡張子を「.csv」にしてください。

```
RegisterName,HostName,PortNumber,UserName,Password,ConnectType
B1F VB-M700F,192.168.100.1,80,root,camera1,0
1Fa VB-M600VE,192.168.100.2,80,root,camera2,0
1Fb VB-M600D,192.168.100.3,80,root,camera3,0
2Fa VB-M600D,192.168.100.4,80,root,camera4,0
2Fb VB-M600D,192.168.100.5,80,root,camera5,0
3Fa VB-M700F,192.168.100.6,80,root,camera6,0
R VB-M600VE,192.168.100.7,443,root,camera7,0
```

重 要

- カメラ指定ファイルには、管理者パスワードをそのまま記述します。カメラ指定ファイルの取り扱いには十分ご注意ください。
- カメラ指定ファイルの記述内容がセミコロンなどカンマ以外で区切られている場合、または記述内容に空の行が含まれている場合は、カメラ指定ファイルの読み込み処理は行われません。

4章

カメラのトップページについて

カメラのトップページにアクセスする

カメラのトップページからは、カメラの詳細設定を行う設定メニューへの移動、管理ツールの起動、映像を表示するためのビューワーの表示ができます。

1 **Webブラウザーを起動する**

2 **初期設定ツールで設定したIPアドレスを入力する**

> **重 要**
> この『操作ガイド』では、IPアドレス"192.168.100.1" (工場出荷設定) を用いて操作の説明をします。実際には、お客様がカメラに設定したIPアドレスを入力してください。

カメラのトップページが表示されます。

① **言語切り換えボタン**
表示言語を切り換える場合にクリックします。
クリックした言語のトップページが表示されます。

② **設定ページ (設定メニュー) へのリンク**
カメラの詳細設定をするときにクリックします。詳細は「5章 設定ページ」を参照してください。

③ **管理ツールへのリンク**
管理ツールを使用するときにクリックします。詳細は「6章 管理ツール」を参照してください。

④ **管理者ビューワー起動リンク**
管理者ビューワーにアクセスするときにクリックします。詳細は「7章 管理者ビューワー / VBビューワー」を参照してください。

⑤ VBビューワー起動リンク
VBビューワーにアクセスするときにクリックします。詳細は「7章 管理者ビューワー / VBビューワー」を参照してください。

ユーザー認証

[設定ページ] 、[管理ツール] 、[管理者ビューワー] を使用するには、ユーザー認証が必要です。

設定ページの認証画面

管理ツール/管理者ビューワーの認証画面

工場出荷設定のユーザー名とパスワードは次の通りです。
ユーザー名 : root　　パスワード : camera
(ユーザー名「root」は、カメラの管理者アカウントです。)

> **重 要**
> - システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは必ず変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
> - 同じPCを管理者と登録ユーザーが共有してVBビューワーを使用する場合には、[資格情報を記憶する] のチェックを入れないことを強くお勧めします。
> - ユーザー名またはパスワードの入力を間違えた場合、カメラへの接続ができません。正しいユーザー名およびパスワードを入力して接続してください。
> - 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、リセットスイッチを押して工場出荷設定に戻してください (P. 8-18) 。ただし、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。
> - 管理ツールと管理者ビューワーは、IPv6アドレス指定では使用できません。IPv6接続はホスト名指定にのみ対応します。

証明書の登録

[管理ツール] および [管理者ビューワー] を利用するPCには、Canon Inc.発行の証明書を2つ登録しておく必要があります。証明書はセットアップCD-ROMに収録されていますので、次の手順で証明書をInternet Explorerに登録してください。

1 **カメラに同梱されているセットアップCD-ROMの [Applications] > [Certificate] フォルダにあるadmintools1をダブルクリックする**

[証明書] ダイアログが表示されます。

2 **[証明書のインストール] をクリックする**

3 **[証明書のインポート ウィザード] で [次へ] をクリックする**

4 **[証明書ストア] 画面で、次の手順で証明書を登録する**

(1) **[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択します。**

(2) **[参照] をクリックし、[中間証明機関] を選択したら、[OK] をクリックします。**

(3) **[次へ] をクリックします。**

5 **[完了] をクリックして証明書インポートウィザードを終了する**

証明書の登録が完了すると「正しくインポートされました」と表示されます。

6 **[Applications] > [Certificate] フォルダにあるadmintools2をダブルクリックする**

[証明書] ダイアログが表示されます。

メ モ

2011/07/17以降の日時が設定されたPCでは、次の画面が表示されますが、そのまま登録を継続しても問題はありません。

7 **[証明書のインストール] をクリックする**

8 **[証明書のインポート ウィザード] で [次へ] をクリックする**

9 **[証明書ストア] 画面で、次の手順で証明書を登録する**

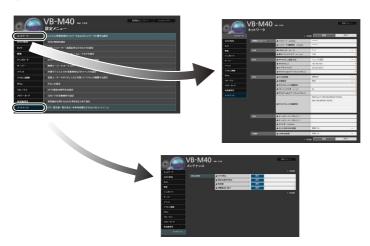
(1) **[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択します。**

(2) **[参照] をクリックし、[信頼された発行元] を選択したら、[OK] をクリックします。**

(3) **[次へ] をクリックします。**

10 **[完了] をクリックして証明書インポートウィザードを終了する**

証明書の登録が完了すると「正しくインポートされました」と表示されます。

5章

設定ページ

- ❏ 管理者パスワードとネットワークの詳細設定
- ❏ カメラの日付と時刻の設定
- ❏ カメラ名と起動時設定に関する設定
- ❏ 映像の品質とサイズの設定
- ❏ アップロードとメール通報の設定
- ❏ 映像/オーディオ/HTTPサーバーの設定
- ❏ イベントに関する設定
- ❏ ユーザーの登録と権限、アクセス制御の設定
- ❏ IPsecの設定
- ❏ HTTP通信の暗号化 (SSL/TLS) の設定
- ❏ SDメモリーカードの操作と情報の表示
- ❏ 再起動が必要となる項目の設定
- ❏ メンテナンス (ログや設定内容の表示/再起動/工場出荷設定)

設定メニューについて

設定メニューを起点として各設定ページへ移動し、カメラのさまざまな設定ができます。
各設定ページで設定できる内容は、次の通りです。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

設定メニュー

- **ネットワーク**
  管理者パスワード、LAN、IPv4、IPv6、DNS、SNMPの設定 (P. 5-5)
- **日付と時刻**
  カメラの日付と時刻の設定、タイムゾーンの設定 (P. 5-8)
- **カメラ**
  カメラ名、起動時設定、デイナイト、外部入力デバイス名、外部出力デバイス名の設定 (P. 5-9)
  M700
  設置条件 (P. 5-9)
  M40
  カメラ制御、設置条件、カメラ位置制御 (P. 5-9)
- **映像**
  起動時設定、JPEGおよびH.264における映像品質、映像サイズ、フレームレート、オンスクリーン表示の設定 (P. 5-13)
- **アップロード**
  HTTP、FTPでのアップロードの設定、メール通報の設定 (P. 5-15)
- **サーバー**
  映像サーバー、オーディオサーバー、HTTPサーバーの設定 (P. 5-18)
- **イベント**
  映像バッファ、音量検知、外部デバイス入力、タイマー、再生音ファイル登録 (P. 5-20)
- **アクセス制御**
  登録ユーザーアカウント、ユーザー権限、ホストアクセス制限の設定 (P. 5-23)
- IPsec
  IPsecの設定 (P. 5-25)
- SSL/TLS
  証明書の作成および管理、暗号通信の設定 (P. 5-28)
- **メモリーカード**
  SDメモリーカードの操作と情報の表示 (P. 5-30)
- **再起動項目**
  再起動が必要となる項目の設定 (再起動項目) (P. 5-32)
- **メンテナンス**
  表示と実行 (ログの表示、現在の設定の表示、再起動、初期設定に戻す) (P. 5-33)

重 要

Windows 7/Vista/XPでご使用いただく場合の注意事項

- [Windowsセキュリティの重要な警告] ダイアログが表示された場合は、[アクセスを許可する] をクリックしてください。一度設定すると、以降この警告ダイアログは表示されなくなります。
- メンテナンスページの [イベントログを見る] または [現在の設定を見る] を表示しようとした際に情報バーが表示され、ポップアップがブロックされている場合には、情報バーの手順に従ってポップアップを許可する設定にしてください。

設定メニューにアクセスする

カメラのさまざまな設定は、Webブラウザーからカメラにアクセスして行います。まずはカメラのトップページにアクセスしてください (P. 4-2) 。
ユーザー名とパスワードの入力については、P. 4-2 を参照してください。

設定メニューについて

設定メニューからは、各設定ページや管理者ビューワーへアクセスできます。

① **[管理者ビューワーへ]**
クリックすると管理者ビューワーに移動します。

② **[トップページへ]**
クリックするとカメラのトップページに移動します。

③ **設定メニュー**
クリックすると各設定ページに移動します。

重 要
セキュリティを確保するため、設定ページによる設定が完了したら、Webブラウザーを終了してください。

各設定ページ共通項目

■ 設定変更の適用について

各設定ページ内で設定の変更を行うと、各設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、グレーアウトから青色に変わります。

変更した設定を有効にするには、[適用] をクリックしてください。
変更した設定を戻す場合は、[クリア] をクリックしてください。

■ 再起動が必要な設定変更

設定を変更するために、カメラを再起動させる必要がある設定項目には、オレンジのマークが付いています。

オレンジのマークがある項目を変更した場合、各設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、[適用して再起動] に変わります。

変更した設定を確定するには、[適用して再起動] をクリックしてください。設定変更が反映され、カメラが再起動します。
変更した設定を戻す場合は、[クリア] をクリックしてください。

重 要
[適用] または [適用して再起動] をクリックせずに別の設定ページへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更した設定を有効にするには、必ず [適用] または [適用して再起動] をクリックしてください。

■ 設定メニューに戻る

各設定ページから設定メニューに戻る場合は、各設定ページ右上の [設定メニューへ] をクリックしてください。

VB-M40 Ver. 1.0.0　設定メニューへ

重 要

- 1 つのカメラに対しては、同時に複数の設定ページを開いて変更操作を行わないでください。
- Webブラウザーの [戻る]・[進む] ボタンによる設定ページ間の移動は行わないでください。変更した設定が元に戻ってしまうことや、意図しない変更がされてしまう可能性があります。

メ モ

設定ページの各項目先頭にある [Help] をクリックすると、設定項目の詳細説明が表示されます。

[ネットワーク]
管理者パスワードやLAN、IPアドレス、DNSなどの設定

ここでは次の設定ができます。

- **管理者パスワード**
  管理者パスワードを設定します。
- LAN
  IPアドレスなどLANの接続に必要な設定を行います。
- IPv4
  IPv4アドレスを設定します。
- IPv6
  IPv6アドレスを設定します。
- DNS
  ネームサーバーアドレス、ホスト名、DDNS登録を設定します。
- SNMP
  SNMPの使用に必要な設定を行います。

管理者パスワード

❶ パスワード 8文字以内	********
❷ パスワード（確認用） 8文字以内	********

① **[パスワード]**
管理者パスワードを設定します。8文字以内 (半角) の ASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。工場出荷設定は「camera」です。管理者ビューワーや管理ツールなどが接続している場合は、接続を終了してからパスワードを変更してください。

② **[パスワード (確認用)]**
上と同じパスワードを確認のため入力します。

重 要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは必ず変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、リセットスイッチを押して工場出荷設定に戻してください (P. 8-18) 。**ただし、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。**

LAN

❶ LANインターフェース	オート
❷ 最大パケットサイズ 576〜1500	1500

① **[LANインターフェース]**
[オート] 、[全二重] 、[半二重] から選択します。通常は [オート] をご使用ください。

② **[最大パケットサイズ]**
一度に送信するパケットの最大サイズを入力します。通常は1500から変更する必要はありません。

重 要

- [LANインターフェース] 、[最大パケットサイズ] の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。「[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定」の「重要」(P. 5-32) に記載している注意事項を事前にご確認ください。
- IPv6をご使用の場合は、[最大パケットサイズ] を1280以上に設定してください。

メ モ

- 光回線/ADSLをご利用の際に、最大パケットサイズの数値を少し下げて設定いただくと送信効率が上がる場合があります。

IPv4

❶ IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定
❷ IPv4アドレス	192.168.100.1
❸ サブネットマスク	255.255.255.0
❹ IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	

① **[IPv4アドレス設定方式]**
アドレス設定方式を [マニュアル設定] または [自動設定 (DHCP)] から選択します。[マニュアル設定] を選択した場合は、使用する環境にあわせた値を、直接入力してください。[自動設定 (DHCP)] を選択した場合は、[IPv4アドレス] 、[サブネットマスク] 、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] にはDHCPサーバーから自動的に取得した値が用いられます。

② **[IPv4 アドレス]**
①が [マニュアル設定] の場合、固定のIPアドレスを入力します。

③ **[サブネットマスク]**
①が [マニュアル設定] の場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

④ [IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]
①が [マニュアル設定] の場合に入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続するときは、必ず設定してください。

重 要

- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。
- 127.0.0.1 のように 127. から始まるIPアドレスは、カメラのIPアドレスとして設定できません。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] の設定に、いずれか誤りがある場合、ネットワーク経由でアクセスできなくなることがあります。この場合は「カメラの初期設定をする」(P. 2-5) を参照し、VB初期設定ツールを用いて再度アドレスを設定してください。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。「[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定」の「重要」(P. 5-32) に記載している注意事項を事前にご確認ください。
- IPv4アドレス設定を [自動設定 (DHCP)] でご使用の場合、DHCPサーバーとカメラの間にルーターがあるような環境では、IPv4アドレスが正しく割り振られない場合があります。その場合は、[マニュアル設定] から固定のIPv4アドレスを割り振ってください。

メ モ

- [自動設定 (DHCP)] で割り付けられたIPv4アドレスは、VB初期設定ツールで確認できます。

IPv6

① IPv6の使用	使用する
② 自動設定	有効
③ IPv6アドレス（手動設定）	
④ プレフィックス長 16~128	64
⑤ IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
⑥ IPv6アドレス（自動設定）	fe80::200:85ff:fe01:f1b3/64

① [IPv6の使用]
IPv6の使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。

② [自動設定]
アドレスを自動で設定する場合は [有効] 、自動で設定しない場合は [無効] を選択します。

③ [IPv6 アドレス (手動設定)]
固定のIPv6アドレスを入力します。

④ [プレフィックス長]
②が [無効] の場合、プレフィックス長を、16～128の間で入力します。

⑤ [IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス]
②が [無効] の場合、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続するときは、必ず設定してください。

⑥ [IPv6 アドレス (自動設定)]
①が [使用する] で、②が [有効] の場合、自動的に取得したアドレスが表示されます。

重 要

- [IPv6 アドレス (手動設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。
- [IPv6の使用]、[IPv6 アドレス (手動設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス] の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。「[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定」の「重要」(P. 5-32) に記載している注意事項を事前にご確認ください。

メ モ

- IPv6が使用できない環境では、IPv6を [使用する] 、自動設定を [有効] に設定した場合、[IPv6アドレス (自動設定)] 表示欄にはリンクローカルアドレスのみが表示されます。

DNS

① ネームサーバーアドレス 1	
① ネームサーバーアドレス 2	
② ホスト名 63文字以内	
② ホスト名のDDNS登録	登録しない

① [ネームサーバーアドレス 1～2]
登録したいネームサーバーアドレスを入力します。一つしか登録しないときは、[ネームサーバーアドレス 2] は空欄のままにしてください。

② [ホスト名のDDNS登録]
[登録する] を選択し、ネームサーバーアドレスとカメラのホスト名を入力します。ネームサーバーにカメラのホスト名を登録できます。
63文字以内 (半角) のA-Z、a-z、0-9、-、_、.、の文字が使用できます。

重 要

Internet Explorer 8 では、[ホスト名] に「_」(アンダースコア) を使用しないでください。

メ モ

- カメラを [自動設定 (DHCP)] (P. 5-5) で運用する場合に登録すると便利です。あらかじめDNSサーバーに登録を行うための設定が必要です。DNSサーバーの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- ネームサーバーアドレス1が利用できない場合は、ネームサーバーアドレス2にアクセスします。ただし、ネームサーバーアドレス2が事前に設定されていることが前提です。

SNMP

❶ SNMPの使用	使用する
❷ コミュニティ名 31文字以内	public
❸ 管理者連絡先 63文字以内	
❹ 管理用の機器名称 31文字以内	VB-M40
❺ 設置場所 31文字以内	

① [**SNMPの使用**]
SNMPの使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。[使用する] を選択すると、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

② [**コミュニティ名**]
SNMPのコミュニティ名を設定します。システムのセキュリティを確保するため、コミュニティ名は変更して運用することをお勧めします。

③ [**管理者連絡先**]
カメラの管理者連絡先 (メールアドレスなど) を設定します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

④ [**管理用の機器名称**]
カメラの管理用機器名称を設定します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。
空白にすると次の規定値が適用されます。
M700　VB-M700
M600　VB-M600
M40　VB-M40

⑤[**設置場所**]
カメラの設置場所の情報を設定します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

メ モ

- SNMPマネージャーからは、カメラの情報は読み取り専用です。
- SNMP MIB2 (RFC1213対応) がサポートされているSNMPマネージャーをお使いください。
- SNMPプロトコルバージョン、v1、v2c 対応 (v3非対応) です。

[日付と時刻] 日付と時刻の設定

ここでは次の設定ができます。

- **現在の日付と時刻**
  カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。
- **設定**
  カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーンを選択します。

現在の日付と時刻

項目	値
日付 yyyy/mm/dd	2011/02/15
時刻 hh:mm:ss	00:04:41

[日付] 、[時刻]
現在、カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。

設定

項目	値
設定方法	手動で設定する
日付 yyyy/mm/dd	2011/02/15
時刻 hh:mm:ss	00:04:41
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

① **[設定方法]**
[手動で設定する] 、[NTPサーバーに合わせる] 、[NTPブロードキャストモードを使用する] 、[このコンピューターに合わせる] から選択します。

② **[日付] 、[時刻]**
[設定方法] の選択によって、次の設定をします。

[手動で設定する]
任意の日付と時刻に設定できます。日付は<年/月/日>、時刻は24時間制で<時間:分:秒>の順に入力します(月、日、時刻は2桁の数字) 。
例:2011年8月23日午後1時23分4秒は、「2011/08/23」・「13:23:04」と入力します。

[NTPサーバーに合わせる]
NTPサーバーの時刻に合わせます。NTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力してください。

項目	値
設定方法	NTPサーバーに合わせる
NTPサーバー 63文字以内	
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

[NTPブロードキャストモードを使用する]
NTPサーバーの時刻に合わせます。NTPサーバーが送信したNTPブロードキャストを受信して時刻を合わせます。

項目	値
設定方法	NTPブロードキャストモードを使用する
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

[このコンピューターに合わせる]
現在カメラにアクセスしているコンピューターの日付、時刻に合わせます。タイムゾーンも自動的に選択されます。

項目	値
設定方法	このコンピューターに合わせる
日付 yyyy/mm/dd	2011/02/19
時刻 hh:mm:ss	14:09:02
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

③ **[タイムゾーン]**
グリニッジ標準時との時差をリストから選択します。

メ モ

- [このコンピューターに合わせる] を選択した場合、[適用] をクリックして設定を適用した後は、[設定方法] の表示が [手動で設定する] になります。
- [NTPサーバーに合わせる] を選択した場合、NTPサーバーのIPアドレスが正しくないなど、NTPサーバーと接続できないときは、日付と時刻は変更されません。
- カメラのNTPブロードキャストモードはIPv6に対応しておりません。
- [タイムゾーン] を変更すると、指定したタイムゾーンにあわせて日付と時刻の表示を自動的に変更します。

[カメラ] カメラの起動時設定や外部デバイス名の設定

ここでは次の設定ができます。

- **カメラ名**
  カメラ名を入力します。RM-Liteを併用する際に必要となります。
- **起動時設定**
  カメラ起動時の撮影条件を設定します。
- **カメラ制御** M40
  デジタルズームやブレ補正を設定します。
- **デイナイト**
  デイナイトの切り換えモードを設定します。
- **設置条件** M700 M40
  LEDの点灯など、カメラの設置条件を設定します。
- **カメラ位置制御** M40
  カメラのパン・チルト・ズーム操作について、事前に登録したプリセット位置への限定の有無を設定します。また、制御権要求がない場合の動作を設定します。
- **外部デバイス名**
  外部入力デバイス名、外部出力デバイス名を設定します。

カメラ名

カメラ名（半角英数字） 15文字以内	Camera
カメラ名（日本語） 15文字以内	

[カメラ名]

[カメラ名 (半角英数字)] は必ず入力してください。[カメラ名 (日本語)] が無指定の場合は、[カメラ名 (半角英数字)] が用いられます。
[カメラ名 (半角英数字)] には15文字以内のASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。
[カメラ名 (日本語)] には15文字以内のJIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

メ モ

- カメラ名 (日本語) に使用できる文字数は、全角・半角に関係なく15文字です。
- 同梱のRM-Liteをご利用の場合、カメラ登録時にここで設定したカメラ名が表示されます。

起動時設定

AEモード	オート
スローシャッター	使用しない
露出補正	0
測光方式	中央部重点
フォーカスモード	オート
スマートシェード補正	使用しない
ホワイトバランス	オート

① [AEモード] と [スローシャッター] 、[シャッタースピード]
カメラ起動時の露出制御とシャッタースピードを設定します。

[AEモード]

[オート]
自動的に露出を制御します。
[オート (フリッカーレス)]
蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減するモードです。使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードが自動的に調整されます。
[オート (シャッター優先)]
シャッタースピードを指定できるモードです。

[スローシャッター]

スローシャッターは [AEモード] を [オート] に選択した場合のみ設定できます。
暗いシーンの撮影時に自動露出モードで使用する最長のスローシャッター時間を設定します。[使用しない] 、[1/15] 、[1/8] から選択します。シャッター時間を長くするほど、動きのある被写体では残像が発生しますので撮影シーンに合った適切な時間を選択してください。

AEモード	オート(シャッター優先)
シャッタースピード	1/100

[シャッタースピード]

シャッタースピードは [AEモード] を [オート (シャッター優先)] に選択した場合のみ設定できます。
カメラのシャッタースピードを [1/8] から [1/8000] まで12段階の設定から選択します。動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで、像ブレの少ない映像表示が可能になります。

② [露出補正]
カメラ起動時の露出補正を-3から3の範囲で設定します。映像を明るめにするときはプラスの値を、暗めにするときはマイナスの値を設定します。

③ **[測光方式]**

カメラ起動時の測光方式を設定します。

[中央部重点]
画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光する方式です。
画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。
被写体が画面中央付近の場合にご使用ください。

[平均]
画面全体を平均して測光する方式です。
画面内の明暗差が大きい撮影環境でも安定した露出が得られます。
車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合にご使用ください。

[スポット]
画面中央部を測光する方式です。
画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。
被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときにご使用ください。

④ **[フォーカスモード]** M40

カメラ起動時のフォーカスモードを設定します。

[オート]
自動的にピントを合わせます。通常は [オート] を選択してください。

[無限遠固定]
無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

⑤ **[スマートシェード補正]**

カメラ起動時のスマートシェードの補正の設定を [使用しない] 、または補正の強弱を [1] (弱)～ [7] (強)の7段階から選択します。

⑥ **[ホワイトバランス]**

自然な色合いの映像になるように光源に応じたホワイトバランスを選択します。

[オート]
自動的にホワイトバランスを調整します。

[マニュアル]
光源に合わせてRedとBlueのゲイン値を設定します。[Rゲイン] 、[Bゲイン] をそれぞれ0～1023の数値で入力します。

ホワイトバランス	マニュアル
Rゲイン 0～1023	255
Bゲイン 0～1023	255

[蛍光灯 昼光色]
昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 白色]
昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 暖色]
暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[水銀灯]
水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ナトリウム灯]
オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ハロゲン灯]
ハロゲン電球、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

重 要

- 起動時設定の①から⑥の項目は、カメラ起動時の初期値です。カメラの電源を再投入した場合やカメラを再起動した場合に、変更した設定が反映されます。
  実際の運用時の設定は、管理者ビューワーで設定してください (P. 7-12) 。
- 信号機、電光掲示板などの被写体を撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。
  [AEモード] を [オート (シャッター優先)] に変更して、1/100より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。
- M40 室内から窓ガラス越しに屋外を撮影するような条件では、ガラス面に塵や水滴が付着していると、ガラス面にピントが合ってしまう場合があります。ガラス面とカメラをなるべく短い距離 (30cm以内) で設置してご使用ください。

メ モ M40

- フォーカスが合いにくい被写体については、P. 3-7の「フォーカスが合いにくい被写体」を参照してください。
- フォーカスの合う範囲 (目安) は [デイナイト] (P. 5-11) などの設定により、次の表の通りとなります。

フォーカスモード	ドーム設定	デイナイト設定			
		デイモード		ナイトモード	
		ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端
オート	使用しない	0.3 m～∞	1.0 m～∞	1.0 m～∞	1.5 m～∞
	使用する	2.0 m～∞		1.0 m～∞	2.2 m～∞
無限遠固定	使用しない/する	無限遠近傍 ※			

※ 赤外照明使用時には、フォーカスが合わなくなる場合があります。

カメラ制御 M40

デジタルズーム	使用しない
ブレ補正	使用しない

① [デジタルズーム]
デジタルズームを、[使用する] または [使用しない] から選択します。
* デジタルズームは、倍率が高くなるに従い画質が低下します。

② [ブレ補正]
ブレ補正を、[使用しない]、[On1]、[On2] から選択します。ブレ補正機能は映像のブレを補正する効果があります。[On1] を選択してブレが残る場合は [On2] をお試しください。
ブレ補正の [On1] または [On2] を選択した場合、[使用しない] を選択した場合と比べて画角が狭くなり、映像も粗くなりますが異常ではありません。

	対応するブレの大きさ	画角比率	実効画素
使用しない	ー	100%	約123万画素
On1	小	83%	約85万画素
On2	大	50%	約31万画素

重 要
- [On2] でご使用の場合は、「640 x 480」より小さい映像受信サイズの選択をお勧めします。
- ブレ補正機能は被写体ブレには効果がありません。
- ブレ補正機能は一定の範囲を越えた振動や、瞬間的な振動には対応できません。
- ブレ補正を設定した場合の管理ツール設定時の注意事項は、P. 6-15、P. 6-20 の「重要」を参照してください。
- ブレ補正を設定した場合のビューワーの注意事項は、P. 7-11 の「重要」を参照してください。

デイナイト

❶ モード	オート
❷ 切り換える明るさ	標準
❸ 応答性（秒）	20

① [モード]
デイナイトのモードを [マニュアル] または [オート] から選択します。
[マニュアル] を選択した場合、管理者ビューワーの暗視機能で [デイモード] / [ナイトモード] を手動で切り換えることができます (P. 7-16)。
[オート] を選択した場合、カメラを設置する環境や希望の切り換え条件にあわせて [切り換える明るさ]、[応答性 (秒)] を設定します。

② [切り換える明るさ]
[デイモード] / [ナイトモード] の切り換わる明るさを設定します。[暗い]、[やや暗い]、[標準]、[やや明るい]、[明るい] から選択します。できるだけカラーで撮影したい場合は [暗い] を選択してください。
ノイズ感を軽減したい場合は [明るい] を選択してください。ただし白黒に切り換わるタイミングが早くなります。

③ [応答性 (秒)]
[デイモード] / [ナイトモード] を切り換える判断をするために要する秒数を設定します。[5]、[10]、[20]、[30]、[60] から選択します。
それぞれ上記の秒数の間、継続して②で設定した明るさを超えるか、または下回ると、[デイモード] / [ナイトモード] が切り換わります。
カメラの前を光源が通過するなど、明るさの変化が頻繁な場合は [30] や [60] を選択してください。明るさの変化が少ない場合は [5]、[10] を選択してください。

重 要
- [デイナイト] を [オート] でご使用の場合は、事前に十分な運用テストを行い、有効性を確認したうえでご利用ください。
- [デイナイト] を [オート] でご使用の場合は、[AEモード] の設定を [オート]、[オート (フリッカーレス)] または [オート (シャッター優先)] にしてください。また、管理者ビューワーの露出モード (P. 7-15) も同様にしてください。
- 赤外照明を併用する場合は [デイナイト] を [マニュアル] で運用してください。[オート] ではご使用になれません。
- [デイモード] と [ナイトモード] の切り換え時に、照明によってはフォーカスが合わない場合があります。
- [デイナイト] の設定を [オート] にした場合、[デイモード] / [ナイトモード] の切り換えの間、赤外線カットフィルターが数回往復動作することがあります。その間、パン・チルト・ズーム (VB-M40のみ) およびマニュアルフォーカスは動作しません。

設置条件 M700 M40

❶ ドーム	使用しない
❷ LEDの点灯	点灯する
❸ 映像反転	反転しない

① [ドーム] M40
ドームの使用を選択します。ドームハウジングと組み合わせて使用する場合、[使用する] を選択してください。

② [LEDの点灯]
カメラのLEDの状態を、[消灯する] または [点灯する] から選択します。点灯させたくないときは [消灯する] に設定してください。
M40
オプションの屋内ドームハウジング (DR40-C-VB/DR40-S-VB) をご利用の場合や、反射したLEDが撮影

領域に入るなど、撮影の妨げになるときは [消灯する] に設定してください。

③ [**映像反転**] M40
カメラの映像の向きを選択します。工場出荷設定は [反転しない] (天吊り状態) です。吊り下げずに台などの上に正位置で設置する場合は、[反転する] を選択します。

メモ M700 M40
[LEDの点灯] を [消灯する] に設定した場合でも、起動時はLEDが数秒間点灯します。

カメラ位置制御 M40

プリセットに限定	限定しない
制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない

① [**プリセットに限定**]
カメラ制御をプリセットに [限定しない] または [限定する] から選択します。[限定する] を選択すると、管理者以外のカメラ制御を、プリセット設定したアングルのみに制限できます。

② [**制御権を持たない時の動作**]
ホームポジションの設定をしている状態で、制御権要求がない場合の動作を、カメラを [ホームポジションへ移動しない] または [ホームポジションへ移動する] から選択します。
[ホームポジションへ移動する] を選択した場合、カメラの制御権を誰も取得していないときは、カメラが自動的にホームポジションに移動します。この機能を使用する場合は、あらかじめカメラのホームポジションを設定しておく必要があります。ホームポジションの設定は、プリセット設定ツール (P. 6-16) で行ってください。

外部入力デバイス1～2/外部出力デバイス1～2

デバイス名（半角英数字）15文字以内	
デバイス名（日本語）15文字以内	

外部入力デバイス/外部出力デバイスの [**デバイス名**]
接続した外部デバイスを識別するため、デバイス名は必ず入力してください。[デバイス名 (半角英数字)] は15文字以内の「"」を除くASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。[デバイス名 (日本語)] の指定がなければ、[デバイス名 (半角英数字)] が用いられます。[デバイス名 (日本語)] が入力されると、日本語名が表示されます。[外部デバイス名 (日本語)] には15文字以内のJIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

メモ
管理者ビューワーや同梱のRM-Liteをご利用の場合、ここで設定した外部デバイス名が表示されます。

[映像] 映像のサイズや品質、フレームレートの設定

ここでは次の設定ができます。

- **起動時設定**
  JPEGのヘッダーに音量検知以外のインテリジェント機能情報付加の設定をします。
- JPEG
  JPEGでの映像品質やサイズ、最大フレームレート、アップロードサイズを設定します。
- H.264
  H.264でのビットレートや映像サイズ、キャプチャーフレームレートを設定します。
- **オンスクリーン表示**
  映像上への日時や文字列などの表示について設定します。

起動時設定

インテリジェント機能情報	付加しない

① [**インテリジェント機能情報**]
JPEGのヘッダーに音量検知以外のインテリジェント機能情報を [付加する] または [付加しない] から選択します。

JPEG

項目	設定値
映像品質: 160x120	3
映像品質: 320x240	3
映像品質: 640x480	3
映像品質: 1280x960	3
映像サイズ: 映像送信	320x240
最大フレームレート: 映像送信 0.1〜30	30.0
映像サイズ: アップロード	320x240

① [**映像品質**]
JPEGによる各映像サイズの送信映像品質を、1〜5 (5段階) から選択します。
値が大きいほど高画質になります。

② [**映像サイズ：映像送信**]
送信する映像サイズを、[160x120] 、[320x240] 、[640x480] 、[1280x960] から選択します。各種ビューワー起動時の映像サイズになります。

③ [**最大フレームレート：映像送信**]
1秒間に送信する最大フレームレートを制限することにより、ビューワーの負荷を軽減します。最大30フレーム/秒で、0.1〜30.0の数値を入力します。

④ [**映像サイズ：アップロード**]
アップロード機能使用時の送信映像サイズを、[160x120]、[320x240]、[640x480]、[1280x960] から選択します。アップロードの設定については、P. 5-15をご参照ください。

H.264

項目	設定値
ビットレート制御	ビットレート制御する
目標ビットレート(kbps)	1024
映像サイズ	320x240
フレームレート(fps)	30

項目	設定値
ビットレート制御	ビットレート制御しない
映像品質	3
映像サイズ	320x240
フレームレート(fps)	30

① [**ビットレート制御**]
[ビットレート制御する] または [ビットレート制御しない] から選択します。

② [**目標ビットレート** (kbps)]
①で [ビットレート制御する] を選択した場合、目標ビットレートを [32] から [4096] (12段階) から設定します。

③ [**映像品質**]
①で [ビットレート制御しない] を選択した場合、H.264による送信映像の品質を、1〜5 (5段階) から選択します。
値が大きいほど高画質になります。

④ [**映像サイズ**]
送信する映像サイズを、[320x240] 、[640x480] 、[1280x960] から選択します。

⑤ [**フレームレート** (fps)]
送信する映像のフレームレートを、[10] 、[15] 、[30] (fps) から選択します。

重 要

- 映像サイズを大きめに設定したり、映像品質や目標ビットレートを高めに設定すると、1フレームあたりのデータ容量が大きくなり、ネットワーク負荷が高くなります。

  JPEG：フレームレートが低下する場合があります

  H.264：映像が一時的に途切れる場合があります
- 映像サイズを大きめに設定し、目標ビットレートを低めの設定にすると、ブロックノイズが目立つ場合があります。
- 被写体の種類や、被写体の動きによってはデータ容量が大きくなる場合があります。フレームレートの低下などが長時間にわたって継続する場合は、映像サイズを小さくしたり、映像品質を低く設定してください。
- 同梱の RM-Lite をご使用の場合には、録画時のハードディスク使用量にも影響しますのでご注意ください。

オンスクリーン表示

項目	設定
❶ 日付表示	表示する
❷ 日付表示位置	左上
❸ 日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
❹ 時刻表示	表示する
❺ 時刻表示位置	左上
❻ テキスト表示	指定文字列を表示する
❼ テキスト表示位置	左上
❽ テキスト文字列 15文字以内	Entrance
❾ 文字の色	黒
❿ 輪郭の色	白
⓫ 文字と輪郭の濃さ	文字と輪郭を塗りつぶす

① **[日付表示]**
映像上への日付表示の有無を選択します。[表示する]を選択すると、映像に日付情報が重ねて表示されます。

② **[日付表示位置]**
日付情報を表示する位置を [左上]、[右上]、[左下]、[右下] から選択します。

③ **[日付表示フォーマット]**
表示する日付のフォーマットを [YYYY/MM/DD]、[DD/MM/YYYY]、[MM/DD/YYYY] から選択します。

④ **[時刻表示]**
映像上への時刻表示の有無を選択します。[表示する]を選択すると、映像に時刻情報が重ねて表示されます。

⑤ **[時刻表示位置]**
時刻情報を表示する位置を [左上]、[右上]、[左下]、[右下] から選択します。

⑥ **[テキスト表示]**
映像に重ねて表示するテキスト文字を [表示しない]、[指定文字列を表示する]、[カメラ名を表示する] から選択します。
[指定文字列を表示する] を選択すると、⑧ [テキスト文字列] で設定した文字列が表示されます。
[カメラ名を表示する] を選択すると、[カメラ] の [カメラ名 (半角英数字)] で設定した文字列 (P. 5-9) が表示されます。

⑦ **[テキスト表示位置]**
テキスト文字を表示する位置を [左上]、[右上]、[左下]、[右下] から選択します。

⑧ **[テキスト文字列]**
⑥ [テキスト表示] を [指定文字列を表示する] にした場合、映像に重ねて表示する文字列を半角英数字15文字以内で設定します。

⑨ **[文字の色]**
映像に重ねて表示する文字の色を [黒]、[青]、[シアン]、[緑]、[黄]、[赤]、[マゼンタ]、[白] から選択します。

⑩ **[輪郭の色]**
文字輪郭の色を [黒]、[青]、[シアン]、[緑]、[黄]、[赤]、[マゼンタ]、[白] から選択します。

⑪ **[文字と輪郭の濃さ]**
映像に重ねて表示する文字と輪郭の濃さを [文字と輪郭を塗りつぶす]、[文字のみ透明にする]、[文字のみ半透明にする]、[文字と輪郭を半透明にする] から選択します。

重 要

オンスクリーン表示される時刻は、高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、参考情報としてご活用ください。

メ モ

- オンスクリーン表示される時刻とカメラの時刻 (P. 5-8) は、数秒ずれることがあります。
- ⑧のテキスト文字列では、日本語の「¥」マークは「\」マークで表示されます。
- 映像品質の設定によっては、オンスクリーン表示が判読しづらくなる場合があります。実際の映像をご確認のうえ、設定してください。
- オンスクリーン表示はインテリジェント機能による検知 (P. 6-22) の対象となります。必要に応じて調整を行ってください。

[アップロード]
HTTPやFTPでのアップロード、メール通報の設定

ここでは次の設定ができます。

- **アップロード全般**
  アップロードの動作について設定します。
- **HTTPアップロード**
  HTTP接続でのアップロードについて設定します。
- **FTPアップロード**
  FTP接続でのアップロードについて設定します。
- **メール通報**
  イベント情報や映像のメール送信について設定します。

アップロード全般

アップロードの動作	HTTPでアップロード

[アップロードの動作]
アップロードの方式を [アップロード無効]、[HTTPでアップロード]、[FTPでアップロード] から選択します。

重 要

- アップロード機能を使用する場合、[イベント] メニューの設定 (P. 5-20) または、インテリジェント機能設定ツールの[イベント]タブの設定 (P. 6-25) も必要になります。
- テキストと映像によるメール通報と、HTTP/FTPアップロードによる映像アップロードを両方利用する場合は、[映像サイズ:アップロード] (P. 5-13) を [320x240] 以下にしてください。
- HTTPアップロードは、SSL/TLSには対応しません。
- アップロードもしくはメール通報を連続して行う設定としたとき、映像の大きさ、サーバーまでのネットワークの状況により、送信しきれない映像、もしくはメールが発生する可能性があります。この場合、イベントログ (P. 5-33) にメッセージが表示されます。
- HTTPやFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応していません。

メ モ

アップロードやメール通報の負荷を下げるには、次のことを行ってみてください。また、サーバーまでのネットワークを含んだ設定もあわせてご確認ください。

- 映像ファイルのサイズを小さくする：
  – JPEGの [映像品質] を小さな値に設定する (P. 5-13)。
  – JPEGの [映像サイズ：アップロード] を小さなサイズにする (P. 5-13)。
- アップロードが行われる頻度を下げる：
  – [イベント前バッファ (枚数)]、[イベント後バッファ (枚数)] の枚数を少なくする (P. 5-20)。
  – [音量検知イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作] のどれかを無効にする (P. 5-20)。
  – インテリジェント機能設定ツールの[イベント]タブ > [ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作]のどれかを無効にする (P. 6-28)。
  – [外部デバイス入力イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作] のどちらかを無効にする (P. 5-21)。
  – [タイマーイベント設定] 有効時、[繰り返し間隔] を長くする (P. 5-21)。

HTTPアップロード

項目	設定
通報内容	HTTPで通知のみ行う
URI 255文字以内	http://192.168.100.67/upload.cgi
ユーザー名 31文字以内	
パスワード 31文字以内	********
プロキシサーバー 63文字以内	
プロキシポート番号 1~65535	80
プロキシユーザー名 31文字以内	
プロキシパスワード 31文字以内	********
パラメーター(query string) 127文字以内	
HTTPアップロードテスト	実行

① [通報内容]
通報の内容を [HTTPで通知のみ行う] または [HTTPで映像を添付する] から選択します。

② [URI]
アップロードするURIを入力します (255文字以内)。

③ [ユーザー名]、[パスワード]
認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。
認証方式はBasic認証です。

④ [プロキシサーバー]
プロキシサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内)。

⑤ [プロキシポート番号]
プロキシサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [80])。

⑥ **[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード]**
プロキシサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
認証方式はBasic認証です。

⑦ **[パラメーター** (query string)**]**
パラメーターの入力をします (127文字以内)。「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 8-4)。

⑧ [HTTP**アップロードテスト**]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。このとき、設定値を [適用] する必要はありません。
パスワードは [適用] する前に [実行] をクリックしてください。

重 要
[プロキシサーバー]、[プロキシポート番号]、[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード] は、プロキシ経由で接続する場合に入力してください。

FTPアップロード

通報内容	映像をFTPする
FTPサーバー 63文字以内	192.168.100.67
ユーザー名 31文字以内	ftp
パスワード 63文字以内	********
PASVモード	使用する
ファイルアップロードパス 255文字以内	
ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
FTPアップロードテスト	実行

① **[通報内容]**
通報の内容は [映像をFTPする] に設定されます。

② [FTP**サーバー**]
FTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内)。

③ **[ユーザー名]、[パスワード]**
認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

④ [PASV**モード**]
FTPによるアップロードを行う際に、PASVモードを [使用する] または [使用しない] から選択します。

⑤ **[ファイルアップロードパス]**
映像ファイルアップロード先のパス名を入力します (255文字以内)。

⑥ **[ファイル名記録方式]**
ファイル名記録方式を設定します。
[年月日時分秒ms]
"{年}{月}{日}{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg"というファイル名で映像をアップロードします。
(例：20080123112122000.jpg)
[年月日ディレクトリ/時分秒ms]
"{年}{月}{日}"という名前のサブディレクトリを作成した上で"{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg"というファイル名で映像をアップロードします。
(例：20080123/112122000.jpg)
[ループ]
[最大ループ数] で設定した値を上限とする番号をファイル名として、映像をアップロードします。
(例: 0000.jpg、0001.jpg)
[ユーザー設定]
[作成サブディレクトリ名] と [作成ファイル名] で指定されたファイル名で映像をアップロードします。

ファイル名記録方式	ループ
最大ループ数 0～9999	100

[最大ループ数]
記録方式を [ループ] にした場合、最大ループ数を0～9999の範囲で入力します。

ファイル名記録方式	ユーザー設定
作成サブディレクトリ名 127文字以内	
作成ファイル名 127文字以内	image.jpg
FTPアップロードテスト	実行

[作成サブディレクトリ名]、[作成ファイル名]
記録方式を [ユーザー設定] にした場合、作成するサブディレクトリ名および作成ファイル名を入力します (127文字以内)。入力には、「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 8-4)。

⑦ [FTP**アップロードテスト**]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。このとき、設定値を [適用] する必要はありません。
パスワードは [適用] する前に [実行] をクリックしてください。

メール通報

通報内容	テキストのみ
メールサーバー 63文字以内	
メールポート番号 1～65535	25
差出人メールアドレス（From） 63文字以内	
宛先メールアドレス（To） 63文字以内	
メール認証方式	なし
表題 31文字以内	
本文 255文字以内	
メール通報テスト	実行

① **[通報内容]**
通報の内容を [テキストのみ] または [テキストと映像] から選択します。[アップロードの動作] を [アップロード無効] にした場合、[テキストと映像] は[適用]できません。

② **[メールサーバー]**
SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内) 。

③ **[メールポート番号]**
SMTPサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [25]) 。

④ **[差出人メールアドレス (From)]**
メール発信するアドレスを設定します (63文字以内) 。

⑤ **[宛先メールアドレス (To)]**
メール受信するアドレスを設定します (63文字以内) 。

⑥ **[メール認証方式]**
メール認証方式を、[なし] 、[POP before SMTP] 、[SMTP-AUTH] から選択します。
送信先SMTPサーバーの認証方式に合わせて設定してください。

メール認証方式	POP before SMTP
ユーザー名 31文字以内	username
パスワード 31文字以内	********
POPサーバー 63文字以内	servername

[ユーザー名] 、[パスワード] 、[POPサーバー]
メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

メール認証方式	SMTP-AUTH
ユーザー名 31文字以内	username
パスワード 31文字以内	********

[ユーザー名]、[パスワード]
メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

⑦ **[表題]**
メール送信時の表題を、31文字以内のASCII文字で入力します。

⑧ **[本文]**
メール送信時の本文 (テキスト) を、255文字以内のASCII文字で入力します。テキストには「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 8-4) 。

⑨ **[メール通報テスト]**
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してメール通報テストを行います。このとき、設定値を [適用] する必要はありません。
パスワードは [適用] する前に [実行] をクリックしてください。

[サーバー]
映像サーバー、オーディオサーバー、HTTPサーバーの設定

ここでは次の設定ができます。

- **映像サーバー**
  カメラからの映像配信について設定します。
- **オーディオサーバー**
  音声の送受信について設定します。
- **HTTPサーバー**
  認証方式やHTTPポートやWebページ配信について設定します。

映像サーバー

最大クライアント数 0~30	30
最大制御権待ち数 0~30	30
最大接続時間(秒) 0~65535	0
カメラ制御時間(秒) 1~3600	20

① [**最大クライアント数**]
カメラに同時に接続できるクライアント数の最大値を設定します。最大30クライアントまで設定できます。0のときは、管理者以外の接続は禁止されます。

② [**最大制御権待ち数**]
ビューワーからカメラ制御権の要求を受け付けるクライアント数を設定します。最大数は30で、0～30の整数を入力します。0のときは、管理者以外のカメラ制御は禁止されます。

③ [**最大接続時間 (秒)**]
個々のクライアントがカメラに接続できる時間を秒単位で設定します。最大は65535秒で、0～65535の整数を入力します。0のときは、接続時間は無制限となります。

④ [**カメラ制御時間 (秒)**]
ビューワーからカメラ制御ができる最大時間を設定します。最大は3600秒で、1～3600の整数を入力します。

オーディオサーバー

カメラからの音声送信	送信する
入力音量 1~100	50
無音検出	検出しない
ビューワーからの音声受信	受信する
出力音量 1~100	50
エコーキャンセラー	使用しない
音声入力モード	ライン・イン

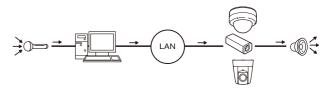
① [**カメラからの音声送信**]
[送信する] を選択すると、カメラに取り付けたマイクの音声をビューワーに送信できます。

② [**入力音量**]
カメラに接続したマイクの入力音量を、1～100の範囲で設定します。値が大きいほど、入力音量は大きくなります。

③ [**無音検出**]
[検出する] を選択すると、音声が無音になったとき、音声データの送信を一時的に停止します。これにより使用するネットワークの負荷を減らすことができます。

④ [**ビューワーからの音声受信**]
[受信する] を選択すると、同梱のRMビューワーから受信した音声を、カメラに取り付けたアンプ付きスピーカーで出力できます。

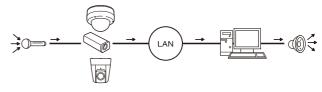
⑤ [**出力音量**]
カメラに接続したスピーカーの出力音量を、1～100の範囲で設定します。値が大きいほど、出力音量は大きくなります。

⑥ [**エコーキャンセラー**]
[使用する] を選択すると、マイクとスピーカーの間で発生するエコーを防ぎます。

⑦ [**音声入力モード**]
マイクの入力を設定します。[ライン・イン]、[マイク・イン (ダイナミックマイク)]、[マイク・イン (コンデンサーマイク)] から選択します。

・音声送信
・入力音量
・無音検出
・エコーキャンセラー

・音声受信
・出力音量

注意

指示

マイクの仕様に合わせて、ライン・インとマイク・インを設定ページから切り換えてご使用ください (P. 5-18) 。
間違えて使用した場合、カメラやマイクの故障の原因になりますので、正しく設定してください。

重 要

使用されるマイクの特性で、音量・音質などが変化する場合があります。

- 音量検知を設定した後に、[入力音量] や [エコーキャンセラー] の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- [ビューワーからの音声受信] を [受信する] にして使用するにはRMビューワーが必要です。音声の送信ができないVB-M700/600/40ビューワーでは、この機能を使用してもカメラから音声を出力できません (P. 1-6)。
- カメラに接続するスピーカーはアンプ付きのものをご利用ください (『設置ガイド』の「音声入出力端子」) 。
- [エコーキャンセラー] で [使用する] を選択すると、音質や音量に影響を及ぼす可能性があります。設置環境や使用方法にあわせ、必要に応じてご利用ください。
- 音声を送信する際には『設置ガイド』の「音声入出力端子」内の「重要」をよくお読みください。

HTTPサーバー

項目	設定
認証方式	Basic認証
HTTPポート番号 80,1024～65535	80
HTTPSポート番号 443,1024～65535	443
Webページのグローバルアドレス	IPv4アドレス
IPv4アドレス（Webページのグローバルアドレス）	
ポート番号（Webページのグローバルアドレス） 1～65535	

① **[認証方式]**
HTTPサーバーで使用する認証方式を [Basic認証] または [Digest認証] から選択します。

② **[HTTP ポート番号]**
HTTPポート番号を、80、1024～65535の範囲で設定します。
通常は [80] (工場出荷設定) を利用します。

③ **[HTTPSポート番号]**
HTTPSポート番号を、443、1024～65535の範囲で設定します。
通常は [443] (工場出荷設定) を利用します。

④ **[Webページのグローバルアドレス]**
ルーターのNAT機能を利用して固定のグローバルアドレスをカメラに割り当てて利用するような場合、ここにグローバルアドレスとポート番号を設定してください。
[IPv4アドレス] を選択した場合は、[IPv4アドレス] 欄に指定されたIPアドレスを入力します。[ホスト名] を選択した場合は、[ネットワーク] の [DNS] で指定したホスト名が使用されます。[DNS] で必要な設定を行ってください (P. 5-6) 。

重 要

- [HTTPポート番号] または [HTTPSポート番号] の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。「[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定」の「重要」(P. 5-32) に記載している注意事項を事前にご確認ください。
- [Webページのグローバルアドレス] で [IPv4アドレス] を選択した場合は、[IPv4アドレス (Webページのグローバルアドレス)] と [ポート番号 (同)] の両方を必ず設定してください。[ホスト名] を選択した場合は、[ネットワーク] 設定ページの [DNS] の [ホスト名] も必ず設定してください。

[イベント]
映像バッファ、音量検知、音声再生、タイマーの設定

ここでは次の設定ができます。

- **映像バッファ**
  映像バッファに映像を一時保存する際の設定を行います。
- **音量検知**
  音量検知時の動作を設定します。
- **外部デバイス入力**
  外部デバイス入力によるイベント時の動作について設定します。
- **タイマー**
  タイマーイベントの設定をします。
- **再生音ファイル登録**
  再生音として登録する音声ファイルについて設定します。

映像バッファ

❶ フレームレート 1～10	1
❷ イベント前バッファ(枚数) 0～100	0
❸ イベント後バッファ(枚数) 0～100	0

① **[フレームレート]**
アップロードする映像のフレームレートを設定します。

② **[イベント前バッファ (枚数)]**
イベント発生からさかのぼって一時保存する映像の枚数を設定します。

③ **[イベント後バッファ (枚数)]**
イベント発生後に一時保存する映像の枚数を設定します。

重 要

- 映像バッファの最大容量は、約6MBです。
  映像サイズを大きく設定している場合、フレームレート、イベント前バッファ、イベント後バッファが、設定通り実行できない場合があります (P. 5-20) 。
- 設定通りバッファが実行できない場合、イベントログ (P. 5-33) にメッセージが表示されます。
  イベントログにメッセージが表示されていないことをご確認のうえ、ご使用ください (P. 5-33) 。
- タイマーイベント発生時のアップロードは、フレームレート設定にかかわらず1枚です。

音量検知

❶ 音量検知イベント	使用する
❷ 検知条件	基準音量レベル以上
❸ 基準音量レベル 0～100	50
❹ 検知条件の継続時間(秒) 0～10	0
❺ ONイベント時の動作	有効
❻ OFFイベント時の動作	無効
❼ プリセット	プリセットを指定しない
❽ アップロード	実行しない
❾ メール通報	実行しない

① **[音量検知イベント]**
音量検知イベントを [使用する] または [使用しない] から選択します。

② **[検知条件]**
音量検知イベントを発生する条件を [基準音量レベル以上] または [基準音量レベル以下] から選択します。

③ **[基準音量レベル]**
検知の基準となる音量レベルを、0 ～ 100 の範囲で設定します。
音量レベルは、実際にテストを行ったうえで、数値を設定してください。

④ **[検知条件の継続時間 (秒)]**
検知条件の継続時間を、0 ～ 10 (秒) の範囲で設定します。検知条件を満たした状態が継続時間以上続いた場合に、ONイベントが発生します。

⑤ **[ONイベント時の動作]**
ONイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント発生 (ONイベント) 時に⑦ [プリセット] (VB-M40のみ)、 ⑧ [アップロード] 、⑨ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑥ **[OFFイベント時の動作]**
OFFイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント終了 (OFFイベント) 時に⑦ [プリセット] (VB-M40のみ)、⑧ [アップロード] 、⑨ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑦ **[プリセット]** M40
プリセットを指定しておくと、音量検知イベントが発生したときに、指定したプリセットの位置に自動的にカメラを向けます。使用するためには、管理ツールのプリセット設定ツールでプリセットを設定しておく必要があります (P. 6-2) 。カメラ操作の必要がない場合は [プリセットを指定しない] を選択します。

⑧ [**アップロード**]
アップロードの動作を選択します。[実行する] を選択すると、音量検知イベントがあるときに、アップロードを実行します。また、使用するためには [アップロード] メニューの [アップロード全般] サブメニュー、および [HTTPアップロード] または [FTPアップロード] サブメニューの設定も必要です (P. 5-15) 。

⑨ [**メール通報**]
メール通報の動作を選択します。[実行する] を選択すると、音量検知イベントがあるときに、メール通報を実行します。また、使用するためには [アップロード] メニューの [メール通報] サブメニューの設定も必要です (P. 5-17) 。

重 要

- 音声ファイル再生時とRMビューワーからの音声送信時は、一時的に音量検知機能が無効になります。
- 音量検知機能と外部デバイス出力との連動はできません。
- 音量検知の注意事項については、「安全にお使いいただくために」の「カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意」(P. vi) を参照してください。

外部デバイス入力

外部デバイス入力イベント	使用する
入力の入 / 切の反転	反転しない
ONイベント時の動作	有効
OFFイベント時の動作	無効
プリセット	プリセットを指定しない
アップロード	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の音声再生	再生する
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	SAMPLE1
音量 1~100	50

① [**外部デバイス入力イベント**]
外部デバイス入力イベントを [使用する] または [使用しない] から選択します。

② [**入力の入/切の反転**]
外部デバイスの入力のON/OFFを [反転する] または [反転しない] から選択します。[反転する]を選択すると、外部デバイスからON入力があったときにOFFイベントが発生します。

③ [**ONイベント時の動作**]
ONイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント発生 (ONイベント) 時に⑤ [プリセット] (VB-M40のみ)、⑥ [アップロード] 、⑦ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

④ [**OFFイベント時の動作**]
OFFイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント終了 (OFFイベント) 時に⑤ [プリセット] (VB-M40のみ)、⑥ [アップロード] 、⑦ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑤ [**プリセット**] M40
プリセットを指定しておくと、外部デバイス入力イベントが発生したときに、指定したプリセットの位置に自動的にカメラを向けます。使用するためには、管理ツールのプリセット設定ツールでプリセットを設定しておく必要があります(P. 6-2)。カメラ操作の必要がない場合は [プリセットを設定しない] を選択します。

⑥ [**アップロード**]
アップロードの動作を選択します。[実行する] を選択すると、外部デバイス入力イベントがあるときに、アップロードを実行します。また、使用するためには [アップロード] メニューの [アップロード全般] サブメニュー、および [HTTPアップロード] または [FTPアップロード] サブメニューの設定も必要です (P. 5-15) 。

⑦ [**メール通報**]
メール通報の動作を選択します。[実行する] を選択すると、外部デバイス入力イベントが [使用する] のときに、メール通報を実行します。また、使用するためには [アップロード] メニューの [メール通報] サブメニューの設定も必要です (P. 5-17) 。

⑧ [**ONイベント時の音声再生**]
ONイベント時の音声再生の動作を選択します。[再生する] を選択すると、外部デバイスからON入力があったときに、[再生音] で指定した音声を再生します。

⑨ [**OFFイベント時の音声再生**]
OFFイベント時の音声再生の動作を選択します。[再生する] を選択すると、外部デバイスからの入力がOFFになったときに、[再生音] で指定した音声を再生します。

⑩ [**再生音**]
再生する再生音を選択します。再生音の登録は、P. 5-22をご参照ください。

⑪ [**音量**]
再生音の音量を1～100の整数の間で設定します。値が大きいほど音量は大きくなります。

タイマー

タイマーイベント設定1	使用する
開始時刻 hh:mm	00:00
繰り返し設定	使用する
繰り返し間隔	1秒
繰り返し回数 1~65535	1
タイマーイベント設定2	使用しない
タイマーイベント設定3	使用しない
タイマーイベント設定4	使用しない
アップロード	実行しない
メール通報	実行しない

5 設定ページ

① **[タイマーイベント設定]**
タイマーイベントを [使用する] または [使用しない] から選択します。

② **[開始時刻]**
タイマーイベントの開始時刻を、24時間制で設定します。

③ **[繰り返し設定]**
[使用する] を選択した場合、④ [繰り返し間隔] 、⑤ [繰り返し回数] の設定に従ってタイマーイベントが発生します。

④ **[繰り返し間隔]**
アップロードとメール通報動作の繰り返し間隔を、
[1秒] [5秒] [10秒] [30秒] [1分] [5分] [10分] [15分] [20分] [30分] [1時間] [3時間] [6時間] [12時間] から選択します。

⑤ **[繰り返し回数]**
アップロードとメール通報を繰り返す回数を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

⑥ **[アップロード]**
アップロードの動作を選択します。[実行する] を選択すると、設定した間隔でアップロードを実行します。また、使用するためには [アップロード] メニューの [アップロード全般] サブメニュー、および [HTTPアップロード] または [FTPアップロード] サブメニューの設定も必要です (P. 5-15) 。

⑦ **[メール通報]**
メール通報の動作を選択します。[実行する] を選択すると、タイマーイベントが [使用する] のときに、メール通報を実行します。また、使用するためには[アップロード] メニューの [メール通報] サブメニューの設定も必要です(P. 5-17)。

重 要

[タイマーイベント設定]は、24時間周期で繰り返し動作します。複数のタイマー有効時間が重複した場合は、[開始時刻]が遅い[タイマーイベント設定]による動作に切り換わり、それ以前に実行していたタイマーイベントは、翌日の開始時刻まで停止します。

再生音ファイル登録

参照ファイル	D:\Documents and Set 参照...	追加
再生音名 15文字以内	SAMPLE1	削除

① **[参照ファイル]**
再生音として登録する音声ファイルを指定後、[追加] をクリックします。

② **[再生音名]**
再生音として登録する音声ファイルに名前を設定します (15文字以内) 。空欄にして適用した場合には、再生音が削除されます。登録済みの音声を削除するには、削除したい再生音名の横にある [削除] をクリックします。

メ モ

設定できる音声ファイルは、再生時間が20秒まででファイル形式が「.wav」(μ-law PCM 8bit。サンプリング周波数8000Hz、モノラル) のみです。

[アクセス制御] ユーザーのアクセス権の設定

ここでは次の設定ができます。

- **登録ユーザーアカウント**
  カメラへ接続できるユーザーを登録します。
- **ユーザー権限**
  登録ユーザーと一般ユーザーの権限を設定します。
- **IPv4ホストアクセス制限**
  IPv4のアクセスを許可するホストと制限するホストを指定します。
- **IPv6ホストアクセス制限**
  IPv6のアクセスを許可するホストと制限するホストを指定します。

登録ユーザーアカウント

① **[ユーザー名] 、[パスワード]**
ユーザー名とパスワードを入力し、[追加] をクリックすると、ユーザーリストに登録ユーザーを追加します。
ユーザー名には15文字以内 (半角) のA-Z、a-z、0-9、-、_、の文字が使用できます。
パスワードには6～15文字以内 (半角) のASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。

② **[ユーザーリスト]**
登録されたユーザーのリストを表示します。これらのユーザーに対してユーザー権限を設定できます。管理者 (root) 以外に、最大50ユーザーまで登録できます。
また、右側の▲ ▼ボタンでユーザーの並び順を切り換えることができます。
ユーザーを削除する場合は、ユーザーリストからユーザーを選択して、[削除] をクリックします。

ユーザー権限

	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
① 登録ユーザー	☑	☑	☑	☑
一般ユーザー		☑	☑	☑

[特権カメラ制御] 、[一般カメラ制御] 、[映像配信] 、[音声配信]
登録ユーザーと一般ユーザーのユーザー権限を設定します。それぞれに対して、利用を許可する項目にチェックを入れてください。

メ モ
登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。
詳しくは、「7章」の「ユーザー権限とカメラ制御権」(P. 7-2) を参照してください。

IPv4ホストアクセス制限

① ホストアクセス制限の適用	適用する
② デフォルトポリシー	アクセスを許可する
③ ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可 02: / 32 許可 03: / 32 許可 04: / 32 許可 05: / 32 許可 06: / 32 許可 07: / 32 許可 08: / 32 許可 09: / 32 許可 10: / 32 許可 11: / 32 許可

① **[ホストアクセス制限の適用]**
IPv4ホストアクセス制限の使用を [適用しない] または [適用する] から選択します。

② **[デフォルトポリシー]**
IPv4ホストアクセス制限を適用する場合のデフォルトポリシーを [アクセスを許可する] または [アクセスを禁止する] から選択します。

③ [ネットワークアドレス/サブネット]
アクセスを許可するホストと制限するホストの設定をリストにして、それぞれに対してIPv4アドレスのアクセスを [許可] または [禁止] の設定をします。
サブネットを指定してネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。
アクセスを禁止した場合は、すべてのポートに対するアクセスが制限されます。

重 要

- HTTP 接続でプロキシサーバー経由のアクセスを禁止するには、プロキシサーバーのアドレスを設定する必要があります。
- 誤ったホスト制限設定を行うと、設定ページへのアクセス自体が禁止され、工場出荷設定に戻す以外に復旧する手段がなくなることがあります。

メ モ

同じアドレスが設定された場合、リスト上位の設定が適用されます。

IPv6ホストアクセス制限

ホストアクセス制限の適用	適用する			
デフォルトポリシー	アクセスを許可する			
	01:	/	128	許可
	02:	/	128	許可
	03:	/	128	許可
	04:	/	128	許可
	05:	/	128	許可
	06:	/	128	許可
	07:	/	128	許可
	08:	/	128	許可
	09:	/	128	許可
	10:	/	128	許可
プレフィックス / プレフィックス長	11:	/	128	許可

① [ホストアクセス制限の適用]
IPv6ホストアクセス制限の使用を [適用しない] または [適用する] から選択します。

② [デフォルトポリシー]
IPv6ホストアクセス制限を適用する場合のデフォルトポリシーを [アクセスを許可する] または [アクセスを禁止する] から選択します。

③ [プレフィックス/プレフィックス長]
アクセスを許可するホストと制限するホストの設定をリストにして、それぞれに対してIPv6アドレスのアクセスを [許可] または [禁止] の設定をします。
プレフィックス長を指定してネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。
アクセスを禁止した場合は、すべてのポートに対するアクセスが制限されます。

[IPsec] IPsecの設定

ここでは次の設定ができます。

- **IPsec設定方法**
  IPsecの設定方法について設定します。
- **自動鍵交換の設定**
  自動鍵交換について設定します。
- **IPsecセット**
  自動鍵交換または手動設定で、最大5つの通信相手のIPsecを設定できます。

IPsec設定方法

IPsec設定方法	自動鍵交換

① [IPsec設定方法]
IPsecを使用する場合の鍵設定を [自動鍵交換] または [手動設定] から選択します。

自動鍵交換の設定

項目	値
IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
IPsec SA 有効期間(分) 10~1440	480
ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1
DHグループ	グループ2
ISAKMP SA 有効期間(分) 10~1440	480

① [IPsec SA暗号化アルゴリズム]
IPsec SAの暗号化アルゴリズムを [AES->3DES] 、[AES->3DES->DES] 、[AES->3DES->DES ->NULL] から選択します。
設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な暗号化アルゴリズムが選択されます。

② [IPsec SA認証アルゴリズム]
IPsec SAの認証アルゴリズムを [HMAC_SHA1_96] 、[HMAC_SHA1_96->HMAC_MD5_96] から選択します。
設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な認証アルゴリズムが選択されます。

③ [IPsec SA有効期間 (分)]
IPsec SAの有効時間を設定します (工場出荷設定は [480]) 。

④ [ISAKMP SA暗号化アルゴリズム]
自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA暗号化アルゴリズムを [AES->3DES] 、[AES->3DES->DES] から選択します。

⑤ [ISAKMP SA認証アルゴリズム]
自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA認証アルゴリズムを [SHA1] 、[SHA1->MD5] から選択します。

⑥ [DHグループ]
自動鍵交換プロトコルIKEによる鍵交換で使用するDHアルゴリズムで使用する鍵生成情報を [グループ2] 、[グループ2->グループ1] から選択します。

⑦ [ISAKMP SA有効期間 (分)]
ISAKMP SAの有効時間を設定します (工場出荷設定は [480]) 。

IPsecセット (自動鍵交換)

IPsecセットは1～5まであり、各IPsecセットに1つの通信相手のIPsec設定ができます。

項目	値
IPsecセットの使用	IPv4で使用する
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	192.168.200.1
送信元IPv4アドレス	192.168.100.1
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	192.168.10.1
接続先のサブネットマスク長 1~32	24
IKE事前共有鍵 127文字以内	pre-shared-key

① [IPsecセットの使用]
IPsec設定セットの使用を [使用しない] 、[IPv4で使用する] 、[IPv6で使用する] から選択します。

② [IPsec動作モード]
IPsecの動作モードを [トンネルモード] または [トランスポートモード] から選択します。

③ [接続先IPv4アドレス] 、[接続先IPv6アドレス]
接続先のIPアドレスを入力します。

④ [送信元IPv4アドレス] 、[送信元IPv6アドレス]
送信元のIPアドレスを入力します。

⑤ [IPsecプロトコル]
使用するIPsecプロトコルを [ESP] 、[AH] 、[ESPとAH] から選択します。
[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。
[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。
[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

⑥ **[セキュリティゲートウェイのIPアドレス (IPv4/IPv6)]**
②のIPsec動作モードを [トンネルモード] に設定した場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを設定します。

⑦ **[接続先のサブネットマスク長 (IPv4)] 、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]**
②のIPsec動作モードを [トンネルモード] に設定した場合のみ必要な設定です。
IPv6を使用する場合、接続先のプレフィックス長は、16～128の間で入力します。
IPv4を使用する場合は、1～32の間で入力します。

⑧ **[IKE事前共有鍵]**
IKE (自動鍵交換) で使用する事前共有鍵を入力します (127文字以内) 。

重 要

自動鍵交換を使用した通信中にカメラの再起動を行うと、再起動後、接続エラーが発生する場合があります。その場合は、再度接続を行ってください。

メ モ

自動鍵交換を使用すると、カメラとの通信が開始するまでに、5～10秒程度かかります。

IPsecセット (手動設定)

IPsecセットは1～5まであり、各IPsecセットに1つの通信相手のIPsec設定ができます。

項目	設定値
IPsecセットの使用	IPv4で使用する
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	192.168.200.1
送信元IPv4アドレス	192.168.100.1
IPsecプロトコル	ESPとAH
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	192.168.10.1
接続先のサブネットマスク長 1～32	24
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵(送信)	0445981962E9AC7E79385E037C35FC3
SA ESP 認証鍵(送信)	BB64787768DFC8DE7EB4D84EC81B453168F3B32F
SA ESP SPI(送信) 256以上	1000
SA ESP 暗号鍵(受信)	6F822A37272BF55EB581A91A53770C57
SA ESP 認証鍵(受信)	81E4DC85387FB09192B26CA1A2FBD97202159B96
SA ESP SPI(受信) 256以上	2000
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵(送信)	6F92282D51B290EA4B51D8833A4EFF295A6E5F40
SA AH SPI(送信) 256以上	3000
SA AH 認証鍵(受信)	7E0E6F639A0A81A83B6C5642EFE859881B2883AE
SA AH SPI(受信) 256以上	4000

① **[IPsecセットの使用]**
IPsec設定セットの使用を [使用しない] 、[IPv4で使用する] 、[IPv6で使用する] から選択します。

② **[IPsec動作モード]**
IPsecの動作モードを [トンネルモード] または [トランスポートモード] から選択します。

③ **[接続先IPv4アドレス] 、[接続先IPv6アドレス]**
接続先のIPアドレスを入力します。

④ **[送信元IPv4アドレス] 、[送信元IPv6アドレス]**
送信元のIPアドレスを入力します。

⑤ **[IPsecプロトコル]**
使用するIPsecプロトコルを [ESP] 、[AH] 、[ESPとAH] から選択します。
[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。
[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。
[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

⑥ **[セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス] 、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]**
②の[IPsec動作モード]を [トンネルモード] に設定した場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを設定します。

⑦ **[接続先のサブネットマスク長 (IPv4)] 、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]**
②のIPsec動作モードを [トンネルモード] に設定した場合のみ必要な設定です。
IPv6を使用する場合、接続先のプレフィックス長は、16～128の間で入力します。
IPv4を使用する場合は、1～32の間で入力します。

- **⑤の [IPsecプロトコル] を [ESP] または [ESPとAH] に設定した場合、⑧ [SA ESP 暗号化アルゴリズム] ～⑮ [SA ESP SPI (受信)] の設定が必要になります。**

⑧ **[SA ESP 暗号化アルゴリズム]**
ESPの暗号化アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている暗号化アルゴリズムにあわせて、[AES] 、[3DES] 、[DES] 、[NULL] から選択します。
通常は [AES] または [3DES] での運用をお勧めします。

⑨ **[SA ESP 認証アルゴリズム]**
ESPの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムにあわせて [HMAC_SHA1_96] 、[HMAC_MD5_96] 、[認証なし] から選択します。
[ESP] のみを使用する場合、[認証なし] は選択できません。

⑩ [SA ESP **暗号鍵 (送信)**]
送信用SAの暗号鍵を設定します。⑧が [AES] ならば128bit、[3DES] ならば192bit、[DES] ならば64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

⑪ [SA ESP **認証鍵 (送信)**]
送信用SAの認証鍵を設定します。⑨が[HMAC_SHA1_96] ならば160bit、[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

⑫ [SA ESP SPI (**送信**)]
送信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。

⑬ [SA ESP **暗号鍵 (受信)**]
受信用SAの暗号鍵を設定します。
⑧が [AES] ならば128bit、[3DES] ならば192bit、[DES] ならば64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

⑭ [SA ESP **認証鍵 (受信)**]
受信用SAの認証鍵を設定します。
⑨が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

⑮ [SA ESP SPI (**受信**)]
受信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のESPのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

- **⑤の [IPsecプロトコル] を [AH] または [ESPとAH] に設定した場合、⑯ [SA AH 認証アルゴリズム] ～⑳ [SA AH SPI (受信)] の設定が必要になります。**

⑯ [SA AH **認証アルゴリズム**]
AHの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムにあわせて、[HMAC_SHA1_96] または [HMAC_MD5_96] から選択します。

⑰ [SA AH **認証鍵 (送信)**]
送信用SAの認証鍵を設定します。
⑯が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で設定してください。

⑱ [SA AH SPI (**送信**)]
送信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。

⑲ [SA AH **認証鍵 (受信)**]
受信用SAの認証鍵を設定します。
⑯が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で設定してください。

⑳ [SA AH SPI (**受信**)]
受信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のAHのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

重 要

- カメラを IPsec で運用するためには、あらかじめ通信相手やネットワークの設定が必要です。これらの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- [IPsec] メニューで設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。「[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定」の「重要」(P. 5-32) に記載している注意事項を事前にご確認ください。

メ モ

IPsec使用時は、映像配信性能が低下します。

[SSL/TLS] HTTP通信の暗号化の設定

ここでは次の設定ができます。

- **証明書**
  SSL/TLS証明書を作成します。
- **証明書の管理**
  SSL/TLS証明書を管理します。
- **暗号化通信**
  暗号化通信の使用を設定します。

証明書

自己証明書の作成	実行
証明書の状態	インストールされています
国名(C) 2文字	JP
都道府県名(ST) 128文字以内	Tokyo
市区町村名(L) 128文字以内	Ohta-ku
組織名(O) 64文字以内	Canon Inc.
組織単位名(OU) 64文字以内	Network Camera Div
一般名(CN) 64文字以内	Canon Inc.
有効期限開始日 yyyy/mm/dd	2011/04/01
有効期限終了日 yyyy/mm/dd	2012/03/31

① **[自己証明書の作成]**
次の各項目の入力を終えた後、[実行] をクリックすると、自己証明書の作成を行います。メッセージに従ってシステムを再起動してください。作成された証明書は、再起動後に有効になります。

メ モ
証明書の作成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

② **[証明書の状態]**
証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、証明書をインストールした場合は、[インストールされています] と表示されます。

③ **[国名 (C)]**
国名コードを入力します。

④ **[都道府県名 (ST)] 、[市区町村名 (L)] 、[組織名 (O)] 、[組織単位名 (OU)] 、[一般名 (CN)]**
都道府県名、市区町村名、組織名、組織単位名、一般名をASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。一般名 (必須) には、FQDN形式のホスト名などを設定します。

⑤ **[有効期限開始日] 、[有効期限終了日]**
作成する証明書の有効期限を2001/01/01～2031/12/31の範囲で設定します (自己証明書の作成時は必須) 。

重 要
自己証明書はセキュリティ上、動作テストなど完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない場合に使用することを推奨します。システム運用時には、CA 局から発行される証明書を取得し、インストールしてください。

証明書の管理

証明書署名要求の生成	実行		
証明書署名要求内容表示	実行		
サーバー証明書のインストール		参照...	実行
中間CA証明書のインストール		参照...	実行
証明書の削除	実行		
サーバー証明書内容表示	実行		
自己CA証明書	実行		
バックアップ	実行		
リストア		参照...	実行

① **[証明書署名要求の生成]**
[実行] をクリックすると、サーバー秘密鍵、自己認証局秘密鍵を作成し、証明書署名要求の生成を行います。処理が終わると、別ウィンドウに証明書署名要求が表示されます。

メ モ
証明書署名要求の生成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

② **[証明書署名要求内容表示]**
[実行] をクリックすると、証明書署名要求の内容が表示されます。

③ **[サーバー証明書のインストール]**
サーバー証明書をインストールします。[参照] でインストールする証明書ファイルを選択して、[実行] をクリックします。インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

④ **[中間CA証明書のインストール]**
中間CA証明書をインストールします。[参照] でインストールする証明書ファイルを選択して、[実行] をクリックします。インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

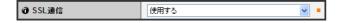
⑤ **[証明書の削除]**
[実行] をクリックすると、証明書を削除します。ただし、SSL通信を行う設定になっていると証明書の削除はできませんので、[SSL通信] を [使用しない] に設定してから実行してください。なお、削除は、再起動後に有効になります。

⑥ **[サーバー証明書内容表示]**
[実行] をクリックすると、証明書の内容が表示されます。

⑦ **[自己CA証明書]**
SSL通信のテストなどの目的で使用しますが、通常は使用しません。

⑧ **[バックアップ]**
[実行] をクリックすると、証明書と秘密鍵のバックアップを行います。SSL通信でのみ行えます。

⑨ **[リストア]**
バックアップされている証明書と秘密鍵をインストールします。[参照] でバックアップファイルを選択して、[実行] をクリックします。SSL通信でのみ行え、再起動後に有効になります。

暗号化通信

① **[SSL通信]**
SSL通信の設定を [使用しない] または [使用する] から選択します。設定は再起動後に有効になります。
ただし、証明書がインストールされていない場合、SSL通信の設定を [使用する] に変更できません。

メ モ

- SSL鍵生成には15分以上かかる場合があります。
- SSL通信時は、映像配信性能が低下します。
- カメラにインストールされる証明書の種類によっては、Webブラウザーが証明書を受け入れるかどうかのダイアログを表示することがないため、接続できないことがあります。
この場合にはCA 局の証明書をWebブラウザーに登録してください。

5

設定ページ

[メモリーカード] SDメモリーカードの各種操作や設定

ここでは次の設定ができます。

- **SDカードの操作**
  SDメモリーカードの操作を行います。
- **SDカードの情報**
  SDメモリーカードの情報を表示します。

SDカードの操作 (アンマウント状態)

マウント /アンマウント	マウント実行
動作設定	ログを保存する
フォーマット	実行

① **[マウント/アンマウント]**
アンマウント状態のときは、[マウント実行] が表示されます。[マウント実行] をクリックすると、SD メモリーカードがマウントされます。

メ モ

SDメモリーカード、SDHCメモリーカードを使用できます。SDメモリーカードをカードスロットにセットした場合は、自動的にマウントされます。また、起動時にカメラにSDメモリーカードがセットされている場合も、自動的にマウントされます。
SDメモリーカードの出し入れの操作は、『設置ガイド』の「SDメモリーカードご利用の場合」を参照してください。

② **[動作設定]**
SD メモリーカードへの書き込み動作を、[ログを保存する] または [ログと映像を保存する] から選択します。[ログと映像を保存する] を選択した場合、録画ストリーム使用時やアップロード時にネットワークに異常が発生したときの映像を、フレームレート 1 fps ([映像] (P. 5-13) で設定されている映像サイズと映像品質) で SDメモリーカードに保存できます。

③ **[フォーマット]**
[実行] をクリックすると、SDメモリーカードのフォーマットが行われます。

SDカードの操作 (マウント状態)

マウント /アンマウント	アンマウント実行
動作設定	ログを保存する
映像の削除	実行
映像管理情報の再作成	実行

① **[マウント/アンマウント]**
マウント状態のときは、[アンマウント実行] が表示されます。[アンマウント実行] をクリックすると、SD メモリーカードがアンマウントされます。

重 要

カメラの電源をオフにする場合や、SDメモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウント処理を行ってください。アンマウントしていない場合、管理ファイル異常となることや、SDメモリーカードへのアクセスができなくなることがあります。

② **[動作設定]**
「SD カードの操作 (アンマウント状態) 」の② [動作設定] と同様です。

③ **[映像の削除]**
[実行] をクリックすると、SDメモリーカードの映像を削除します。削除中は、[実行] の右にインジケーターが表示されます。

メ モ

- 映像の削除には、10分以上かかる場合があります。
- 映像の削除には時間がかかる場合があるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

④ **[映像管理情報の再作成]**
[実行] をクリックすると、映像管理情報の再作成を行います。
再作成中は、[実行] の右にインジケーターが表示され、この間SDメモリーカードにアクセスできません。

メ モ

- 映像管理情報の再作成には20分以上かかる場合があります。
- 映像管理情報の再作成には時間がかかる場合があるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

SDカードの情報

① SDカードの認識	マウントされています
② SDカードの操作状態	操作可能
③ 映像管理情報の状態	正常
④ 映像保存	保存不可
⑤ SDカード容量(KB)	1984640
⑥ 使用容量(KB)	1019360

① **[SDカードの認識]**
SDメモリーカードの状態を表示します。[SDカードが入っていません]、[マウントされていません]、[マウントされています] の3つの状態があります。

② **[SDカードの操作状態]**
SDメモリーカードの操作の状態を表示します。次の3つの状態があります。

- [操作可能]：各種操作を実行できる状態。
- [映像管理情報を再作成中]：映像管理情報の再作成が行われています。他の操作はできません。
- [映像削除中]：映像を削除しています。他の操作はできません。

③ **[映像管理情報の状態]**
映像管理情報の状態を表示します。次の2つの状態があります。

- [正常]：映像管理情報は正常です。
- [映像管理情報の再作成が必要]：管理ファイルが壊れているか、保存されている映像と管理ファイルとの整合性がとれていない状態です。映像管理情報の再作成が必要です。

④ **[映像保存]**
SDメモリーカードへの映像の保存の可/不可を表示します。

- [保存可] ：SDメモリーカードへ保存が可能です。
- [保存不可] ：SDメモリーカードへの保存ができません。この場合、SDメモリーカードがマウントされていない、映像ファイル数が上限に達している、映像管理ファイルが壊れている、書き込み禁止状態になっているなどの理由が考えられます。

⑤ **[SDカード容量 (KB)]**
SDメモリーカードの容量を表示します。

⑥ **[使用容量 (KB)]**
SDメモリーカードの使用容量を表示します。

重 要

SDメモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。カメラが廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いに十分に注意してください。

メ モ

- SDメモリーカードに保存されたファイルへのアクセス方法は、「SDメモリーカードのアクセスについて」(P. 8-2)を参照してください。
- SDメモリーカードに映像を蓄積できる枚数の上限は、録画ストリーム配信失敗とアップロード失敗のどちらの場合もそれぞれ10万枚です。
- SD メモリーカードの空き領域がないときや蓄積枚数が上限に達した場合、新しいファイルは保存されません。

[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定

ここでは設定の変更を行った際、再起動が必要となる次の項目を集めています。

- **LAN、IPv4、IPv6、設置条件 (VB-M40のみ)、H.264、HTTPサーバー**

LAN	LANインターフェース	オート
	最大パケットサイズ 576～1500	1500
IPv4	IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定
	IPv4アドレス	192.168.100.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	192.168.0.1
IPv6	IPv6の使用	使用する
	自動設定	有効
	IPv6アドレス(手動設定)	
	プレフィックス長 16～128	64
	IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
設置条件	ドーム	使用しない
	映像反転	反転しない
H.264	映像サイズ	320x240
	フレームレート(fps)	30
HTTPサーバー	認証方式	Basic認証
	HTTPポート番号 80,1024～65535	80
	HTTPSポート番号 443,1024～65535	443

① [LAN]
LANインターフェース、最大パケットサイズなどの設定 (P. 5-5)

② [IPv4]
IPアドレスなど、IPv4の設定 (P. 5-5)

③ [IPv6]
IPv6の使用についての設定 (P. 5-6)

④ **[設置条件]** M40
カメラの設置条件についての設定 (P. 5-11)

⑤ [H.264]
H.264での映像サイズやフレームレートについての設定 (P. 5-13)

⑥ [**HTTPサーバー**]
認証方式、HTTP、HTTPSポート番号の設定 (P. 5-19)

重 要

ネットワークの接続に関わる設定で、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性のある設定値を変更した場合、確認のダイアログが表示され注意を促します。

変更した設定を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。

設定変更によってカメラが再起動したあと、カメラに再接続できない場合があります。このとき、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。

カメラに再接続する場合は、表示されたURIをお試しください。表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

* [再起動項目] メニューで、ネットワークの接続に関わる設定は [LANインターフェース]、[最大パケットサイズ]、[IPv4アドレス設定方式]、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]、[IPv6の使用]、[自動設定]、[IPv6アドレス (手動設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス]、[HTTP ポート番号]、[HTTPS ポート番号] です。

[メンテナンス]
イベントログや現在の設定状況表示、メンテナンスの実行

ここでは次の項目を使用できます。

- **表示と実行**
  カメラの設定の表示や初期化を行います。

表示と実行

❶ ログを見る	表示	
❷ 現在の設定を見る	表示	
❸ 再起動	実行	■
❹ 初期設定に戻す	実行	■

① **[ログを見る]**
カメラの動作および各種ビューワーなどとの接続の履歴を表示します。

② **[現在の設定を見る]**
現在の設定を一覧表示します。

③ **[再起動]**
カメラを再起動します。

④ **[初期設定に戻す]**
カメラの管理者パスワード、ネットワーク設定、日付、時刻、タイムゾーン、SSL証明書、暗号化通信を除くすべての設定項目について、ユーザーの設定値を破棄して工場出荷設定に戻します。実行すると、自動的に再起動を行います。

注意

禁止

- **[初期設定に戻す] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。**
- **M40 初期化動作中は絶対にカメラヘッドに触らないでください。正しく初期化されなかったり、故障の原因になる場合があります。**

メ モ

- [初期設定に戻す] で、工場出荷設定の状態に戻す際には、現在の各設定値を控えた後に行うことをお勧めします (P. 8-20) 。
- リセットスイッチによっても工場出荷設定に戻すことができますが、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻るのでご注意ください (P. 8-19) 。

6章

管理ツール

管理ツールの概要

管理ツールは、ネットワーク経由でカメラの設定や動作状況の確認、ログ取得を行うための複数のツールで構成されています。

管理ツール (P. 6-4)

管理ツールのトップページです。ここから各ツールを起動できます。

プライバシーマスク設定ツール (P. 6-5)

見せたくない領域にプライバシーマスクを設定して、見えないようにするツールです。マスクは8箇所まで設定でき、きめ細かくプライバシーを保護できます。

パノラマ作成ツール (P. 6-9) M40

カメラが撮影可能な全領域を表示するパノラマ画像の作成ツールです。パノラマ画像を撮影して登録するとビューワーのパノラマ表示パネルに表示されます。また、可視範囲やプリセットの設定を行う際にも表示されるため、設定した領域が、全領域のどの部分を占めているのかが一目でわかります。

可視範囲設定ツール (P. 6-12) M40

可視範囲設定を、視覚的に行うことのできるツールです。パノラマによるプレビューを参照しながら、マウス操作での範囲設定が行えます。

プリセット設定ツール (P. 6-16) M40

プリセットやホームポジションを、視覚的に設定できるツールです。パノラマによるプレビューを参照しながら、マウス操作での設定が行えます。また、複数のプリセットを巡回して監視を行う [プリセット巡回] を設定できます。

インテリジェント機能設定ツール (P. 6-22)

被写体が動くことで映像の一部に変化があった場合、その時点でアップロード、ビューワーへの通知、ログの記録などを行うインテリジェント機能を設定するためのツールです。条件を設定することで、「置き去り」、「持ち去り」、「いたずら」などのイベントを検知させることもできます。カメラの映像を見ながら、検知領域の位置や大きさ、検知条件の設定などが行えます。

ログビューワー (P. 6-31)

カメラに記録されている動作状況のログを閲覧できるビューワーです。

メモ

Windowsのコントロール パネルでの [地域と言語] の設定に関わらず、数値の小数点は常に「.」で表示されます。また、日付は「yyyy/mm/dd」または「mm/dd」、時刻は「hh:mm:ss」の形式で表示されます (y、m、d、h、m、sはそれぞれ、年、月、日、時、分、秒を表します)。

管理ツールにアクセスする

管理ツールを起動する

管理ツールは、カメラのトップページからアクセスして起動します。

1 **カメラのトップページを起動する (P. 4-2)**

2 **[管理ツール] をクリックする**

ユーザー認証のための画面が表示されます。

3 **ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする (P. 4-2)**

管理ツールのトップページが表示されます。

① **[管理者ビューワーへ]**
クリックすると管理者ビューワーが起動します。

② **[設定ページへ]**
クリックすると設定メニューが起動します。

③ **[トップページへ]**
クリックするとカメラのトップページに移動します。

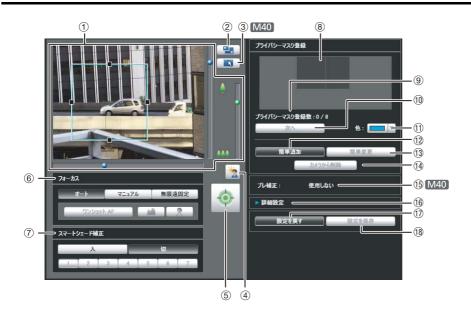
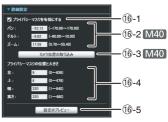
④ **[管理ツール]**
各ツールのボタンをクリックして、管理ツールを起動します。
なお、管理ツールのいずれかを最初に起動する際に認証画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力してください。

重 要

[管理ツール] を利用するPCには、Canon Inc.発行の証明書を登録しておく必要があります。(P. 4-3)

メ モ

- 各管理ツールを初めて起動するときは、ソフトウェアが PC にダウンロードされるまで、5～10秒程度お待ちください。2回目からは素早く起動します。なお、SSL暗号通信でアクセスしている場合は、さらにダウンロードに時間がかかります(20～30秒程度)。
- 各管理ツールは、同時に起動できません。

プライバシーマスク設定ツール

カメラ画像の、特定の領域が見えないようにプライバシーマスクをかけるツールです。

M40 カメラのパン・チルト・ズーム動作を行った場合でも、プライバシーマスク領域はカメラ画像に追従します。

カメラの映像を確認しながら、8箇所までプライバシーマスクを設定できます。

プライバシーマスク設定ツールの表示画面について

① **映像表示部**

現在のカメラ映像が表示されます。プライバシーマスクのサイズ変更・移動ができます。

M40

カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、VB-M40 ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 7-5) を参照してください。

② **[画面サイズ切換] ボタン**

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「320x240」または「640x480」に切り換わります。

③ **[マウス操作切換] ボタン** M40

ボタンをクリックするたびに と の間で切り換わり、映像表示部でのマウス操作が変わります。

ボタンが の状態のとき、プライバシーマスクのサイズ変更・移動ができます。このとき、カメラの向きは変わりません。

ボタンが の状態のとき、カメラのパン・チルト操作ができます。

④ **[逆光補正] ボタン**

逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑤ **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**

カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 7-7) を参照してください。管理者ビューワーなど他でカメラ制御権が取得されていなければ、プライバシーマスク設定ツールを起動した時点で、制御権が取得されます。

⑥ **[フォーカス]**
制御権を取得している場合に操作できます。フォーカスの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「フォーカスを設定する」(P. 7-14) を参照してください。

⑦ **[スマートシェード補正]**
制御権を取得している場合に操作できます。スマートシェード補正の操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「スマートシェード補正を設定する」(P. 7-14) を参照してください。

⑧ **登録済みプライバシーマスク領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア)**
カメラの物理的な撮影可能領域の、どの部分にプライバシーマスクが設定されているかを確認できます。
M40
カメラにパノラマ画像が登録されていても、ここには表示されません。

⑨ **[プライバシーマスク登録数]**
登録されているプライバシーマスクの数を表示します。最大8個のプライバシーマスクを設定できます。

⑩ **[次へ]**
複数のプライバシーマスクを設定している場合、ボタンをクリックして、選択中のプライバシーマスクを切り換えます。

⑪ **[色]**
プライバシーマスク領域の表示色を選択します。すべてのプライバシーマスク領域が、選択した色に設定されます。

⑫ **[簡単追加]**
プライバシーマスク領域を追加して、カメラに保存します。

⑬ **[簡単変更]**
プライバシーマスク領域の変更を反映して、カメラに保存します。

⑭ **[カメラから削除]**
カメラに保存されているプライバシーマスク領域を削除します。

⑮ **[ブレ補正]** M40
カメラのブレ補正の使用状態を表示します。ブレ補正は、設定ページの [カメラ] で設定します (P. 5-11)。

⑯ **[詳細設定]**
詳細設定の項目を表示します。

⑯-1 **[プライバシーマスクを有効にする] チェックボックス**
選択しているプライバシーマスク領域の設定を有効にする場合、チェックボックスをチェックします。

⑯-2、⑯-3 **[カメラ位置の取り込み]** M40
カメラアングルを取り込みます。カメラのパン・チルト・ズームの値を取り込み、(⑯-2) に表示します。

⑯-4 **[プライバシーマスクの位置と大きさ]**
プライバシーマスクの位置の左、上、幅、高さを設定します。

⑯-5 **[設定のプレビュー]**
[詳細設定]の設定内容を、映像表示部と登録済みプライバシー領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア) に反映します。

⑰ **[設定を戻す]**
ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑱ **[設定を保存]**
[詳細設定]で設定したプライバシーマスクの設定をカメラに保存します。

プライバシーマスク領域を設定する

カメラの映像を確認しながら、プライバシーマスク領域を設定します。

1 **カメラの制御権が取得されていない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、制御権を取得する**

2 **プライバシーマスク領域の位置と大きさを設定する**

映像表示部に、プライバシーマスク領域を示すプレビュー枠が表示されます。

サイズを変更する場合は、プレビュー枠の四辺の■をドラッグします。プライバシーマスク領域の移動は、枠内をドラッグします。
変更を取り消して、カメラに保存されている設定に戻す場合は、[設定を戻す] をクリックします。

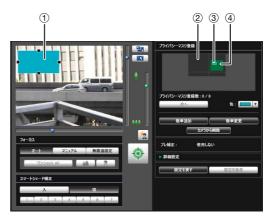
3 **[簡単追加] をクリックして、プライバシーマスク領域を保存する**

設定したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

最大8個のプライバシーマスクを設定できます。続けてプライバシーマスク領域を設定する場合は、設定操作を繰り返してください。

4 **プライバシーマスク領域を確認する**

プライバシーマスク領域を保存すると、映像表示部と登録済みプライバシーマスク領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア) にプライバシーマスク領域が表示されます。

VB-M700F / VB-M600D / VB-M600VE

映像表示部
有効に設定されているプライバシーマスクは領域内が塗りつぶされて表示されます。無効に設定されているプライバシーマスクは枠のみ表示されます。

プライバシーマスク領域
[プライバシーマスクを有効にする] がチェックされているプライバシーマスクは、領域内が塗りつぶされて表示されます。チェックされていないプライバシーマスクは枠内に斜線が表示されます。

VB-M40

① **プライバシーマスク領域**
有効に設定されているプライバシーマスクは領域内が塗りつぶされて表示されます。無効に設定されているプライバシーマスクは枠のみ表示されます。

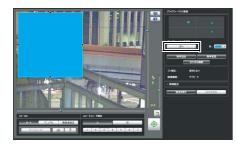
② **可視範囲領域**
可視範囲設定ツールで設定した領域です。

③ **プライバシーマスク領域**
[プライバシーマスクを有効にする] がチェックされているプライバシーマスクは、領域内が塗りつぶされて表示されます。チェックされていないプライバシーマスクは枠内に斜線が表示されます。

④ **最大広角領域**
最大広角時のカメラアングルの領域です。プライバシーマスク領域のドラッグ操作中のみ表示されます。

重 要

- プライバシーマスクが設定されている領域は、インテリジェント機能で検知されません。
- プライバシーマスクは、カメラから配信されるすべての画像 (ライブ映像、アップロード画像、録画映像) に適用されます。

M40

- デジタルズーム領域では、プライバシーマスクの設定はできません。
- 最大望遠に近いズーム位置でプライバシーマスクを設定した場合、指定位置から若干ずれることがあります。
- プライバシーマスク領域は隠したい領域より大きめに設定してください。また、設定後にカメラのパン・チルト・ズームを実際に動かして、カメラの向きが変わっても隠したい領域が表示されないことを必ず確認してください。
- パノラマ作成ツールでパノラマ画像を保存したあとでプライバシーマスクの設定を変更した場合は、パノラマ作成ツールでパノラマ画像を作成し直してください。
- ブレ補正の設定を変更してから、プライバシーマスクを再設定する場合は、すべてのプライバシーマスクの位置と大きさを再設定してください。

プライバシーマスク領域を変更/削除する

変更のしかた

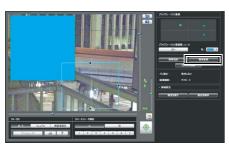
1 **変更したいプライバシーマスク領域を選択する**

登録済みプライバシーマスク領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア) で、変更したいプライバシーマスク領域をクリック、または、[次へ] でプライバシーマスク領域を選択します。

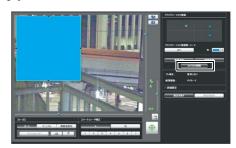
2 **プライバシーマスク領域の位置とサイズを変更する**

プライバシーマスク領域はマウス操作、または数値入力で変更できます。

数値入力する場合

[詳細設定] をクリックします。
[プライバシーマスク領域の位置と大きさ] を数値で入力し、[設定のプレビュー] をクリックしてプレビュー枠の位置と大きさを確認します。
M40
[カメラ位置の取り込み] をクリックすると、現在のパン・チルト・ズームの値を取り込むことができます。

変更を取り消して、カメラに保存されている設定に戻す場合は、[設定を戻す] をクリックします。

3 **[簡単変更] をクリックして、プライバシーマスク領域を保存する**

変更したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

メ モ

無効に設定されているプライバシーマスクを選択して、[簡単変更] をクリックすると、設定が有効に変更されます。

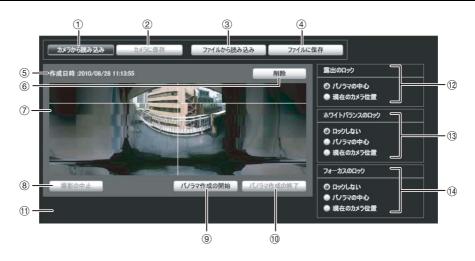
削除のしかた

削除したいプライバシーマスク領域を選択し、[カメラから削除] をクリックします

カメラに保存されたプライバシーマスク領域が削除されます。

パノラマ作成ツール　M40

カメラが撮影可能な全領域を表示するパノラマ画像の撮影・作成ツールです。ビューワーでパン・チルト・ズーム操作を行う際やプリセットの設定などを行う際に、設定した領域が、全領域のどの部分を占めているのかが一目でわかります。

パノラマ作成ツールでパノラマ画像を撮影・作成し、カメラに登録します。

重 要

プライバシーマスク設定ツールでプライバシーマスクの設定を変更した場合、パノラマ画像に新しいプライバシーマスク設定を反映させるため、パノラマ画像の再作成をお勧めします。

パノラマ作成ツールの表示画面について

① [カメラから読み込み]
カメラに保存されているパノラマ画像を表示します。

② [カメラに保存]
現在表示されているパノラマ画像をカメラに保存します。

③ [ファイルから読み込み]
JPEGファイルをパノラマ画像として表示します。

④ [ファイルに保存]
現在表示されているパノラマ画像をJPEGファイルとして保存します。

⑤ 作成日時
パノラマ画像の撮影日時、またはJPEGファイルからパノラマ画像を読み込んだ日時を表示します。

⑥ [削除]
現在表示されているパノラマ画像を削除します。

⑦ パノラマ画像表示領域
パノラマ画像を表示します。

⑧ [撮影の中止]
パノラマ画像の撮影を中止します。

⑨ [パノラマ作成の開始]
パノラマ画像の撮影を開始します。

⑩ [パノラマ作成の終了]
撮影したパノラマ画像を確定します。

⑪ ステータス表示
[撮影中...] など、パノラマ画像撮影時の状態を表示します。

⑫ [露出のロック]
自動露出のロック位置を [パノラマの中心] 、[現在のカメラ位置] から選択します。

⑬ [ホワイトバランスのロック]
ホワイトバランスの設定を [ロックしない] 、[パノラマの中心] 、[現在のカメラ位置] から選択します。

⑭ [フォーカスのロック]
フォーカスの設定を [ロックしない]、[パノラマの中心]、[現在のカメラ位置] から選択します。

パノラマ画像を撮影する

1 **[パノラマ作成の開始] をクリックする**

撮影が開始されます。
必要に応じて、[露出のロック] 、[ホワイトバランスのロック] 、[フォーカスのロック] の設定を変更してください。

途中で撮影を中止したい場合は [撮影の中止] をクリックします。

パノラマ画像にマウスのポインターをあわせると、白い格子枠が表示されます。枠内にポインターをあわせ、右クリックして [再撮影] を選択すると、その部分のみ撮影し直すことができます。

パノラマ画像全体を撮影し直す場合は、再度 [パノラマ作成の開始] をクリックします。

メ モ

- パノラマ画像の撮影中は、一時的にブレ補正機能が解除されます。
- パノラマ画像の作成中は、管理者以外の接続が切断されます。
- 設定ページの [映像] > [JPEG] の [最大フレームレート：映像送信] の値を小さく設定すると、パノラマ撮影が遅くなります。

2 **撮影が完了し、その画像でよければ [パノラマ作成の終了] をクリックする**

パノラマ画像を保存/削除する

パノラマ作成が終了したら、カメラに送信してパノラマ画像を保存することで、画像が反映されます。

保存のしかた

[カメラに保存] をクリックし、表示されたダイアログで [OK] をクリックします

パノラマ画像がカメラに保存されます。

削除のしかた

1 **カメラに保存したパノラマ画像を削除したい場合は、[削除] をクリックし、表示されたダイアログで [OK] をクリックすると、パノラマ画像表示領域の画像が削除されます**

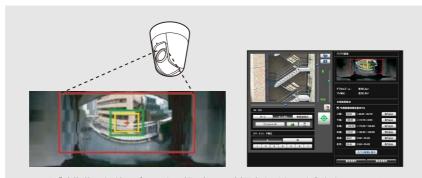
2 **[カメラに保存] をクリックします**

カメラに保存されたパノラマ画像が削除されます。

パノラマ画像を画像ファイルから開く/画像ファイルとして保存する

画像ファイルをパノラマ画像として開いたり、また、撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存できます。扱える画像ファイルはパノラマ作成ツールで作成したJPEG画像のみです。

画像ファイルからの開きかた

[ファイルから読み込み] をクリックし、表示されたダイアログで、使用したい画像ファイルを選択します

保存のしかた

[ファイルに保存] をクリックし、表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力します

可視範囲設定ツール M40

可視範囲設定ツールは、カメラで撮影できる範囲を制限するツールです。可視範囲設定を行った場合は、ビューワーで表示可能な撮影範囲を制限できます。

ライブ映像公開などでズームや一部の視野に制限をかけたいようなケースでは、
可視範囲設定ツールで簡単に可視範囲を設定できます。

[可視範囲設定による制限の適用]

可視範囲設定ツールによる制限は次の場合に適用されます。

- 登録ユーザー権限で管理者ビューワーにアクセスした場合
- VBビューワーにアクセスした場合
- RM-Liteでアクセスした場合

可視範囲設定ツールの表示画面について

① **映像表示部**
現在のカメラ映像が表示されます。
カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、VB-M40 ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 7-5) を参照してください。

② **[画面サイズ切換] ボタン**
ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「320 x 240」または「640 x 480」に切り換わります。

③ **[マウス操作切換] ボタン**
ボタンをクリックすると、 に切り換わります。この状態で映像表示部にマウスのポインターを移動して左クリックすると、パン・チルト操作ができます。ボタンをもう一度クリックすると に戻ります。

④ **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 7-7) を参照してください。

⑤ **[フォーカス]**
制御権を取得している場合に操作できます。フォーカスの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「フォーカスを設定する」(P. 7-14) を参照してください。

⑥ **[スマートシェード補正]**
制御権を取得している場合に操作できます。スマートシェード補正の操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「スマートシェード補正を設定する」(P. 7-14) を参照してください。

⑦ **[パノラマ画面]**
カメラに登録されているパノラマ画像が表示されます。また、可視範囲設定値を再現した可視範囲制限プレビュー枠が表示され、ドラッグ操作で枠の変形を行い、可視範囲設定値に反映できます。

- **可視範囲制限プレビュー枠**
  ⑦-1 パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠)
  ・・・・・・・ 上・下・左・右端の視野の範囲
  ⑦-2 広角プレビュー枠 (緑色枠)
  ・・・・・・・ 広角制限設定 (撮影枠の制限)
  ⑦-3 望遠プレビュー枠 (黄色枠)
  ・・・・・・・ 望遠制限設定 (最大倍率の制限)

⑧ **[デジタルズーム]**
現在のカメラのデジタルズームの使用状態をリアルタイムで表示します。

⑨ **[ブレ補正]**
現在のカメラのブレ補正の使用状態をリアルタイムで表示します。

⑩ **[可視範囲制限を適用する]**
可視範囲制限を使用する場合は、チェックボックスをチェックします。

⑪ **可視範囲設定値入力ボックスおよび [取り込み]**
可視範囲設定値入力ボックスに数値を入力することで設定値を変更できます。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの値が可視範囲の設定値として取り込まれます。

- **可視範囲設定値**
  [上端]：可視範囲の上端限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの上端値を取り込みます。
  [下端]：可視範囲の下端限界値。 [取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの下端値を取り込みます。
  [左端]：可視範囲の左端限界値。 [取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの左端値を取り込みます。
  [右端]：可視範囲の右端限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの右端値を取り込みます。
  [望遠]：可視範囲の望遠限界値。 [取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルのズーム値を取り込みます。
  [広角]：可視範囲の広角限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルのズーム値を取り込みます。

⑫ [**パノラマ画面に表示**]
現在の可視範囲の設定をパノラマ画面に適用します。この時点ではカメラに設定値は保存されません。必ず [設定を保存] を行ってください。

⑬ [**設定を戻す**]
ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑭ [**設定を保存**]
設定した可視範囲設定をカメラに保存します。
可視範囲設定を行った際は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

可視範囲を設定する

可視範囲は、可視範囲設定値入力ボックスに数値を入力するか、パノラマ画面の可視範囲制限プレビュー枠から、または映像表示部のカメラアングルから設定値を変更できます。お使いの環境または目的に応じて選択してください。

■ パノラマ画像上のプレビュー枠を利用して、可視範囲を設定する

1 **[可視範囲制限を適用する] をチェックする**

2 **パノラマ画面の上に表示された [パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠)] 、[望遠プレビュー枠 (黄色枠)] 、[広角プレビュー枠 (緑色枠)] をドラッグして変形し、可視範囲を設定する**

望遠・広角プレビュー枠は拡大・縮小の際、縦横比は一定になります。
このとき、可視範囲設定値入力ボックスに数値を入力して設定することもできます。可視範囲設定値を調整した場合は、[パノラマ画面に表示] をクリックしてください。設定値がパノラマ画面のプレビュー枠に反映されます。

3 **[設定を保存] をクリックする**

正しく適用されたことを確認して、[設定を保存] をクリックすると、カメラに設定値が保存されます。

■ 映像表示部の映像から位置情報を取り込んで設定する

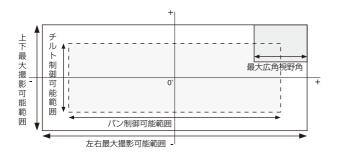
1 **[可視範囲制限を適用する] をチェックする**

2 **[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、カメラの制御権を取得する**

3 **カメラを操作し、上端・下端・左端・右端・望遠・広角を設定したい位置にあわせて、各 [取り込み] をクリックする**

取り込まれた可視範囲は可視範囲設定値入力ボックス、または可視範囲制限プレビュー枠で確認できます。

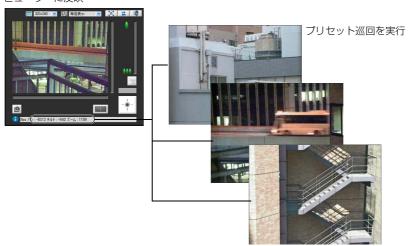
4 **[設定を保存] をクリックする**

カメラに設定値が保存されます。

重 要

- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、パノラマ画像を撮影し直して再登録してください。
- パノラマ画面は実際の映像と若干異なる場合があります。可視範囲設定を行ったのち、必ずVBビューワーで可視範囲設定が正しく反映されているかどうかの確認を行ってください。
- 設定の確認はVBビューワーで行ってください (本ツールの映像表示部や、管理者ビューワーでは可視範囲制限が適用されません) 。
- ブレ補正、デジタルズームの設定を変更した場合は、可視範囲設定を再度確認してください。

メ モ

- 可視範囲設定をしていても、可視範囲の境界付近にカメラを制御した場合、一瞬可視範囲外が映り込むことがあります。
- 可視範囲設定を解除したい場合は、 [可視範囲制限を適用する] のチェックを外して、[設定を保存] をクリックします。
- [可視範囲制限を適用する] をチェックした状態で設定値を空欄にすると、最大可視範囲が設定されます。
- 制御可能範囲と撮影可能範囲は次のようになっています。

- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率 (視野角) によって変わります。

- ズームを広角側に制御することで可視範囲を超えてしまう場合は、カメラはいったん、ワ イド端が可視範囲内に収まる位置までパン · チルトします。その後、可視範囲内で広角側の制御が可能となります。

撮影される映像
制限した可視範囲
ズーム アウト
いったん、最大広角の中心までパン · チルトします。
ズーム アウト
パン · チルトしたあと、可視範囲内で広角が制御できます。

- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

6

管理ツール

プリセット設定ツール M40

プリセットやホームポジションを、より視覚的に容易に設定できるツールです。パノラマによるプレビューを参照しながら、マウス操作での設定が行えます。また、複数のプリセットを巡回して監視を行うプリセット巡回を設定できます。

重 要

カメラのインテリジェント機能を使用する場合、インテリジェント機能の監視対象となるカメラ位置を、プリセット設定ツールでプリセットとして登録しておくことを強く推奨します。

プリセット設定ツールの表示画面について

プリセット設定ツールの表示画面には、[プリセット] タブと [プリセット巡回] タブの2つがあります。
[プリセット] タブでは、パノラマ画面を参照しながら最大20個のプリセットとホームポジションを設定します。
[プリセット巡回] タブでは、複数のプリセットを巡回して監視を行うプリセット巡回を設定します。
ここでは、[プリセット] タブの表示画面について説明します。
[プリセット巡回] タブについては、「プリセット巡回について」(P. 6-20) をご覧ください。

■ [プリセット] タブの表示画面について

① **映像表示部**
現在のカメラ映像が表示されます。
カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、VB-M40ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 7-5) を参照してください。

② **[画面サイズ切換] ボタン**
ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「320 x 240」または「640 x 480」に切り換わります。

③ **[マウス操作切換] ボタン**
ボタンをクリックすると、[+] に切り換わります。この状態で映像表示部にマウスのポインターを移動して左クリックすると、パン・チルト操作ができます。ボタンをもう一度クリックすると [↖] に戻ります。

④ **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 7-7) を参照してください。

⑤ **[フォーカス]**
制御権を取得している場合に操作できます。フォーカスの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「フォーカスを設定する」(P. 7-14) を参照してください。

⑥ **[スマートシェード補正]**
制御権を取得している場合に操作できます。スマートシェード補正の操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「スマートシェード補正を設定する」(P. 7-14) を参照してください。

⑦ **[パノラマ画面]**
カメラに登録されているパノラマ画像が表示されます。プリセット設定値を再現したプリセットプレビュー枠(黄色) が表示され、ドラッグ操作で枠のサイズ変更・移動を行い、プリセット設定値に反映できます。また、可視範囲制限の設定がある場合は、その領域が青色枠で表示されます。

⑧ **[プリセット] タブ/ [プリセット巡回] タブ**
プリセット設定とプリセット巡回設定のタブ表示を切り換えます。

⑨ **[プリセット/ホームポジション] 選択ボックス**
設定を行うプリセット1～ 20または [ホームポジション] の選択をします。

⑩ **[簡単登録]**
現在のカメラの位置を取り込んでプリセット設定値として登録します。

⑪ **[プリセット名 (半角英数字)] / [プリセット名 (日本語)]**
プリセット名を64文字以内で入力できます。半角英数字と日本語の名称が設定できます。半角英数字のプリセット名は必ず入力してください。半角英数字と日本語を両方入力した場合、ビューワーのプリセットには日本語が優先で表示されます。
⑨で [ホームポジション] を選択した場合は、グレー表示になります。
[プリセット名 (半角英数字)] には、ASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。
[プリセット名 (日本語)] には、JIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

⑫ **[詳細設定]**
詳細設定の項目を表示します。

⑫-1 **[ビューワーで使用する] チェックボックス**
ビューワーでプリセットを使用する場合はチェックボックスをチェックします。⑨で[ホームポジション]を選択した場合は、グレー表示になります。

⑫-2 **カメラパラメーター**
[パン] 、[チルト] でセットしたいアングルの中心の角度を入力してください。[ズーム] は視野角を入力してください。

- **カメラアングル**
[パン]・・・カメラのパン位置を設定します。
[チルト]・・カメラのチルト位置を設定します。
[ズーム]・・カメラの画角を設定します。

- **[逆光補正]**
カメラの逆光補正を [切] 、[入] から選択します。

- **[フォーカスモード]**
カメラのフォーカスモードを [オート] 、[マニュアル] 、[無限遠固定]から選択します。(P. 7-14)

- **[スマートシェード補正]**
カメラのスマートシェード補正を [切] または [1] (弱) ～ [7](強) の7段階から選択します。

- **[ホワイトバランス]**
ホワイトバランスを [オート] または使用状況の光源にあわせて選択します。光源の詳細はP. 5-10を参照してください。

- **[R ゲイン] [B ゲイン]**
[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、ゲイン値をそれぞれ0～1023の間で設定します。

⑬ **[カメラ情報の取り込み]**
現在の映像表示部でのカメラアングルや、⑤ [フォーカス]、⑥ [スマートシェード補正]の設定を取り込み、パノラマ画面やカメラパラメーターの各値に反映します。

⑭ **[設定のプレビュー]**
編集中のカメラパラメーターの各値で、カメラアングルや⑤ [フォーカス]、⑥ [スマートシェード補正]を合わせ、映像表示部にプレビューします。

⑮ **[設定のクリア]**
選択しているプリセットの設定を、破棄します。

⑯ **[設定を戻す]**
ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑰ **[設定を保存]**
編集したプリセット設定値をカメラに保存します。
プリセット設定を行った際は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

プリセットを設定する

プリセットは、次の2種類の方法で設定できます。お使いの環境または目的に応じて選択してください。

■ 映像表示部のカメラアングルから設定する

1 **設定するプリセットを [プリセット/ホームポジション] 選択ボックスから選択し、[プリセット名] を入力する**

2 **[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、カメラの制御権を取得する**

3 **映像表示部でカメラを操作し、設定したい位置にあわせて、[簡単登録] をクリックする**

■ パノラマ画面のプレビュー枠を利用して、プリセットを設定する

パノラマ画面のプレビュー枠を利用して、プリセットを設定します。

1 **設定するプリセットを [プリセット/ホームポジション] 選択ボックスから選択し、[プリセット名] を入力する**

プリセット名 (半角英数字) は必ず入力してください。

2 **パノラマ画像の上に表示されたプリセットプレビュー枠をドラッグして移動・変形してプリセットを設定する**

パノラマ画像上をクリックすると、その地点を中心とするようにプレビュー枠が移動します。

3 **[設定プレビュー] をクリックする**

設定がパノラマ画面のプレビュー枠および映像表示部に反映されます。

設定値を誤ってプレビューした場合など、カメラに登録された設定値に戻したい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

4 **[設定を保存] をクリックする**

■ 詳細設定を行う

カメラアングルの微調整や、映像の調整を行う場合は、プリセットの設定をカメラに保存する前に [詳細設定] をクリックして設定します。

1 **[ビューワーで使用する] チェックボックスをチェックする**

2 **[カメラ情報の取り込み] をクリックする**

映像表示部でのカメラパラメーターが [詳細設定] に取り込まれます。

3 **映像を見ながら、カメラアングルを微調整し、フォーカスやスマートシェード補正などの画質を調整する**

4 **[設定のプレビュー] をクリックする**

設定がパノラマ画面のプレビュー枠および映像表示部に反映されます。
設定値を誤ってプレビューした場合など、カメラに登録された設定値に戻したい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

5 **[簡単登録] をクリックする**

重 要

- ビューワーでプリセットを使用するには、[ビューワーで使用する] チェックボックスをチェックしてください。
- フォーカスモードをマニュアルにする場合は、映像表示部で実際の映像を見ながらマニュアルでフォーカスの調整を行います。フォーカスの調整後、[カメラ情報の取り込み] で設定してください。[設定を保存] でフォーカス値が保存されます。
- プリセット設定を行った後、ブレ補正の設定を変更すると、設定時の画角と操作時の画角が一致しなくなります (P. 5-11) 。ブレ補正の設定を変更した場合は、プリセット設定を再度確認してください。
- ドームハウジングを使用する場合は、必ずドームを装着した状態でプリセット設定を行ってください。
- カメラの設置条件を変更した場合は、プリセット設定をし直してください。

メ モ

- プリセットは最大20個まで設定できます。
- プリセットの設定変更は、接続中のビューワーには反映されません。
- [詳細設定] の [ビューワーで使用する] のチェックを外すと、ビューワーでプリセットを使用しないようにできます。
- デジタルズーム領域でのプリセット位置設定はできません。

プリセット巡回について

すでに設定した複数のプリセットを巡回して監視を行う、プリセット巡回を設定します。

■ [プリセット巡回] タブの表示画面について

① **[プリセット巡回] 選択ボックス**
プリセット巡回を行うタイミングを次から選択します。

[使用しない]
プリセット巡回は作動しません。

[ビューワー接続中]
VBビューワーなどでカメラに接続しているときに作動します。

[常時]
プリセット巡回は常に作動します。

② **巡回スケジュール一覧**
プリセット巡回設定をしたプリセットの一覧が表示されます。

③ **[上へ] ・[下へ]**
巡回スケジュール一覧のプリセットを選択し、[上へ] または [下へ] をクリックすると、プリセット巡回の順序を変更します。プリセット巡回は上から順に行われます。

④ **[削除]**
巡回スケジュール一覧から選択したプリセットを削除します。

⑤ **[プリセット] 選択ボックス**
巡回スケジュール一覧に追加するプリセットを選択します。

⑥ [プレビュー]
カメラのアングルが選択したプリセットに切り換わり、映像表示部で確認できます。

⑦ [移動速度 (PT)]
パン・チルトを行う際のカメラの移動速度を [遅い]、[普通]、[速い] から選択します。

⑧ [移動速度 (Z)]
ズームを行う際のカメラの速度を [遅い]、[速い] から選択します。

⑨ [静止時間 (秒)]
プリセット位置にカメラが停止する時間を0～120秒の範囲で5秒単位で設定します。

⑩ [追加]
設定したプリセットを巡回スケジュール一覧に追加します。

⑪ [変更]
巡回スケジュール一覧から選択したプリセット間の移動速度や、静止時間の設定を変更できます。

メモ

- ビューワーや管理ツールなどでカメラ制御が行われているときは、プリセット巡回は行われません。
- RM-Liteで制御権が取得されているときは、プリセット巡回は行われません。

■ プリセット巡回を設定する

1 [プリセット巡回] 選択ボックスから巡回方法を選択する

[ビューワー接続中] または [常時] を選択してください。

2 [プリセット] 選択ボックスから、巡回スケジュールに加えたいプリセット番号を選択し、[追加] をクリックする

巡回スケジュール一覧にプリセットが登録されます。最大20個まで登録できます。

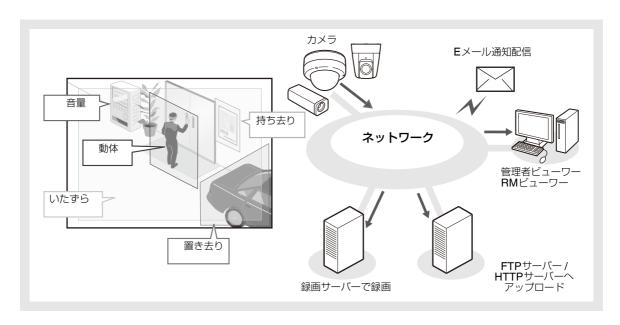
3 巡回スケジュール一覧でプリセットを選択し、[移動速度 (PT)]、[移動速度 (Z)]、[静止時間 (秒)] でプリセットのパン・チルト・ズームの速度と、プリセット位置で静止する秒数を設定して、[変更] をクリックする

[プレビュー] をクリックすると、カメラアングルがこのプリセットに切り換わり、映像表示部で確認できます。

巡回スケジュール一覧の内容を破棄し、カメラに登録された設定に戻したい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

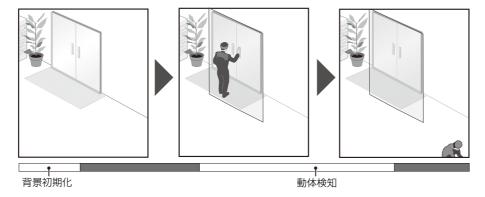
4 [設定を保存] をクリックする

巡回スケジュール一覧の設定が完了したら、[設定を保存] をクリックしてください。カメラに設定値が保存されます。

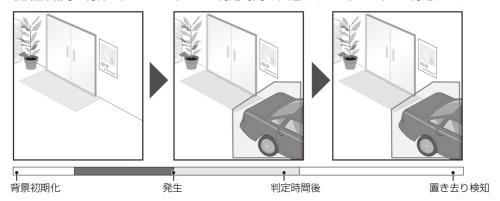
重要

プリセット巡回を使用する場合は、インテリジェント機能を使用しないでください。また、[デイナイト] の設定を [オート] にした場合、パン・チルト・ズーム・フォーカスの焦点が合ってから静止時間をカウントするため、静止時間が延びる場合があります。

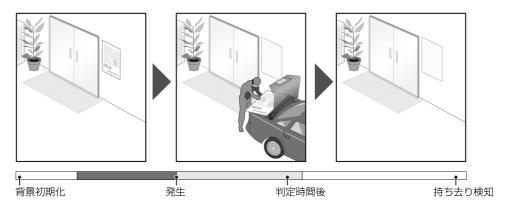
メモ

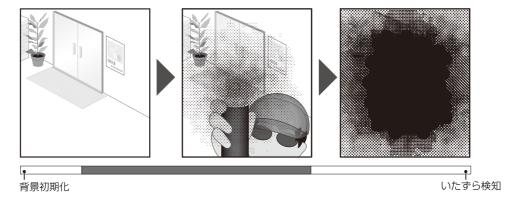
ホームポジションを巡回スケジュール一覧に追加することはできません。

インテリジェント機能設定ツール

被写体が動くことで映像に変化があった場合、その時点でアップロード、ビューワーへの通知、音声の再生などを行うインテリジェント機能を設定するためのツールです。

インテリジェント機能には、次の5つの検知種別があります。目的に応じた検知種別を利用してください。

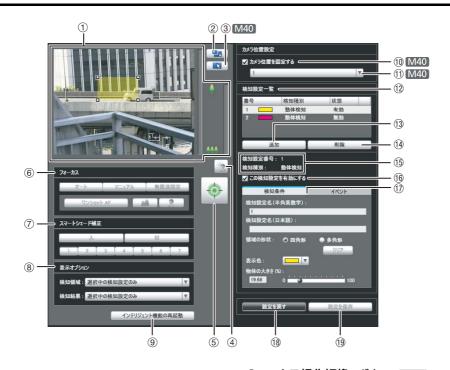
動体検知

動いている物体を検知します。来訪者や不審者の検知に利用できます。
検知領域内に動く物体が入っている間、動体検知になります。

置き去り検知

持ち込まれた物体が一定時間以上、置かれたままであることを検知します。置き去りにされた不審物の検知に利用できます。
検知領域内に物体が置かれ、そのまま判定時間を経過すると、置き去りと判定します。

持ち去り検知

物体が持ち去られたことを検知します。貴重品などの持ち去り行為の検知に利用できます。
検知領域内の物体が持ち去られ、そのまま判定時間を経過すると、持ち去りと判定します。

いたずら検知

撮影が妨げられたことを検知します。カメラの向きを変えたり、スプレーなどで映像表示を妨害する行為の検知に利用できます。
設定した面積より広い領域が物体などで変化し続けると、いたずらと判定します。

音量検知

音量レベルの設定に従って検知します。設定の詳細は「5章 設定ページ」の [イベント] > [音量検知] (P. 5-20) を参照してください。

注意
カメラご利用上の注意事項 インテリジェント機能は高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、使用しないことをお勧めします。インテリジェント機能の動作の結果生じた事故、損害などについて、弊社では一切の責任を負いかねます。

インテリジェント機能設定ツールの表示画面について

① **映像表示部**
現在のカメラ映像が表示されます。検知領域が半透明の塗りつぶし (四角または多角形) で表示され、ドラッグ操作で枠の変更ができます。また、動きが検知された被写体は輪郭線で表示されます。
M40
カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、VB-M40 ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 7-5) を参照してください。
ただし、⑩ [カメラ位置を固定する] にチェックが付いているときは、カメラがプリセット位置に固定されパン・チルト・ズーム操作はできません。

② **[画面サイズ切換] ボタン**
ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「320x240」または「640x480」に切り換わります。

③ **[マウス操作切換] ボタン** M40
ボタンをクリックするたびに と の間で切り換わり、映像表示部でのマウス操作が変わります。
ボタンが の状態のとき、検知領域の作成・サイズ変更・移動ができます。
このとき、カメラの向きは変わりません。
ボタンが の状態で、⑩ [カメラ位置を固定する] にチェックが付いていないときに、カメラのパン・チルト操作ができます。

④ **[逆光補正] ボタン**
逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑤ **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 7-7) を参照してください。管理者ビューワーなど他でカメラ制御権が取得されていなければ、インテリジェント機能設定ツールを起動した時点で、制御権は取得されます。

⑥ **[フォーカス]**
制御権を取得している場合に操作できます。フォーカスの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「フォーカスを設定する」(P. 7-14) を参照してください。
M40
⑩ [カメラ位置を固定する] チェックボックスがチェックされているときは操作できません。

⑦ **[スマートシェード補正]**
制御権を取得している場合に操作できます。スマートシェード補正の操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「スマートシェード補正を設定する」(P. 7-14) を参照してください。
M40
⑩ [カメラ位置を固定する] チェックボックスがチェックされているときは操作できません。

⑧ **[表示オプション]**
映像表示部に表示する [検知領域] または [検知結果] を次から選択します。

- **[選択中の検知設定のみ]**
  検知設定一覧で選択している検知設定の検知領域または検知結果のみ表示します。
- **[すべての検知設定]**
  検知設定一覧のすべての検知設定の検知領域または検知結果を表示します。
- **[同じ検知種別の検知設定]**
  検知設定一覧で選択している検知設定と同じ種別の検知設定の検知領域、または検知結果を表示します。
- **[表示しない]**
  すべての検知領域または検知結果を表示しません。

⑨ **[インテリジェント機能の再起動]**
設定中に背景の映像が変化してしまったときや、設定どおりの検知結果にならないときは、ボタンをクリックしてインテリジェント機能を再起動してください。

重 要
インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。

⑩ **[カメラ位置を固定する] チェックボックス** M40
プリセット選択ボックスで選択したプリセットにカメラ位置を移動して固定する場合は、チェックボックスをチェックします。正しい検知結果を得るために、カメラ位置を固定して検知設定を行ってください。
カメラ制御権を取得していない場合は、グレー表示になります。

⑪ **カメラ位置選択ボックス** M40
カメラを固定する位置を、可視範囲内のプリセットおよびホームポジションから選択します。プリセットおよびホームポジションは、プリセット設定ツールで設定してください (P. 6-2) 。

⑫ **[検知設定一覧]**
設定した検知設定の一覧が表示されます。

⑬ **[追加]**
新規検知設定ダイアログが表示され、検知設定を追加できます。

⑭ **[削除]**
検知設定一覧から選択した検知設定を削除します。

⑮ **[検知設定番号]、 [検知種別]**
[検知設定一覧] で選択している検知設定の番号および検知種別を表示します。

⑯ **[この検知設定を有効にする] チェックボックス**
検知設定一覧で選択している検知設定を有効にする場合は、チェックボックスをチェックします。

⑰ **[検知条件] タブ/ [イベント] タブ**
検知条件タブとイベントタブの表示を切り換えます。

- **[検知条件]**
  検知設定名、検知領域、検知条件を指定します(P. 6-27)。
- **[イベント]**
  イベント発生時の動作を指定します(P. 6-28)。

⑱ **[設定を戻す]**
ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑲ **[設定を保存]**
編集した検知設定をカメラに保存します。
検知設定を行った際は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

インテリジェント機能設定の流れ

インテリジェント機能は次の手順で設定します。設定方法の詳細については、各参照ページをご覧ください。

■ カメラ位置の設定 M40

1 **プリセット設定ツールで、カメラのアングルをプリセット登録しておく**

プリセット設定方法の詳細については、「プリセット設定ツール」(P. 6-16) をご覧ください。

重 要

あらかじめカメラのアングルをプリセット設定しておき、インテリジェント機能設定ツールでカメラをプリセット位置に固定することを強く推奨します。また、対象となる物体が大きく撮影される画角をお勧めします。

2 **インテリジェント機能設定ツールを起動する**

3 **カメラ位置を設定する**

カメラ制御権を取得し、[カメラ位置を固定する] をチェックしてプリセットを選択します。
あらかじめプリセット設定ツールで、プリセットの設定を行ってください (P. 6-2)。

■ インテリジェント機能の設定

1 **検知設定を追加する**

[検知設定一覧] の [追加] をクリックすると、[新規検知設定] ダイアログが表示されますので、追加する検知設定の [検知設定番号] と [検知種別] を設定して [OK] をクリックします。
最大15種類の検知設定を登録できます。

① [検知設定番号]
設定する検知領域の検知設定番号を1 ～ 15 から指定します。

② [検知種別]
[動体検知] 、[置き去り検知] 、[持ち去り検知] 、[いたずら検知] から、目的に合った検知種別を選択します。種別の詳細はP. 6-22を参照してください。

2 **検知設定を有効にする**

検知設定を有効にする場合、[この検知設定を有効にする] をチェックします。
無効にしたいときはチェックを外してください。

3 **検知条件を設定する ([検知条件] タブ P. 6-27)**

映像表示部で操作、確認しながら、検知条件を設定します。

4 **被写体の変化を検知したときの動作を設定する ([イベント] タブ P. 6-28)**

検知時のメール通報、アップロード、音声再生を設定します。

5 **検知設定をカメラに保存する**

[設定を保存] をクリックして、設定した内容をカメラに保存します。

6 **検知結果を確認する**

設定した検知設定の検知状況は、管理者ビューワーのイベント表示パネルのアイコンで確認できます (P. 7-17) 。

重 要

インテリジェント機能設定・運用上の注意

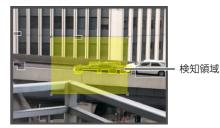
- インテリジェント機能を設定するにあたっては、実際に検知テストを行い、正しく検知できるか確認してください。
- 画面全体に急激な明暗の変化が発生した場合、最長5分間、意図通りに検知されないことがあります。
- [デイナイト] の設定が [オート]の場合は、[デイモード] / [ナイトモード] の自動切り換えが行われたときに [インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。]と表示され、インテリジェント機能が再起動します。再起動中は検知が実行されません。
- オンスクリーンを表示する領域には、検知領域を設定しないでください。
- プライバシーマスク設定エリアは、被写体の動きを検知できません。

M40

- インテリジェント機能の設定中や動作中にカメラ操作をした場合は、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。]と表示され、インテリジェント機能が再起動します。再起動中は検知が実行されません。
- カメラ操作で画角を変更した場合や、カメラ位置に固定しているプリセットやホームポジションをプリセット設定ツールで変更した場合は、インテリジェント機能設定を見直してください。

苦手被写体

- 背景との、明るさや色の違いが少ない物体および部分は、検知されない場合があります。
- 画面上の小さな物体や変化は、検知されない場合があります。
- 画面全体や一部の明るさの変化が、検知される場合があります。
- 複数の物体が重なると、検知状態が変化する場合があります。

インテリジェント機能の検知設定をする

■ 検知条件を設定する（[検知条件] タブ）

検知条件を映像表示部で操作、確認しながら設定します。

[検知条件] タブ

映像表示部

① **[検知設定名 (半角英数字)] / [検知設定名 (日本語)]**
検知設定名を64文字以内で入力します。半角英数字の検知設定名は必ず入力してください。
[検知設定名 (半角英数字)] にはASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。
[検知設定名 (日本語)] にはJIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

② **[領域の形状]**
映像表示部で設定する検知領域の形状を、[四角形] か [多角形] から選択します。
検知領域の設定操作については、「検知種別ごとの検知条件を設定する」(P. 6-29) を参照してください。

[クリア]
[領域の形状] が [多角形] の場合、映像表示部に設定した検知領域を削除します。

③ **[表示色]**
検知設定の色を選択します。ここで選択した色は、映像表示部の検知領域の表示色になります。

④ **[物体の大きさ (%)] [変化割合 (%)] [判定時間 (秒)]**
設定した検知領域に対する、検知した大きさや変化の割合、判定時間の下限値を設定します。ここで設定した値を超えたとき、検知あり状態となります。
テキストボックスをクリックして数値を直接入力するか、スライダーで設定します。
設定方法の詳細は「検知種別ごとの検知条件を設定する」(P. 6-29) を参照してください。

重 要

- 検知条件の設定は、できる限り実際の運用に近い状態で設定することをお勧めします。

■ イベント時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知したときの動作を設定します。

[イベント] タブ

① **動作のタイミングの指定 (複数指定可能)**

[ONイベント時の動作] チェックボックス
チェックすると、検知ありの状態になったとき、② [メール通報] 、[アップロード] の設定にしたがった処理を行います。

[OFFイベント時の動作] チェックボックス
チェックすると、検知ありの状態が終了したとき、② [メール通報] 、[アップロード] の設定にしたがった処理を行います。

[検知あり状態時の動作] チェックボックス
チェックすると、検知ありの状態の続く間、② [メール通報] 、[アップロード] の設定にしたがった処理を行います。

② **イベント時の動作の指定 (複数指定可能)**

[メール通報] チェックボックス
チェックすると、①で指定したタイミングでメール通報を行います。あらかじめ、設定ページの [アップロード] で、[メール通報] の設定をする必要があります (P. 5-17)。

[アップロード] チェックボックス
チェックすると、①で指定したタイミングでアップロードを行います。あらかじめ、設定ページの [アップロード] で、アップロード全般の設定をする必要があります (P. 5-15)。

③ **音声再生のタイミングの指定**

[ONイベント時の音声再生] チェックボックス
チェックすると、検知ありの状態になったとき、④ [再生音名] で設定した音声を再生します。

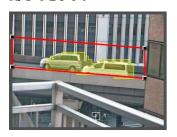
[OFFイベント時の音声再生] チェックボックス
チェックすると、検知ありの状態が終了したとき、④ [再生音名] で設定した音声を再生します。

④ **再生音の設定**

[再生音名]
再生する音声を選択します。設定ページの [イベント] で、[再生音ファイル登録]を設定した再生音名がプルダウンリストに表示されます (P. 5-22) 。

[音量]
再生音の音量を1～100の範囲で設定します。

■ 検知領域を設定する

検知領域は、映像表示部で設定します。

[四角形] で検知領域を設定する場合
映像表示部にデフォルトで四角形が表示されるので、その四角形を移動、リサイズして、検知する領域を設定します。

[多角形] で検知領域を設定する場合

最大32頂点の多角形の領域を指定できます。
映像表示部で多角形の頂点を順番にクリックします。最初の頂点をもう一度クリックすると多角形が作成され、検知領域として設定されます。設定した領域をドラッグして移動もできます。

メ モ

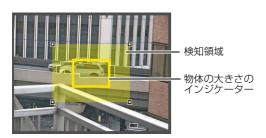
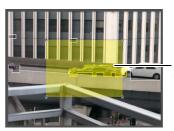
- 各頂点の"■"をドラッグすると多角形の形状を変更できます。
- [クリア] をクリックすると、多角形の検知領域はクリアされます。
- いたずら検知の検知領域は変更できません。

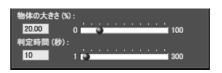
[四角形] から [多角形] への変更、および[多角形] から [四角形] への変更

すでに検知領域を設定していた場合、形状を変更すると領域が削除され、新しい描画設定に切り換わります。

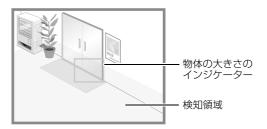
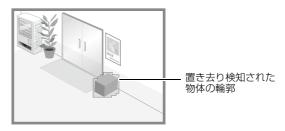
■ 検知種別ごとの検知条件を設定する

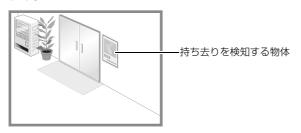
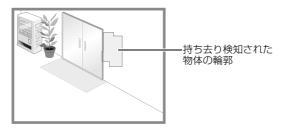
検知種別によって、検知条件の設定内容が異なります。

[動体検知] の検知条件

動いている物体を検知したい領域を、検知領域に設定します。

[物体の大きさ (%)]には、検知領域に対する、検知領域内で動く物体の大きさの割合を、入力またはスライダーで設定します。
カメラが動体を検知した領域の割合が、[物体の大きさ(%)] の設定値を超えたとき、検知あり状態になります。

[物体の大きさ (%)] を変更すると、物体の大きさを表すインジケーター枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定できます。

動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。[物体の大きさ (%)] より動体が小さい場合、輪郭は白の線で表示されます。[物体の大きさ (%)] より大きい動体の場合は、輪郭が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

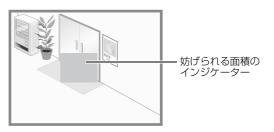
[置き去り検知] の検知条件

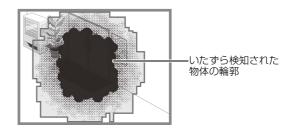
物体が置かれたことを検知したい領域を、検知領域に設定します。

[物体の大きさ (%)]
検知領域に対する、検知領域内に置かれた物体の大きさの割合を、入力またはスライダーで設定します。
[物体の大きさ (%)] を変更すると、物体の大きさを表すインジケーター 枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定できます。
[判定時間 (秒)]
物体が置かれてからの経過時間を設定します。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の設定値を両方超えたとき、検知あり状態になります。

動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭は白の線で表示されます。すべての検知条件を満たした場合、輪郭は検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

[持ち去り検知] の検知条件

持ち去りを検知したい物体を検知領域に設定します。

[判定時間 (秒)] には、持ち去られてからの経過時間を設定します。検知領域内の物体が持ち去られ、[判定時間 (秒)] 以上経過したとき、検知あり状態になります。

動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。[判定時間 (秒)] 未満の間、輪郭は白の線で表示されます。[判定時間 (秒)] 以上経過すると、輪郭が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

重 要

持ち去り検知の検知領域は、対象物の外形に沿って正確に設定してください。対象物の影や隣接する物体の影響で、対象物が実際より大きな物体として認識され、持ち去りを検知できない場合があります。その場合は、対象物と認識された輪郭に沿って、検知領域を再設定してください。

[いたずら検知] の検知条件

[いたずら検知] の場合は映像表示部全体が検知領域になります。[変化割合 (%)] で設定した割合を超える面積の映像が妨げられたときに「検知あり」と判定します。

[変化割合 (%)] を変更すると、妨げられる面積を表すインジケーター枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、映像表示部全体に占める割合を確認しながら設定できます。

動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。[変化割合(%)] 未満の大きさの場合、輪郭は白の線で表示されます。[変化割合 (%)] 以上の大きさで映像が変化すると、輪郭が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

メ モ

インテリジェント機能設定ツールの画面上で右クリックするとメニューが表示され、次の機能が使用できます。

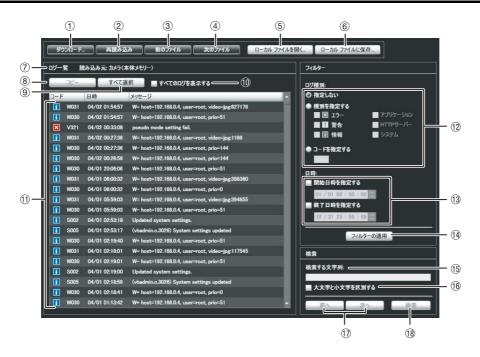
[検知領域をコピー]
設定中の検知設定の検知領域をコピーします。

[検知領域を貼り付け]
コピーされている検知領域を、設定中の検知設定に貼り付けます。いたずら検知には貼り付けられません。

[検知領域をクリア]
設定中の検知設定の検知領域をクリアします。いたずら検知ではクリアできません。

[検知条件の設定値をコピー]
設定中の検知設定の検知条件をコピーします。

[検知条件の設定値を貼り付け]
コピーされている検知条件を、設定中の検知設定に貼り付けます。

[イベントの設定値をコピー]
設定中の検知設定のイベント内容をコピーします。

[イベントの設定値を貼り付け]
コピーされているイベント内容を、設定中の検知設定に貼り付けます。

ログビューワー

カメラの動作状況のログを閲覧できるツールです。

ログビューワーの表示画面について

① [**ダウンロード**]
カメラ本体またはSDメモリーカードからログファイルをダウンロードします。

② [**再読み込み**]
表示中のログファイルを再度読み込み、最新のログを表示します。

③ [**前のファイル**]
本体メモリーまたはSDメモリーカードのログファイルが複数に分かれている場合、表示中のログ一覧の前のファイルを読み込み、表示します。

④ [**次のファイル**]
カメラ本体またはSDメモリーカードのログファイルが複数ある場合、表示中のログ一覧の次のファイルを読み込み、表示します。

⑤ [**ローカル ファイルを開く**]
PCに保存されているログファイルをログ表示領域に読み込みます。

⑥ [**ローカル ファイルに保存**]
表示中のログデータをPCにテキストファイルで保存します。

⑦ **読み込み元**
ログファイルの読み込み元の名称が表示されます。
カメラ内蔵メモリーの場合： カメラ (本体メモリー)
SDメモリーカードの場合： カメラ (SDカード)
PCに保存されているファイルの場合：ファイル名

⑧ [**コピー**]
ログ表示領域上で選択したログを、クリップボードにコピーします。

⑨ [**すべて選択**]
ログ表示領域に表示されているすべてのログを選択します。

⑩ [**すべてのログを表示する**] **チェックボックス**
チェックすると、ログコードがないものも含めたすべてのログが表示されます。

⑪ **ログ表示領域**
カメラ、SDメモリーカード、またはPCから読み込んだログファイルの内容が表示されます。

⑫ [**ログ種別**]
フィルター機能で表示するログの種別を選択します。
[指定しない] ：
ログの種類を指定しません。

[種別を指定する] ：
ログのレベル ([エラー] 、[警告] 、[情報]) 、および、ログを出力したモジュール ([アプリケーション] 、[HTTPサーバー] 、[システム]) をチェックしてログの種別を指定します。複数チェックできます。
[コードを指定する] ：
入力したログコードに該当するログが表示されます。

⑬ **[日時]**
フィルター機能で表示するログの日時を設定します。[開始日時を指定する] / [終了日時を指定する] チェックボックスをチェックし、日時を設定してください。

⑭ **[フィルターの適用]**
フィルターを適用した結果をログ表示領域に表示します。

⑮ **[検索する文字列]**
検索する文字列を入力します。

⑯ **[大文字と小文字を区別する] チェックボックス**
検索時に大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。チェックすると、[検索する文字列] と完全に一致する文字列を検索します。

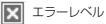
⑰ **[前へ] / [次へ]**
⑱[検索] の検索結果から、[次へ] で下へ選択表示し、[前へ] で上へ選択表示します。

⑱ **[検索]**
表示中のログ一覧から、検索文字列を含むログを上から検索し、表示します。

メ モ
ログビューワーではログの削除はできません。

ログファイルをダウンロードする

ログビューワーを起動すると、自動的に最新のログファイルを取得し、表示します。
新たにログファイルの一覧を取得するには、[ダウンロード] をクリックします。[ダウンロード] ダイアログが表示されますので、ダウンロード元を [本体メモリー] または [SDカード] から選択します。
一覧の取得が完了すると、ログファイルの一覧をダイアログに表示します。閲覧したいログファイルを選択し、[ダウンロード] をクリックすると、選択したログファイルをダウンロードします。

ログを閲覧する

ログには次の内容が表示されます。

- **コード**
  ログコードが表示されます。ログコードは「ログメッセージ一覧」(P. 8-8) を参照してください。
  ログコードとともに、そのレベルに応じた3種類のアイコンが表示されます。
  また、ログコードなしのログは、アイコンなしで表示されます。

 エラーレベル 警告レベル

 情報レベル

- **日時**
  ログの発生日時が表示されます。
- **メッセージ**
  ログのメッセージが表示されます。

■ ログをファイルに保存 / 保存したファイルを開く

保存のしかた

[ローカル ファイルに保存] をクリックし、[名前を付けて保存] ダイアログで保存します。

閲覧のしかた

[ローカル ファイルを開く] をクリックし、[ファイルを開く] ダイアログでログファイルを選択します。

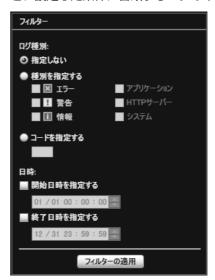
■ ログのコピーや検索

コピーのしかた

コピーしたいログをクリックで選択し、[コピー] をクリックします。

検索のしかた

[検索する文字列] に検索したい文字列を入力し、[検索] をクリックします。
検索対象のログが見つかると、そのログが選択された状態で表示されます。
[前へ] / [次へ] をクリックすると、上または下のログを検索し、見つかったログの行が選択された状態で表示されます。

■ すべてのログを表示する

[すべてのログを表示する] チェックボックスをチェックします。
このとき、[フィルター]のログ種別で[指定しない]が選択されていると、ログコードなしのログも表示されます。

■ 条件でログを選別して表示する

ログの種別、コード、日時でフィルタリングし、必要な情報だけを表示できます。

次の条件を設定して [フィルターの適用] をクリックすると、設定した条件に合致するログのみ表示されます。

[ログ種別]
ログの種別でフィルタリングする場合は [種別を指定する] または [コードを指定する] をチェックします。また、フィルタリングしない場合は [指定しない] を選択します。

- **種別を指定する**

  ログのレベルを指定
  [エラー] 、[警告] 、[情報] のレベルで、表示させるレベルをチェックします。

  ログを出力したモジュールを指定
  [アプリケーション] 、[HTTPサーバー] 、[システム] のモジュールで、表示させる出力元モジュールをチェックします。

- **コードを指定する**
  ログのコードを指定します。入力された文字を含むコードのログのみを表示します。たとえば、「A0」と入力した場合、コードの先頭が「A0」のログを表示します。

[**日時**]

- [開始日時を指定する]
  チェックし、日時を入力すると、指定された日時以降に発生したログが表示されます。
- [終了日時を指定する]
  チェックし、日時を入力すると、指定された日時以前に発生したログが表示されます。

重 要

本体メモリーに保存されているログは、設定ページの [メンテナンス] > [初期設定に戻す] および [再起動] 、カメラのリセットスイッチを実行すると、消去されます。

メ モ

[アプリケーション] 、[HTTPサーバー] 、[システム] はログメッセージ一覧 (P. 8-8) に対応しています。

7章

管理者ビューワー / VBビューワー

ビューワーの概要

Webブラウザーを使ってカメラのビューワーにアクセスすることで、映像表示などのカメラの操作ができます。
ビューワーには、管理者ビューワー、VBビューワーの2種類のビューワーがあります。

VB-M700/600/40ビューワー

管理者ビューワー

VBビューワー

重 要

カメラのH.264 の映像を表示する場合は、RM-Liteビューワーをご使用ください。
VB-M700/600/40ビューワー で表示できるのはJPEG の映像のみです。

管理者ビューワーとVBビューワーの主な違い

- **操作できる範囲が異なります**

  管理者ビューワー：

  撮影条件やイベント検知表示など、管理者コントロールの機能が使用できます。

  VBビューワー：

  カメラ映像表示を中心とした、基本的な映像操作に限られます。

- **アクセス制御が異なります**

  管理者ビューワー：

  特権カメラ制御権を持つユーザーが使用できます。パスワード認証が必要です。
  登録ユーザーで使用する場合は、事前に管理者が特権カメラ制御権を付与する必要があります (P. 5-23)。

  VBビューワー：

  一般カメラ制御権を持つユーザーが使用できます。設定によっては、認証のあり/なしを切り換えるなどができます。

ユーザー権限とカメラ制御権

ユーザー権限とカメラ制御権の関係は次の通りです。

ユーザー権限	カメラ制御権		映像配信	音声配信
	特権カメラ制御	一般カメラ制御		
管理者	○	○	○	○
登録ユーザー	○ (変更可能)	○ (変更可能)	○ (変更可能)	○ (変更可能)
一般ユーザー	×	○ (変更可能)	○ (変更可能)	○ (変更可能)

* 変更可能：管理者によって、登録ユーザーまたは一般ユーザーの権限を変更できます (P. 5-23)。

ユーザーには、特権カメラ制御、一般カメラ制御、映像配信、音声配信の4つの権限が設定できます。
管理者ビューワーを使用するには特権カメラ制御権限が必要です。
VBビューワーで映像を表示するには映像配信権限が必要です。VBビューワーでカメラ操作も行う場合は、さらに一般カメラ制御権限が必要になります。
音声配信権限は、管理者ビューワーおよびVBビューワーで音声を受信する場合に必要となります。

[管理者]

すべての権限が与えられたユーザーです。ユーザー名は"root"に固定されています。
トップページの [管理者ビューワー] リンクから管理者ビューワーを起動できます。

[登録ユーザー]

登録ユーザーは、特権カメラ制御権限が与えられている場合、トップページの [管理者ビューワー] リンクから管理者ビューワーを起動できます。特権カメラ制御権限を削除された場合、管理者ビューワーを起動することができなくなりますが、VBビューワーを起動することは可能です。また、登録ユーザーのすべての権限を無効にすることで、VBビューワーの起動も禁止できます (P. 5-23) 。

[一般ユーザー]

使用できる機能が下記に限定されたユーザーです。
逆光補正、スナップショット、映像表示、音声配信
M40 カメラのパン・チルト・ズーム制御
トップページの [VBビューワー] リンクからVBビューワーを起動できます。管理者は一般ユーザーのすべての権限を無効にすることで、一般ユーザーのカメラへのアクセスを完全に禁止できます。

重 要

- [管理者] が起動した管理者ビューワーは [登録ユーザー] が起動した管理者ビューワーから、いつでもカメラ制御権を奪うことができます。そのままカメラ制御権を保持できますが、その間登録ユーザーはカメラ制御権を取得できません。閲覧が終わった後は必ず終了するか、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を解放してください。
- [管理者] が起動した管理者ビューワーは同時に1つしかカメラに接続できません。あるPC から管理者権限で接続している場合、他のPC からは管理者権限で接続できなくなります。これに対し、[登録ユーザー] が起動した管理者ビューワーは同時に複数のPC からカメラに接続できます。ただし、カメラを制御する場合、制御権は後優先になります。

メ モ

- 工場出荷設定では、[登録ユーザー] にも特権カメラ制御権が与えられています。
- 一般ユーザーのすべての権限を無効にした場合、VBビューワーの起動時にユーザー認証ダイアログが表示されます。ここで登録ユーザーか管理者のユーザー名とパスワードを入力することで、登録ユーザーあるいは管理者の権限でVBビューワーを使用できます。
- 登録ユーザーには次の制御権が与えられています。

登録ユーザーのユーザー権限一覧

与えられた制御権	ビューワー	操作
特権カメラ制御権 一般カメラ制御 映像配信 音声配信	管理者 ビューワー	管理者ビューワーで可能なすべての操作 **[詳細]** 逆光補正のon/off切り換え、スナップショット、映像表示サイズの切り換え、映像受信サイズの切り換え、音声ボタン操作、再接続ボタン操作、全画面表示、スマートシェード補正、フォーカス、露出、ホワイトバランス、暗視機能、外部デバイス出力制御、イベント表示 M700 M600 ビューワー PTZ 操作 (画面切り出しと、拡大または縮小表示機能)、SDカード挿入状態表示 M40 カメラのPTZ (パン・チルト・ズーム) 速度/操作、パノラマ表示、プリセット選択
	VBビューワー	VBビューワーで可能なすべての操作 **[詳細]** 逆光補正のon/off切り換え、スナップショット、映像表示サイズの切り換え、映像受信サイズの切り換え、音声ボタン操作、再接続ボタン操作 M40 カメラのPTZ (パン・チルト・ズーム) 操作、パノラマ表示、プリセット選択
一般カメラ制御 映像配信 音声配信	VBビューワー	VBビューワーで可能なすべての操作 **[詳細]** 逆光補正のon/off切り換え、スナップショット、映像表示サイズの切り換え、映像受信サイズの切り換え、音声ボタン操作、再接続ボタン操作 M40 カメラのPTZ (パン・チルト・ズーム) 操作、パノラマ表示、プリセット選択
映像配信 音声配信	VBビューワー	映像表示サイズの切り換え、映像受信サイズの切り換え、音声ボタン操作、再接続ボタン操作 M40 パノラマ表示
映像配信*1	VBビューワー	映像表示サイズの切り換え、映像受信サイズの切り換え、再接続ボタン操作 M40 パノラマ表示

*1 映像配信権限をオフにした場合、VBビューワーは使用できなくなります。

ビューワーを起動する

ビューワーを起動する

重 要

- 管理者ビューワーを利用するPCには、Canon Inc.発行の証明書を登録しておく必要があります。(P. 4-3)
- この『操作ガイド』では、IP アドレス"192.168.100.1" (工場出荷設定) を用いて設定の説明をします。実際にはお客様がカメラに設定したIP アドレスを入力してください。

1 **Web ブラウザーからhttp://192.168.100.1/ にアクセスする**

2 **ユーザーに応じて [管理者ビューワー] または [VB ビューワー] をクリックする**

3 **[管理者ビューワー] の場合、ユーザー名とパスワードを入力する**

ユーザー名とパスワードについては、「4章 カメラのトップページについて」の「ユーザー認証」(P. 4-2) を参照してください。

ビューワーが起動します。

ビューワーを終了する

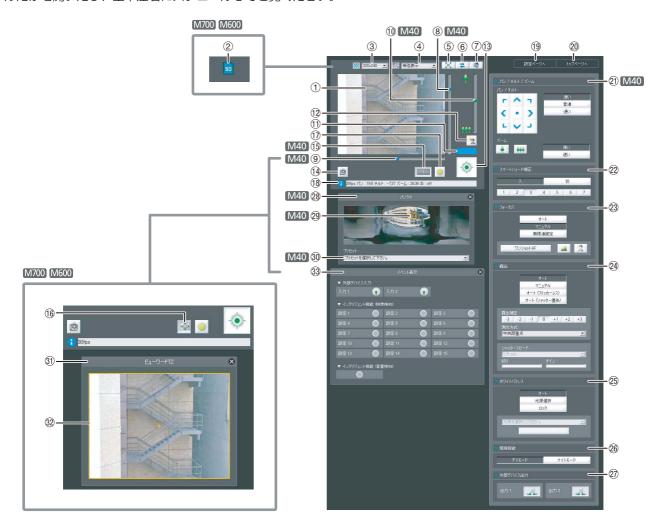
ビューワーのWeb ブラウザーを閉じて終了します。

管理ツールから接続する

管理者として接続するビューワーになります。

1 **管理ツールを起動する**

(管理ツールの起動方法については、6章「管理ツールを起動する」(P. 6-4) を参照してください。)

2 **[管理者ビューワーへ] をクリックする**

ビューワーの操作方法

管理者ビューワーの表示画面について

管理者ビューワーを起動して表示されたボタンやボックスなどの機能の概要を説明します。
なお、次の画面は説明のためにすべてのパネルを開いた状態にしています。実際のWeb ブラウザー画面では、必要なパネルだけを開いたり、上下左右にスクロールしてご覧ください。

① **映像表示部**
カメラから受信した映像を表示します。

② **SDメモリーカード挿入状態アイコン** M700 M600
SDメモリーカードがマウントされているかいないかを表します。
SDメモリーカードがマウントされています。
SDメモリーカードがマウントされていません。

③ **映像サイズ設定**
カメラからの映像受信サイズを設定します。

④ **表示サイズ設定**
画面上の映像表示サイズを設定します。

⑤ **[全画面表示] ボタン**
ライブ映像を全画面で表示します。

⑥ **[再接続] ボタン**
カメラに接続しなおします。

⑦ **[音声受信] ボタン**
カメラからの音声を受信して出力します。

⑧ **チルト用スライダー** M40
カメラのチルト (上下) 制御をするスライダーです。

⑨ **パン用スライダー** M40
カメラのパン (左右) 制御をするスライダーです。

⑩ **ズーム用スライダー** M40
ズーム倍率の制御をするスライダーです。
つまみを上方向に移動するとズームイン (望遠) 、下方向に移動するとズームアウト (広角) します。

⑪ **制御権表示領域**
映像表示中のクライアントが、カメラに対し制御権を保持しているかいないかが表示される領域です。

⑫ **[逆光補正] ボタン**
逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑬ **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。

⑭ **[スナップショット] ボタン**
クリックした瞬間の静止画を、別ウィンドウに表示します。

⑮ **[パノラマ表示] ボタン** M40
パノラマ表示パネルが表示されます。

⑯ **[ビューワー PTZ] ボタン** M700 M600
ビューワー PTZパネルが表示されます。

⑰ **[イベント表示] ボタン**
イベント表示パネルが表示されます。

⑱ **インフォメーション領域**
ビューワー使用者に対して、情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージを表示します。

⑲ **[設定ページへ]**
設定メニューページに移動します。

⑳ **[トップページへ]**
カメラのトップページに移動します。

㉑ **[パン/チルト/ズーム]** M40
カメラのパン、チルト、ズームを操作します。また、その速度を変更できます。

㉒ **[スマートシェード補正]**
スマートシェード補正を操作します。

㉓ **[フォーカス]**
フォーカスを操作します。

㉔ **[露出]**
露出を操作します。

㉕ **[ホワイトバランス]**
ホワイトバランスを操作します。

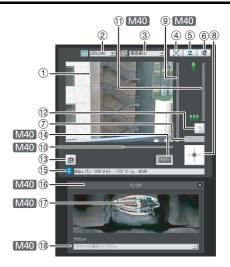
㉖ **[暗視機能]**
デイモード/ナイトモードの切り換えを行います。

㉗ **[外部デバイス出力]**
外部デバイスの出力を操作します。

㉘ **パノラマ表示パネル** M40
[パノラマ表示] ボタンをクリックすると表示されます。

㉙ **パノラマ表示領域** M40
カメラに登録されているパノラマ画像を表示します。パノラマ表示領域内の枠線を操作することにより、カメラを操作できます。

㉚ **プリセット選択ボックス** M40
カメラにあらかじめ登録されているプリセットにより、カメラを制御できます。

㉛ **ビューワー PTZパネル** M700 M600
[ビューワー PTZ]ボタンをクリックすると表示されます。

㉜ **ビューワー PTZ領域指定部** M700 M600
映像表示部に切り出す領域を設定します。

㉝ **イベント表示パネル**
[イベント表示] ボタンをクリックすると表示されます。外部デバイスの入力状態、およびインテリジェント機能の映像検知と音量検知の状態が表示されます。

VBビューワーの表示画面について

① **映像表示部**
カメラから受信した映像を表示します。

② **映像サイズ設定**
カメラからの映像受信サイズを設定します。

③ **表示サイズ設定**
画面上の映像表示サイズを設定します。

④ **[全画面表示] ボタン**
ライブ映像を全画面で表示します。

⑤ **[再接続] ボタン**
カメラに接続しなおします。

⑥ **[音声受信] ボタン**
カメラからの音声を受信して出力します。

⑦ **制御権表示領域**
映像表示中のクライアントが、カメラに対し制御権を保持しているかいないかが表示される領域です。

⑧ **[カメラ制御権取得] ボタン**
カメラ制御権を取得するためのボタンです。

⑨ **チルト用スライダー** M40
カメラのチルト (上下) 制御をするスライダーです。

⑩ **パン用スライダー** M40
カメラのパン (左右) 制御をするスライダーです。

⑪ **ズーム用スライダー** M40
ズーム倍率の制御をするスライダーです。
つまみを上方向に移動するとズームイン (望遠) 、下方向に移動するとズームアウト (広角) します。

⑫ **[逆光補正] ボタン**
逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑬ **[スナップショット] ボタン**
クリックした瞬間の静止画を、別ウィンドウに表示します。

⑭ **[パノラマ表示] ボタン** M40
パノラマ表示パネルを表示します。

⑮ **インフォメーション領域**
ビューワー使用者に対して、情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージを表示します。

⑯ **パノラマ表示パネル** M40
[パノラマ表示] ボタンをクリックすると表示されます。

⑰ **パノラマ表示領域** M40
カメラに登録されているパノラマ画像を表示します。パノラマ表示領域内の枠線を操作することにより、カメラを操作できます。

⑱ **プリセット選択ボックス** M40
カメラにあらかじめ登録されているプリセットにより、カメラを制御できます。

カメラ制御権の取得

カメラの制御は同時に複数のユーザーからは行えません。制御権を取得したユーザーだけがカメラを制御できます。カメラ制御を行うには、まず制御権を取得する必要があります。

操作のしかた

[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、制御権を取得します。

■ カメラ制御権表示領域について

カメラ制御ボタンとカメラ制御権表示領域は、制御権の状態により、表示が次のように変わります。

制御権解放中

制御権表示領域はグレーです。

制御権取得待ち

VBビューワーで制御権取得待ち状態に入っている場合は、制御権表示領域に残り待機時間のカウントが表示されます。

制御権取得中 (制限時間カウント中)

VBビューワーで制御権取得中に、別のユーザーがVBビューワーで制御権取得待ち状態に入った場合、制御権表示領域に残り取得時間のカウントが表示されます。

制御権取得中

制御権表示領域は青です。
VBビューワーでは [カメラ制御権取得] ボタンは、中心部が青です。

管理者ビューワーでは [カメラ制御権取得/解放] ボタンは、中心部が黄緑です。

映像の一時停止中

全画面表示中はビューワー内の映像は一時停止しますので、制御権表示領域に一時停止を示すアイコンが表示されます。

カメラを制御する

まずカメラ制御権を取得してから、次の操作をします。管理者ビューワーとVBビューワーで共通です。

■ カメラのアングルを変更する M40

下記のいずれかの方法で操作が行えます。

パン用スライダーまたはチルト用スライダーで操作する。
スライダーのつまみの位置にあわせてカメラのアングルが変わります。スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。

画像上をクリックする

メ モ

管理者ビューワーの場合は、カメラ操作ボタンでもパン・チルト操作が行えます (P. 7-14) 。

■ パノラマ表示領域でカメラのアングルを変更する M40

1 **[パノラマ表示] ボタンをクリックする**

2 **表示されたパノラマ表示領域で、カメラのアングルを変更する**

領域内に表示される枠は、現在カメラが撮影している範囲を示しています。
青色枠表示の場合:制御権を取得していません
黄色枠表示の場合:制御権を取得しています

クリックで移動
パノラマウィンドウ上をクリックすると、クリックした場所が中心となるように、パン・チルトを移動します。

ドラッグで移動
パノラマウィンドウ上の黄色の枠の内側をドラッグして移動すると、その枠内を撮影するようにパン・チルトを移動します。

メ モ

- ビューワーの画面クリックによるカメラ制御は、厳密な精度で制御されるものではありません。
- 管理者権限で管理者ビューワーを使用すると、可視範囲制限を無視してカメラを操作できます。
  登録ユーザー権限で管理者ビューワーを使用した場合は、可視範囲制限内のみのカメラ操作になります。
- VB ビューワーでは、可視範囲制限内のみのカメラ操作になります。

■ カメラのズーム倍率を変更する M40

ズーム用スライダーのつまみを上下に移動する
スライダーのつまみの位置にあわせてカメラのズーム倍率が変わります。スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。

メ モ

- 設定ページの [カメラ] で [デジタルズーム] を [使用する] に設定すると、光学テレ端を表すアイコンが表示されます (P. 5-11) 。
- 管理者ビューワーの場合は、カメラ操作ボタンでもズーム操作が行えます (P. 7-14)

■ パノラマ表示領域でズーム倍率を変更する M40

1 **[パノラマ表示] ボタンをクリックする**

2 **表示されたパノラマ表示領域でズーム倍率を変更する**

パノラマウィンドウ上の黄色の枠線をドラッグして、枠のサイズを変更すると、変更した枠内を撮影するようにズーム倍率が変わります。

メ モ

黄色の枠の外でマウスのボタンを押し、そのままドラッグすると青色の枠が描画されます。マウスを放すと、青色の枠が黄色く変化し、枠内を撮影するようにパン・チルト・ズームが移動・変更します。

■ プリセットを使用する M40

カメラにあらかじめ登録されているプリセットにより、カメラを制御できます (P. 6-16) 。

1 **[パノラマ表示] ボタンをクリックする**

2 **プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択する**

3 **選択したプリセットのカメラアングルに移動する**

メ モ

プリセットは、あらかじめプリセット設定ツールで登録してください (P. 6-19) 。登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

■ 逆光を補正する

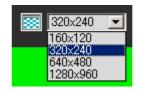
映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

[逆光補正] ボタンをクリックすると、逆光で暗かった映像が明るくなります。

もう一度ボタンをクリックすると解除されます。

映像や音声を設定する

■ 映像サイズを変更する

カメラから受信する映像サイズを設定できます。[160x120] 、[320x240] 、[640x480] 、[1280x960] から選択します。

■ 表示画面サイズを変更する

映像を表示する画面サイズを変更できます。[等倍表示] 、[160x120] 、[320x240] 、[640x480] 、[1280x960] 、[自動調整] から選択します。
[等倍表示] は、映像サイズの大きさのままで表示します。
[自動調整] は、Webブラウザーのウィンドウサイズにあわせて、最大のサイズで表示します。

メ モ

- VBビューワーでは、起動時の映像サイズはカメラの設定が適用されます。
  管理者ビューワーは初めて起動した場合はカメラの設定が適用されますが、2回目以降は前回起動時の設定が使用されます。

- ビューワー起動時の表示画面サイズは、[等倍表示] です。

■ 全画面表示にする

ディスプレイ全体に映像を表示できます。クリックすると全画面表示用に別ウィンドウが立ち上がります。

全画面表示ウィンドウを閉じるときは、全画面表示ウィンドウのクローズボタンをクリックしてください。
全画面中に、カメラの制御に必要なパネルを表示できます。画面上でマウスを右クリックし、表示されたメニューで必要なパネルを選択してください。

管理者ビューワー

[パノラマ] M40　パノラマ表示パネルが表示されます。

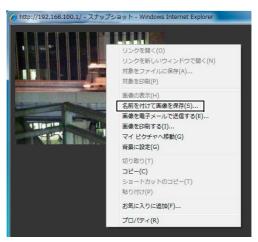
[ビューワー PTZ] M700 M600
　ビューワーPTZパネルが表示されます。(管理者ビューワーのみ)

[コントロール]　カメラコントロールパネルが表示されます。

[イベント表示]　イベント表示パネルが表示されます(管理者ビューワーのみ) 。

各パネルは、タイトル部分をドラッグすることで任意の位置に移動できます。

■ スナップショットを取得する

ライブ映像をキャプチャーし、静止画を別のウィンドウに表示します。
静止画は保存することもできます。
静止画を撮りたいタイミングで [スナップショット] ボタンをクリックします。

別のウィンドウが開き、クリックした瞬間の静止画が表示されます。
静止画を保存するときは、静止画上でマウスを右クリックし、表示されたメニューで [名前を付けて画像を保存] を選択します。
任意のファイル名を付けて保存してください。

静止画を保存する以外にも、表示メニューから選択できる便利な機能があります。

■ 再接続する

カメラとの再接続をする場合は、このボタンをクリックします。

メ モ

再接続を実行した場合、音声受信が停止し、制御権は破棄されます。
また、VBビューワーでは、映像サイズ、表示画面サイズが初期値に戻されます。

■ 音声を受信する

カメラ側に取り付けたマイクを通じて、音声を受信できます。

音声を受信する場合は、このボタンをクリックします。
音量調整パネルが表示されますので、適切な音量に調整してください。

重 要

- IPv6接続時は、音声受信機能がご利用になれません。
- プロキシサーバーを経由する場合、音声はご利用になれません。
- SSL による暗号通信での接続時は、音声受信機能がご利用になれません。

メ モ

- 音声を受信するには、あらかじめ設定ページで [サーバー] の [オーディオサーバー] で [カメラからの音声送信] を [送信する] に設定します (P. 5-18) 。
- 音量調整パネルを閉じると音声の受信も終了します。
- 音量調整パネルを初めて表示するとき、'Canon Network Camera Audio Receiver' アドオンをインストールするメッセージがWeb ブラウザーの情報バーに表示されます。アドオンをインストールしてください。

情報を確認する

インフォメーション領域には、表示されるメッセージの内容に応じて次のアイコンが表示されます。

アイコン (色)	意味	説明
(青)	情報	カメラが正常に操作されているときの表示です。次の情報が表示されます。 • 各ボタンやプルダウンなどのヘルプ • フレームレートの情報 • M40 カメラのパン・チルト・ズーム情報、ブレ補正の設定
(黄)	警告	カメラの制御権が取得できない場合や、音声受信が停止した場合などユーザーに注意を促す必要がある状況になったときの表示です。
(オレンジ)	エラー	システムエラーが発生したときの表示です。

重 要

M40

設定ページでカメラのブレ補正機能をOn にした場合(P. 5-11) は、実際の映像表示画角はインフォメーション領域に表示される画角の値より小さくなります (On1 設定時: 約83%、On2 設定時: 約50%) 。
また、パノラマ表示領域に表示される画角 (枠) よりも実際の映像表示画角は小さくなります。

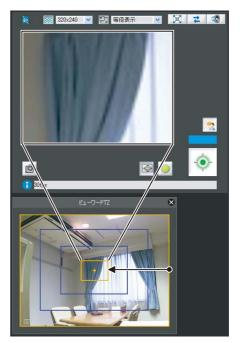
メ モ

メッセージの詳細ついては「ビューワーメッセージ一覧」(P. 8-16) をご覧ください。

管理者としての操作と設定を行う

管理者ビューワーのみが行える操作と設定について説明します。

映像の一部を拡大表示する (ビューワー PTZ) M700 M600

ビューワー PTZパネルを使用して、カメラ映像の一部を映像表示部に拡大表示できます。
ビューワー PTZパネルは、[ビューワー PTZ] ボタンをクリックして表示します。

ビューワー PTZパネルの初期状態は､プレビュー枠 (黄色) が映像全体を囲むサイズになっています。

■ プレビュー枠のサイズを調節する

プレビュー枠線をドラッグして枠を小さくすると、枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。

ドラッグ中はプレビュー枠が青で表示されます。

メ モ

- プレビュー枠の縦横比は常に3:4です。
- ビューワーPTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

■ プレビュー枠を移動する

プレビュー枠は任意の位置へ移動できます。

ドラッグで移動する

プレビュー枠内をクリックしてドラッグし、拡大表示したい対象物に重ねます。

ドラッグ中は枠が青で表示されます。

クリックで移動する

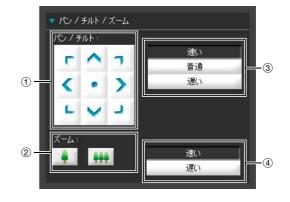
プレビュー枠の外側をクリックすると、その位置へプレビュー枠が移動します。拡大表示したい対象物の上でクリックしてください。

メモ

- プレビュー枠変更後、ビューワーPTZパネルを閉じても、映像表示部は継続してプレビュー枠に対応する切り出し画像を表示します。ただし、管理者ビューワーに再接続した場合は、初期状態に戻ります。
- ビューワー PTZパネルの映像表示は、設定ページの [映像サーバー] で設定されている [最大クライアント数] と [最大接続時間 (秒)] が適用されます。そのため、設定値によっては映像が表示されないときや、一定時間しか表示されないときがあります。その場合は「8章 付録」の「トラブルシューティング」の「ビューワー PTZパネルに映像が表示されない」/「ビューワーPTZパネルの映像が消える」(P. 8-7) を参照して、設定値を確認してください。
- 拡大表示から元の表示に戻すには、プレビュー枠をドラッグ操作で元の大きさ (画面全体) に戻してください。
- 映像表示部での切り出し位置は、全画面表示でも反映されます。

使用するコントロール項目を開く/閉じる

コントロール項目のタイトル部分をクリックするたびに、閉じたり開いたりします。

⇔

なお、カメラ制御権を取得しない状態でも各コントロール項目を開くことができますが、項目内容はグレー表示されます。

カメラの操作・設定をする M40

カメラ操作ボタンをクリックして、パン・チルト・ズームの操作、およびその速度の設定をします。

① [パン・チルト] ボタン
各矢印の方向にパン・チルトを行います。押し続けると動作し、放すと停止します。中心のボタンをクリックすると、カメラは正面を向きます。

② [ズーム] ボタン
ズームイン・ズームアウトを行います。押し続けると動作し、放すと停止します。

③ [パン/チルト] スピード
操作速度を [速い] 、[普通] 、[遅い] から選択します。

④ [ズーム] スピード
操作速度を [速い] 、[遅い] から選択します。

メ モ

[パン/チルト] スピード、[ズーム] スピードの設定を変更しても、スライダーおよびパノラマ上でのパン・チルト・ズーム操作の速度は変更されません。

スマートシェード補正を設定する

スマートシェード補正機能は逆光補正機能と異なり、明るい部分はそのままに暗い部分を明るくする機能です。

① [スマートシェード補正]
[切] 、[入] を設定します。

② スマートシェード補正強弱
スマートシェード補正が [入] のとき、補正の強弱を [1] (弱) ～ [7] (強) の7 段階にて設定します。

例) 背景が明るくて被写体が見にくい場合に、暗い部分を明るくして見やすくできます。
逆光補正と比べ、明るい部分の白飛びを緩和できます。

OFF

スマートシェード補正

逆光補正

メ モ

- スマートシェード補正を [入] に設定すると、映像のファイルサイズが大きくなります。
- スマートシェード補正を [入] に設定すると、画面ノイズが増える場合があります。ノイズが気になる場合には、補正強度を弱めに設定してください。

フォーカスを設定する

[オート] M40 : 自動的にフォーカスを合わせます。
[マニュアル] : (遠) (近) のボタンを押し続けることで、フォーカスを調整できます。
[ワンショットAF] をクリックすると、オートフォーカスが作動し、フォーカスが合った後に、マニュアルフォーカスで停止します。
[無限遠固定] : 無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

重 要

- 管理者ビューワーで設定すると、他のユーザーも同様のフォーカスモードになります。
- マニュアル露出時 (P. 7-15) にシャッタースピードで1/1 ～ 1/4 を選択した場合、カメラコントロールのフォーカスの [オート] (VB-M40のみ) 、[ワンショットAF] を選択してもフォーカスは合いません。フォーカスを [マニュアル] に切り換えて合わせてください。
- ナイトモード (P. 5-11、P. 7-16) を設定した場合のフォーカスの合う範囲は、下記を参照してください。
  M700 M600 P. 3-7のメモ
  M40 P. 5-10のメモ

M40

- 管理者ビューワーでフォーカスモードを変更しても、設定ページの設定には反映されません。
- マニュアルフォーカスの設定をするとフォーカスが固定されたままになるのでご注意ください。

M700 M600

- 管理者ビューワーでのフォーカス操作は、一時的な確認にお使いください。長時間固定する場合は、カメラアングル設定ツールをご使用ください。

露出を設定する

① **露出モード**
[オート]、[マニュアル]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (シャッター優先)] から選択します。
設定ページの [カメラ] で [デイナイト] を [オート] にしてご使用の場合 (P. 5-11) は、[オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (シャッター優先)] を選択してください。
露出モードの各設定項目に関する説明は、設定ページ (P. 5-9) をご参照ください。

② **[露出補正]**
露出モードが [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (シャッター優先)] のとき、7 段階 (-3 ～ +3) の露出補正値をボタンで選択できます。
映像を暗くしたい場合はマイナスの値を、明るくしたい場合はプラスの値を選択してください。

③ **[測光方式]**
露出モードが [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (シャッター優先)] のとき、測光方式を [中央部重点]、[平均]、[スポット] から選択します。

[中央部重点]
画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光する方式です。
画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。
被写体が画面中央付近の場合にご使用ください。

[平均]
画面全体を平均して測光する方式です。
画面内の明暗差が大きい撮影環境でも安定した露出が得られます。
車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合にご使用ください。

[スポット]
画面中央部を測光する方式です。
画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。
被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときにご使用ください。

④ **[シャッタースピード]**
露出モードが [マニュアル]、[オート (シャッター優先)] のときに、シャッタースピードを選択します。[マニュアル] の場合は [1/1 sec] ～ [1/8000 sec] の間でプルダウンメニューから設定します。[オート (シャッター優先)] の場合は [1/8 sec] ～ [1/8000 sec] の間でプルダウンメニューから設定します。

⑤ **[絞り]**
露出モードが [マニュアル] のときに、絞りの値を設定します。
スライダーを左に動かすほど絞りが絞られ、映像は暗くなります。一方、右に動かすほど絞りが開かれ、映像は明るくなります。

⑥ **[ゲイン]**
露出モードが [マニュアル] のときに、ゲインの値を設定します。
スライダーを左に動かすほどゲイン (明るさに対する感度) が低くなり映像は暗くなります。一方、右に動かすほどゲインが高くなり、映像は明るくなります。

重 要
信号機、電光掲示板などの被写体を撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。
露出モードを [オート (シャッター優先)] に変更して、1/100 より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。

ホワイトバランスを設定する

① [オート]
自動的にホワイトバランスを調整します。

② [光源選択]
光源を使用状況に合わせて、下のプルダウンメニューから選択します。

[蛍光灯 昼光色]	: 昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。
[蛍光灯 白色]	: 昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。
[蛍光灯 暖色]	: 暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。
[水銀灯]	: 水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。
[ナトリウム灯]	: オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。
[ハロゲン灯]	: ハロゲン電球、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

③ [ロック]
現在受信している映像でホワイトバランスを固定します。
またホワイトバランスを光源に強制的に合わせて固定する場合、[ワンショットWB] を使用してください。
設定方法例:
白い被写体 (白い紙など) を光源で照らし、被写体を画面いっぱいに撮影した状態で [ワンショットWB] を実行します。

重 要

- 光源選択は代表的な特性に合わせていますので、お使いの光源によっては、適切な色合いにならない場合があります。その場合には [ワンショットWB] 機能をお使いください。
- [オート] モードに設定され水銀灯光源下で画面が緑色を帯びる場合は、光源選択 [水銀灯] モードをご使用ください。また、光源選択 [水銀灯] モードに設定されても水銀灯光源下で画面が適切な色にならない場合には、[オート] モードをご使用ください。
- 単一色の被写体およびナトリウム灯、水銀灯や一部の蛍光灯などの照明を使用する環境下では、自動でカメラの色合いを調整できないことがあります。
- [暗視機能] が [ナイトモード] になっている場合 ([オート] に設定されていて、ナイトモードと判定されている場合を含む) は、ホワイトバランス機能は使用できません。
- 昼夜連続で撮影する場合の注意
屋外での昼夜連続撮影など、光源が徐々に変化する場所で、変化が少ない被写体を撮影したとき、映像が適切な色にならない場合があります。
M40
上記の場合はパン · チルト · ズーム操作などで撮影され る映像に変化を与えると適切な色になります。

暗視機能を設定する

メ モ

暗視機能は設定ページの [カメラ] でデイナイトが [オート] に設定されていると操作できません (P. 5-11) 。

[デイモード]
通常のモードでカラー映像を見ることができます。

[ナイトモード]
赤外線カットフィルターが外れ、映像が白黒になります。

メ モ

ナイトモード (P. 5-11、P. 7-16) を設定した場合のフォーカスの合う範囲は、下記を参照してください。
M700 M600 P. 3-7のメモ
M40 P. 5-10のメモ

外部デバイス出力の操作

外部デバイスの出力を操作し、現在の状態をアイコンで表示します。アイコンをクリックすると、[入] / [切] の状態を切り換えることができます。

例:
出力1 : 出力OFF 状態
出力2 : 出力ON 状態

イベントの状態を表示する

[イベント表示] ボタンをクリックすると、イベント表示パネルが表示され、外部デバイスの入力状態、およびインテリジェント機能の映像検知と音量検知の状態が表示されます。

① **[外部デバイス入力]**
外部デバイスによる接点入力信号を受けると、入力がONとなりアイコンで表示されます。

例:
入力1 : 入力OFF 状態
入力2 : 入力ON 状態

② **[インテリジェント機能 (映像検知)]**
インテリジェント機能による映像検知の状態が表示されます。インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知) の検知設定で、検知あり状態になると、そのアイコンが緑色になります (P. 6-27)。
インテリジェント機能設定ツールの[検知設定名]に名前が入力されている場合 (P. 6-27) は、[設定1]〜[設定15] に、その名称が表示されます。

例:
設定1 : 映像検知状態 ON
他の設定 : 映像検知状態 OFF

メ モ

検知あり状態を示すアイコン表示は、最大で約5分間です (動体検知を除く) 。

③ **[インテリジェント機能 (音量検知)]**
音量検知の状態が表示されます。設定メニューの [イベント] > [音量検知] で設定された条件を検知すると、アイコンが緑色になります。

例:
音量検知状態 ON

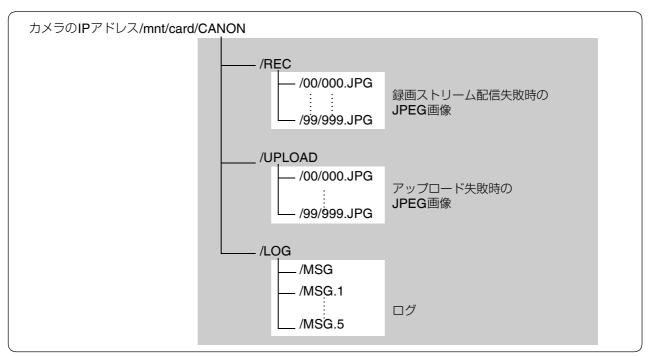
8章

付録

SDメモリーカードのアクセスについて

カメラにセットしたSDメモリーカードには、次のデータを自動的に保存できます（「5章 設定ページ」の「[メモリーカード] SDメモリーカードの各種操作や設定」(P. 5-30)）。

- ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームのJPEG画像
- ネットワーク異常のためにHTTP/FTPアップロードに失敗したJPEG画像
- ログ

■ SDメモリーカードへのアクセス

Webブラウザーではアクセスできません。SDカードユーティリティ (P.1-3) を使用するか、FTPソフトウェア (同梱していません) を使用してカメラのIPアドレスにアクセスしてください。

FTPソフトウェアの設定

アドレス：　カメラのIPアドレス　(工場出荷設定 192.168.100.1)
ユーザー ID：　管理者のユーザー ID　(工場出荷設定　root)
パスワード：　管理者のパスワード　(工場出荷設定 camera)

■ SDメモリーカードのディレクトリー構成

SDメモリーカード

■ 録画ストリーム配信失敗時のJPEG画像

SDメモリーカードに保存されているJPEG映像は、同梱のSDカードユーティリティを使用して表示・削除できます。また、SDメモリーカードに保存された映像をMOV形式のファイルに変換してPCに保存することもできます。

重 要

SDカードユーティリティで表示、削除、変換できる映像は、ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームのJPEG画像のみです。

録画ストリームのJPEG画像は、"<カメラのIPアドレス> /mnt/card/CANON/REC" に "00"～"99" のサブディレクトリが作成され、それぞれにファイル名 "000.JPG"～"999.JPG" で保存されています。
FTPソフトウェアを使用してJPEG画像ファイルをPCにダウンロードすることはできますが、映像として再生するにはSDカードユーティリティ (P. 1-3) を使用する必要があります。
なお、SDメモリーカードの残り容量がなくなるか、画像が全サブディレクトリで保存可能なファイル数に達すると、SDメモリーカードへの保存はできません。この場合は、不要になったJPEG画像を削除してください。

■ アップロード失敗時のJPEG画像

アップロードに失敗したJPEG画像は、"<カメラのIPアドレス> /mnt/card/CANON/UPLOAD" に "00"～"99" のサブディレクトリが作成され、それぞれにファイル名 "000.JPG"～"999.JPG" で保存されています。

FTPソフトウェアを使用してJPEG画像ファイルをPCにダウンロードできますが、常に静止画となります。映像として再生できるファイルとしてダウンロードすることはできません。

なお、SDメモリーカードの残り容量がなくなるか、画像が全サブディレクトリで保存可能なファイル数に達すると、SDメモリーカードへの保存はできません。この場合は、不要になったJPEG画像を削除してください。

■ ログファイル

ログファイルは、"カメラのIPアドレス/mnt/card/CANON/LOG" にファイル名 "MSG" "MSG.1"～"MSG.5" で保存されており、"MSG" が最新のログとなります。
FTPソフトウェアを使用してPCにダウンロードすることも可能ですが、管理ツールのログビューワーを使用することで、ログファイルを容易に表示およびダウンロードできます。

重 要

FTPソフトウェアを使用した結果生じた事故や損害について、キヤノンは一切の責任を負いかねます。

修飾子について

設定項目によっては、修飾子‘% 文字’によるパラメーター記述が可能です。

修飾子	意味	記入される文字列の内容
%n	撮影理由 (番号)	0 (テスト) ｜1 (外部デバイス入力1) ｜2 (外部デバイス入力2) ｜ 33 (タイマーイベント) ｜145 (音量検知) | 161 (インテリジェント機能検知設定1) | 162 (インテリジェント機能検知設定2) | 163 (インテリジェント機能検知設定3) | 164 (インテリジェント機能検知設定4) | 165 (インテリジェント機能検知設定5) | 166 (インテリジェント機能検知設定6) | 167 (インテリジェント機能検知設定7) | 168 (インテリジェント機能検知設定8) | 169 (インテリジェント機能検知設定9) | 170 (インテリジェント機能検知設定10) | 171 (インテリジェント機能検知設定11) | 172 (インテリジェント機能検知設定12) | 173 (インテリジェント機能検知設定13) | 174 (インテリジェント機能検知設定14) | 175 (インテリジェント機能検知設定15)
%N	撮影理由 (文字列)	＜外部入力デバイス名 (半角英数字) ＞｜＜インテリジェント機能検知設定名 (1 ～ 15) ＞｜ NULL (外部入力デバイス名 (半角英数字) 未設定/音量検知/タイマーイベント・テストの場合)
%X	画像の幅	横方向の画素数
%Y	画像の高さ	縦方向の画素数
%C	カメラ番号	1
%D	カメラ名	[カメラ名 (半角英数字)] の設定値
%P	パン位置	M700 M600 0 M40 -179.99 ～ 180.00
%T	チルト位置	M700 M600 0 M40 -179.99 ～ 180.00
%Z	ズーム位置	M700 M600 0 M40 0.01 ～ 300.00
%V	カメラサーバー	VB-M700F / VB-M600D / VB-M600VE / VB-M40
%y	撮影時刻の年	2001 ～ 2031
%m	撮影時刻の月	01 ～ 12
%d	撮影時刻の日	01 ～ 31
%w	撮影時刻の週日	0 ～ 6 (日曜～土曜に対応)
%H	撮影時刻の時	00 ～ 23
%M	撮影時刻の分	00 ～ 59
%S	撮影時刻の秒	00 ～ 59
%s	撮影時刻のミリ秒	000 ～ 999
%z	撮影時刻のタイムゾーン	-1200 ～ +1300
%a	撮影時刻の週日名	Sun ｜ Mon ｜ Tue ｜ Wed ｜ Thu ｜ Fri ｜ Sat
%b	撮影時刻の月名	Jan ｜ Feb ｜ Mar ｜ Apr ｜ May ｜ Jun ｜ Jul ｜ Aug ｜ Sep ｜ Oct ｜ Nov ｜ Dec
%h	ホスト名	

メ モ

- 不整合があれば実行時エラーとなります。
- 未定義の文字については、'%'が削除されます。

■ 利用可能な修飾子について

各設定項目で利用可能な修飾子は、次の通りです。

【HTTPアップロード】(P. 5-15)

[パラメーター (query string)]
すべての修飾子が利用可能です。

【FTPアップロード】(P. 5-16)

[作成サブディレクトリ名]
利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%h、%n のみです。

[作成ファイル名]
利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%M、%S、%s、%n のみです。

【メール通報】(P. 5-17)

[本文]
すべての修飾子が利用可能です。

トラブルシューティング

販売店やお客様相談センターに連絡する前に、次のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

問題	対処方法
カメラが起動しない	• PoE対応HUBをご使用の場合、LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • ACアダプター (オプション) をご使用の場合、ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。 • 電源を入れ直してください (『設置ガイド』の「カメラを接続する」) 。
VB初期設定ツールが動作しない	• LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • カメラの電源を入れ直してみてください (『設置ガイド』の「カメラを接続する」) 。電源を入れてから20 分以上経過すると、VB初期設定ツールに反応しなくなります。 • カメラとVB初期設定ツールが動作しているPCが、同じセグメント上のLANに接続されているか確認してください。 • [Windowsファイアウォール] 機能を有効に設定してある場合は、VB初期設定ツールが動作しない場合があります。そのときは「 [Windowsファイアウォール] 機能を有効に設定してある場合の注意事項」(P. 1-8) をご覧ください。 • 従来機種のVB初期設定ツールを使っていないか確認してください。
M700 M600 カメラアングル設定ツールが動作しない	• LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • カメラとカメラアングル設定ツールが動作しているPCが、同じセグメント上のLANに接続されているか確認してください。 • 「アプリケーションが起動できませんでした。.NET Framework3.5 (SP1以降) をインストールしてください。」と表示される場合は、.NET Framework3.5 (SP1以降) をインストールするか、設定を有効にしてください (P. 1-7 参照) 。
カメラのトップページが表示されない	• LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • カメラのネットワークが正しく設定されているか確認してください。特にIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。 • IP アドレスの変更を行った場合には、カメラが再起動するまで有効になりません。 • Web ブラウザーに入力しているURI (カメラのIP アドレス) が正しいか確認してください (P. 4-2、P. 5-32、P. 7-4) 。
管理ツールが起動できない 管理者ビューワーが起動できない	• 「ご使用のWebブラウザーには対応していません。」と表示される場合は、Internet Explorer 7.0以降をお使いください。 • 「アプリケーションが起動できませんでした。.NET Framework3.5 (SP1以降) をインストールしてください。」と表示される場合は、.NET Framework3.5 (SP1以降) をインストールするか、設定を有効にしてください (P. 1-7 参照) 。 • 「JavaScriptが使用できないか無効化されています。」と表示される場合は、Internet Explorerのセキュリティで [アクティブスクリプト] を [有効にする] に設定してください (設定方法は、次の(2)を参照してください) 。 • 「アプリケーションが起動できませんでした。管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するには、以下の設定が必要です。」と表示される場合は、次の設定を行ってください。 (1) 証明書を登録してください (P. 4-3) 。 (2) Internet Explorer 9以降を使用されている場合は、「カメラのトップページを信頼済みサイトとして登録する」(P. 1-8) の手順に従い、Internet Explorerの [セキュリティ] 設定で、このWebサイトを [信頼済みサイト] に追加してください。 (3) Internet Explorer で [ツール] > [インターネットオプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ] をクリックし、セキュリティ設定のリストで、[XAMLブラウザアプリケーション] 、[ファイルのダウンロード] 、[IFRAMEのプログラムとファイルの起動] の各項目を [有効にする] に設定します。

問題	対処方法
映像が表示されない	• 映像品質を改善したい場合、「5章　設定ページ」の「[映像] 映像のサイズや品質、フレームレートの設定」(P. 5-13) を参照いただき、設定を変更して調整してください。 • カメラに同時にアクセスできるビューワーの数は最大30 です。制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます。
M700 M600 ビューワー PTZパネルに映像が表示されない	• 設定ページの [映像サーバー] で設定されている [最大クライアント数] が0の場合、ビューワー PTZパネルに映像が表示されません。[最大クライアント数] の数を増やしてください。
M700 M600 ビューワー PTZパネルの映像が消える	• ビューワー PTZパネルに映像が表示されている時間は、設定ページの[映像サーバー] の [最大接続時間(秒)] が適用されます。 設定を 0 にすると接続時間が無制限になります。ただし、この設定はビューワー PTZパネルだけでなく、個々のクライアントがカメラに接続できる時間でもあるため、ご注意ください。
音声が利用できない	• 音声が利用できない場合は、カメラのオーディオサーバーの設定を確認していただくとともに、PC のサウンドとオーディオデバイスの設定もご確認ください。 • 管理者ビューワーを管理者ユーザー権限で使用する場合、RMビューワーなどの管理者権限で音声を使用するビューワーがカメラに接続していないか確認してください。 • プロキシサーバーを経由する場合、音声はご利用になれません。 • SSLによる暗号通信での接続時、音声はご利用になれません。 • IPv6接続時は、音声受信機能がご利用になれません。 • アドインがインストールされていない場合、音声はご利用になれません。
カメラ制御ができない	• 管理者ビューワーに管理者として接続するとカメラ制御権を占有します。管理者ビューワーに登録ユーザーとして接続すると、管理者がカメラ制御権を解放しない限り、カメラ制御ができません。管理者に相談してください (P. 7-2) 。
ビューワーの接続が切れる	• ネットワークやPC に異常がないか確認してください。 • PC を再起動し、接続してください。
パスワードを忘れてしまった	• リセットスイッチを用いて、カメラの日付と時刻以外のすべての設定を初期化できます (P. 8-18) 。初期化後の管理用パスワードは「camera」です。ただし、IP アドレスやサブネットマスクなどのネットワーク設定も初期化されますので、再設定が必要になります。
アップロードできない	• [アップロード] メニューでのアップロード先の設定と、[イベント] メニューでのイベントに対するアップロード動作の両方の設定が、正しくされているか確認してください。 • 適用済みのアップロード先の設定は、[アップロード] メニューのテスト (P. 5-16) を実行することで、動作確認できます。 • [メンテナンス] メニューの [ログを見る] やサーバー側のログを見て、詳細な動作環境を確認してください。[ログを見る] については、「アプリケーション (アップローダー) のメッセージ」(P. 8-9) をご参照ください。また、P. 5-15 の「重要」もご参照ください。 • サーバー側の設定については、システム管理者にお問い合わせください。
録画ストリームが利用できない	• [アップロード] メニューの [アップロードの動作] がHTTPまたはFTPでアップロードする設定になっている場合、録画ストリームは利用できません。[アップロードの動作] を [アップロード無効] に設定してください (P. 5-15)。
設定ページや管理ツールでファイルが保存できない	• Windows 7、Windows VistaおよびWindows Server 2008では、一部のフォルダへの保存を禁止しているため、ファイルの保存に失敗する場合があります。[ドキュメント] や [ピクチャ] など、ほかのフォルダを指定してください。
M40 パノラマ画像上に黒帯が表示される	• [カメラ] メニューの [設置条件] の [ドーム] が [使用する] に設定されている場合に、パノラマ画像を作成・保存するとパノラマ画像に黒帯が表示されます。[ドーム] の設定をいったん [使用しない] に変更してからパノラマ画像を作成・保存し、必要に応じて [ドーム] の設定を [使用する] に戻してください。

ログメッセージ一覧

カメラのログメッセージ

ログメッセージは、次のように分類されています。

分類	レベル	コード	障害の程度
crit	エラー	4xx	ソフトレベルの異常 (タスク動作停止)
err	エラー	3xx	動作に支障のある異常 (動作継続)
warning	警告	2xx	動作に支障のない異常
notice	警告	1xx	システム外部の異常
info	情報	0xx	正常動作に関する情報

M600

分類	レベル	コード	障害の程度
alert	エラー	5xx	ハードレベルの異常 (システム動作停止)

メモ

約２時間ログに記録される内容が無い場合は、メッセージエリアに "-- MARK --" と記録されます。

■ アプリケーション（カメラ）のメッセージ

W001 システムの起動と停止 [info]

内容	%1 webview (W001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	wvhttpサーバー (webview) の起動と停止。

W030 WebView Livescopeクライアントの開始と終了 [info]

内容	%1%2 host=<ホスト>, user=<ユーザー >, prio=<優先度> (W030)
%1	W：WebViewセッション、V：セッションレスビデオクライアント、N：セッションレスイベントクライアント
%2	+：接続、-：切断
意味	カメラサーバークライアントの接続と切断。

W031 映像データ送信量 [info]

内容	%1= host=<ホスト>, user=<ユーザー >, video=<jpg | h264>:<フレーム数> (W031)
%1	W：WebViewセッション、V：セッションレスビデオクライアント
意味	クライアント切断時に、クライアントに送信した総データ量をフレーム数で表示。

W040 外部メモリーへの退避[info]

内容	%1 the image storing - %2 (W040)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
%2	開始・終了原因
意味	録画ストリームの外部メモリーへの退避が開始または終了した。

W101 不正ユーザー名 [notice]

内容	user <ユーザー名> not found (W101)
意味	登録されていないユーザーによるアクセス。

W102 不正パスワード [notice]

内容	user <ユーザー名> password mismatch (W102)
意味	パスワードが不正。

W111 不正ホスト [notice]

内容	host <IPアドレス> access denied (W111)
意味	禁止されているホストからのアクセス。

W130 バッファの回復 [notice]

内容	stream buffer recovered (W130)
意味	録画ストリームの映像バッファが回復した。

W210 カメラ操作の取り消し [warning]

内容	camera operation discarded (W210)
意味	要求されたカメラ操作を取り消した。

W230 バッファオーバーフロー [warning]

内容	stream buffer overflowed (W230)
意味	録画ストリームの映像バッファがオーバーフローし、映像が破棄された。

■ アプリケーション（アップローダー）のメッセージ

A004 アップローダーの起動と停止 [info]

内容	%1 uploader (A004)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	アップローダー (uploader) の起動と停止。

A040 アップロード回数 (MAIL) [notice]

内容	uploader mail: normal=%1 test=%2 (A040)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A041 アップロード回数 (FTP) [notice]

内容	uploader ftp: normal=%1 test=%2 (A041)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A042 アップロード回数 (HTTP) [notice]

内容	uploader http: normal=%1 test=%2 (A042)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A120 アップロード送信先の名前解決失敗 [notice]

内容	uploader cannot resolve the server name (A120)
意味	アップロード送信先の名前解決に失敗。

A121 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect the server (A121)
意味	アップロード送信先への接続に失敗。

A122 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect the server (A122)
意味	A120、A121 以外の原因で、アップロード送信先への接続に失敗。

A134 アップロードの設定値不正 (FTP/HTTP モード) [notice]

内容	ftp/http mode invalid. uploader set <none> forcibly (A134)
意味	アップロード方式の設定値不正。アップロードしない、に強制的にセットした。

A135 アップロードの設定値不正 (FTP のPORT/PASV モード) [notice]

内容	ftp port/pasv mode invalid. uploader set <pasv> forcibly (A135)
意味	FTP アップロードにおけるPORT/PASV モードの設定値不正。PASV モード、に強制的にセットした。

A136 アップロードの設定値不正 (HTTP の通知のみ/ 画像付きモード) [notice]

内容	http notice/image mode invalid. uploader set <image> forcibly (A136)
意味	HTTP アップロードにおける通知のみ/ 画像付きモードの設定値不正。画像付きモード、に強制的にセットした。

A137 アップロードの設定値不正 (メール通知) [notice]

内容	mode invalid. uploader set <none> forcibly (A137)
意味	メール通知の設定値不正。メール通知しない、に強制的にセットした。

A138 アップロードの設定値不正 (メール通知の認証方式) [notice]

内容	authentication mode invalid. uploader set <smtp auth> forcibly (A138)
意味	メール通知の認証方式の設定値不正。SMTP_AUTH、に強制的にセットした。

A271 メール通報の通信バッファあふれ [warning]

内容	mail queue is full (A271)
意味	メール通報が通信バッファからあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズを調整する。

A272 アップロードの通信バッファあふれ [warning]

内容	ftp/http queue is full (A272)
意味	アップロードが通信バッファからあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

A273 バッファ使用量制限 [warning]

内容	used buffer size is over maximum size. (A273)
意味	バッファの使用サイズが最大に達した。
対策	アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

A274 アップロード用イベントバッファあふれ [warning]

内容	event queue is full (A274)
意味	アップロード用イベントバッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。

A275 アップロード用映像バッファあふれ [warning]

内容	buffer queue is full (A275)
意味	アップロード用映像バッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

A470 アップローダー初期化失敗 [crit]

内容	uploader initialization failure - %1 (A470)
%1	エラー番号
意味	アップローダーの初期化が失敗した。
対策	再起動しても解消しない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アプリケーション (オーディオサーバー) のメッセージ

B001 オーディオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 audio. (B001)
%1	starting ｜ stopping
意味	オーディオサーバーが起動/ 停止した。

B011 オーディオクライアントの開始 [info]

内容	[%1] %2 connected n=%3 (B011)
%1	クライアント種別 (send ｜ recv)
%2	クライアントホストのIP アドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントが接続した。

B012 オーディオクライアントの終了 [info]

内容	[%1] %2 closed n= %3 (B012)
%1	クライアント種別 (send ｜ recv)
%2	クライアントホストのIP アドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントとの接続が切れた。

B101 異常リクエストの受信 [notice]

内容	%1 unusual request [%2] (B101)
%1	クライアントホストのIP アドレス
%2	異常種別 (400 ｜ 404 ｜ ...)
意味	コマンドエラー (400) 、パラメーターエラー (404) により、リクエストを拒否した。

B102 クライアントの接続拒否 [notice]

内容	%1 request denied [%2] (B102)
%1	クライアントホストのIP アドレス
%2	拒否種別 (41 ｜ 43 ｜ ...)
意味	認証エラー (41) 、時間指定エラー (42)、リソース不足 (43) 、非対応コーデック指定 (45) 、非許容ユーザーレベル指定(47) 、クライアント数制限 (49) 、動作モード (4a) により、クライアントの接続を拒否した。
対策	41:接続時のユーザー名、パスワード、もしくはユーザーリストを確認する。42:接続時のplaytime、もしくは最大接続時間設定を確認する。43:再接続または再起動する。45:対応しているクライアントソフトを用いる。47:接続時のuserlevelを確認する。49:クライアント数設定を確認する。4a:オーディオサーバーを使用する設定になっているか確認する。

B103 クライアントの強制切断 [notice]

内容	%1 access denied [%2] (B103)
%1	クライアントホストのIP アドレス
%2	拒否種別 (41 ｜ 42 ｜ 4a)
意味	開始時は接続が許可されていたが、設定変更によってアクセス禁止となったため、強制的に切断された (拒否種別はB102 と同じ) 。

B201 イベント通知失敗 [info]

内容	cannot notify %1 event [%2] (B201)
%1	イベント種別 (ald)
%2	エラー番号
意味	イベントの通知に失敗した。

B202 イベント受信失敗 [info]

内容	cannot recv event [%1] (B202)
%1	エラー番号
意味	イベントの受信に失敗した。

B203 オーディオメッセージ送信失敗 [info]

内容	audio message send error %1 [%2] (B203)
%1	メッセージ種別
%2	エラー番号
意味	オーディオメッセージの送信に失敗した。

B204 オーディオメッセージ受信失敗 [info]

内容	audio message recv error [%1:%2] (B204)
%1	エラー通番
%2	エラー要因
意味	オーディオメッセージの受信に失敗した。

B301 オーディオデバイス異常 [err]

内容	cannot use audio device for %1 [%2:%3] (B301)
%1	送受信種別 (rx｜tx)
%2	エラー処理 (open｜write｜flush)
%3	エラー番号
意味	オーディオデバイスの異常を検出した。
対策	自動的に復旧しないときは、販売店へ連絡が必要。

B401 オーディオデバイス初期化失敗 [err]

内容	audio device initialization error [%1] (B401)
%1	エラー番号
意味	オーディオデバイスの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B402 オーディオサーバー初期化失敗 [err]

内容	audio initialization error [%1] (B402)
%1	エラー番号
意味	オーディオサーバーの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B403 設定変更失敗 [err]

内容	cannot set config [%1:%2] (B403)
%1	エラー通番
%2	エラー番号
意味	設定値の更新に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アプリケーション（ビデオ関連）のメッセージ

V001 ビデオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 video (V001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	ビデオサーバーの起動と停止。

V020 インテリジェントサービスの起動 [info]

内容	starting intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの起動。

V020 インテリジェントサービスの停止 [info]

内容	shutdown intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの停止。

V200 ビデオ入力の警告 [warning]

内容	video %1 warning - %2 (V200)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧可能な異常を検出した。
対策	画像サイズ、Q値を変更し、JPEG画像1枚あたりのデータを小さくする。

V320 インテリジェントサービスの内部エラー [err]

内容	cannot work intelligent [%1] [%2] [%3] . (V320)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	インテリジェントサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V321 インテリジェントサービス仮設定モードエラー [err]

内容	pseudo mode setting fail. (V321)
意味	インテリジェントサービスの仮設定モードの設定変更に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V400 ビデオ入力の初期化エラー [crit]

内容	video %1 initialization failure - %2 (%3) (V400)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力の初期化に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V401 ビデオ入力のコマンドエラー [crit]

内容	video %1 command error - %2 (%3) (V401)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力のコマンド処理に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V402 ビデオ入力停止 [crit]

内容	video %1 stalled (V402)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力からの映像が停止したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V403 ビデオ入力のエラー [crit]

内容	video %1 fatal error - %2 (V403)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧不可能なエラーを検出したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V420 インテリジェントサービスの起動失敗 [crit]

内容	intelligent initialization error [%1] [%2] . (V420)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの初期化に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V421 インテリジェントサービスのエラー [crit]

内容	intelligent working error [%1] [%2] . (V421)
%1	エラー番号
意味	インテリジェントサービスの動作中に復旧不可能なエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アプリケーション（SDカード）のメッセージ

M001 SD制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 sdctrl (M001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	SD制御モジュール (sdctrl) の起動と停止。

■ HTTP サーバーのメッセージ

H143 ユーザー名の指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) get_password failed (H143)
意味	ユーザー認証で未知のユーザーが指定された。

H144 パスワードの指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) password doesn't match for %1 %2, IP:%3 (H144)
%1	URL　XSS 脆弱性対策実施 (ftpd 同等の処理)
%2	ユーザー名
%3	IP アドレス
意味	ユーザー認証で誤ったパスワードが指定された。

H145 ホストアクセス制限による接続拒否 [notice]

内容	(mod_haccess.c.XXX) host %1 access denied (H145)
%1	IP アドレス
意味	ホストアクセス制限で接続拒否が行われた。

H201 タイムアウトによる切断 [warning]

内容	a request for %1 timed out after writing %d seconds (H201)
%1	リクエストURI
%d	360 (タイムアウト時間)
意味	HTTPサーバーのタイムアウト (360秒) により切断された。

■ システムのメッセージ

S001 システムの起動 [info]

内容	starting paramd (S001)
意味	パラメーター管理モジュールの起動。

S002 システムの設定変更 [info]

内容	Updated system settings. (S002)
意味	再起動なしの設定変更があった。

S010 イベントサービスの起動 [info]

内容	starting event (S010)
意味	イベントサービスの起動。

S011 イベントサービスの停止 [info]

内容	shutdown event (S011)
意味	イベントサービスの停止。

S012 外部デバイスサービスの起動 [info]

内容	starting extio (S012)
意味	外部デバイス入出力サービスの起動。

S013 外部デバイスサービスの停止 [info]

内容	shutdown extio (S013)
意味	外部デバイス入出力サービスの停止。

S014 タイマーサービスの起動 [info]

内容	starting timer (S014)
意味	タイマーサービスの起動。

S015 タイマーサービスの停止 [info]

内容	shutdown timer (S015)
意味	タイマーサービスの停止。

S070 SSL証明書の変更 [info]

内容	ssl: succeeded to %1 certificate (S070)
%1	作成 (generate) | インストール (load) | 削除 (delete) | リストア (restore)
意味	証明書の作成/インストール/削除/リストアを行った。
対策	なし

S220 PAN/TILT動作警告 [warning] (VB-M40)

内容	%1 warning detected. [%2] (S220)
1%	PAN | TILT
2%	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時に異常を検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。

S240 カメラの異常 [warning]

内容	serviceman call (S240)
意味	カメラに異常を検出した。
対策	販売店へ連絡が必要。

S250 PAN/TILTの異常 [warning] (VB-M40)

内容	serviceman call (S250)
意味	PAN/TILT部に異常を検出した。
対策	販売店へ連絡が必要。

S306 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update system settings (S306)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S307 設定値の保存エラー [err]

内容	(vbadmin.c XXX) Can't update system settings (S307)
意味	設定プロトコルで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S310 イベントサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work event [%1] [%2] [%3] (S310)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	イベントサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S311 外部入出力サービスの動作エラー [err]

内容	cannot work extio [%1] [%2] [%3] (S311)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	外部入出力デバイスサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S312 タイマーサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work timer [%1] [%2] [%3] (S312)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	タイマーサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S320 PAN/TILT動作エラー [err] (VB-M40)

内容	%1 error occurred. [%2] (S320)
1%	PAN | TILT
2%	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時にエラーを検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。 接触などの問題がない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S410 イベントサービスの初期化エラー [crit]

内容	event initialization error [%1] [%2] (S410)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	イベントサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S411 外部入出力サービスの初期化エラー [crit]

内容	extio initialization error [%1] [%2] (S411)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	外部入出力デバイスサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S412 タイマーサービスの初期化エラー [crit]

内容	timer initialization error [%1] [%2] (S412)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	タイマーサービスの初期化エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S413 タイマーサービスのランタイムエラー [crit]

内容	timer working error [%1] (S413)
%1	エラー番号
意味	タイマーサービス動作中にエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S501 ファン停止検出 [alert] (VB-M600VE)

内容	FAN rotation speed is less than 150rpm. (S501)
意味	カメラ内のファンが停止もしくは回転数が著しく低下している。
対策	販売店へ連絡が必要。

S502 温度ヒューズ切断検出 [alert] (VB-M600VE)

内容	Heater unit error. Fuse is cut off. (S502)
意味	ヒーター基板上の温度ヒューズが切断した。
対策	販売店へ連絡が必要。

ビューワーメッセージ一覧

インフォメーション領域に表示されるメッセージ

ビューワーのインフォメーション領域に表示されるメッセージには、次の3つの分類があります。

アイコン	分類	説明
	情報メッセージ	各種ボタン、プルダウンなどのヘルプ用メッセージ、フレームレート情報などを表示します。
	警告メッセージ	カメラの制御権が取得できない場合や音声セッションが切断された場合など、ユーザーへの注意を促すメッセージを表示します。
	エラーメッセージ	ビューワー上でシステムエラーが発生した場合に表示されます。

■ 情報メッセージ

メッセージ	説明
カメラとの接続が切れました。	カメラとの接続が切れた
音声接続が切れました。	音声セッションが切断されても、映像セッションが継続している場合 (送信系、受信系共用)
制御権を取得しました。	制御権取得時に表示。カメラの操作が可能
制御権を失いました。	制御権解放時に表示。次に制御権を取得するまでカメラの操作不可

M40

メッセージ	説明
{n}fps パン : {p} チルト : {t} ズーム : {z}	カメラと正常に通信中の表示
{n}fps パン : {p} チルト : {t} ズーム : {z} IS: {ブレ補正値}	カメラと正常に通信中の表示

■ 警告メッセージ

メッセージ	説明
カメラに接続できませんでした。	IP アドレスが正しくないなどで接続に失敗した
ただいま混雑しています。	接続制限数を超えている
カメラ制御権を取得できません。	管理者ビューワーが占有しているなどの理由で制御権要求が拒否された
音声接続できませんでした。	音声受信のための接続に失敗した
カメラに接続していません。	カメラに接続していないのにカメラ操作しようとした
カメラ制御権を取得してください。	カメラ制御権がないのにカメラ操作しようとした
既に他のユーザーが管理者接続しています。	管理者ビューワーが既に接続している
別ウィンドウのビューワーが既に接続しています。	別ウィンドウのビューワーが既に接続している
Cookie が使用できないかブロックされています。	Cookie が使用できないかブロックされている
JavaScript が使用できないか無効化されています。	JavaScript が使用できないか無効化されている
オーディオデバイスがありません。	PCのオーディオデバイスがない場合や無効化されていた場合に [音声] ボタンがクリックされた

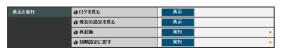
メッセージ	説明
Canon Network Camera Audio Receiver の初期化に失敗しました。	[音声] ボタンをクリックしたときに、ActiveXプラグインがインストールされるのを10秒間待ってもプラグインがインストールされない

M700 M600

メッセージ	説明
ビューワー PTZ用の映像表示が制限されています。	カメラ側の設定でビューワー PTZ用の映像表示が制限されている

工場出荷設定に戻す

カメラの各機能の設定値はメモしておくことをお勧めします。設定値を忘れてしまったなどで、カメラを一から設定し直したい場合には、いったん工場出荷設定に戻してください。
*工場出荷の設定値についてはP. 8-20を参照してください。

Web ブラウザーから初期設定に戻す

1 Web ブラウザーを起動し、設定メニューを表示する

設定メニューを表示させるには、カメラのIPアドレス、ユーザー名、管理用パスワードが必要です (P. 4-2)

2 各種設定のメニューページ上で [メンテナンス] をクリックする

メンテナンスのページが表示されます。

3 [初期設定に戻す] の [実行] をクリックする

初期設定に戻してもよいかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。初期設定に戻してもよい場合は [OK] をクリックします。

次の項目以外が工場出荷設定に戻ります。
- カメラの管理者パスワード
- 最大パケットサイズ
- ネットワーク設定
- 日付、時刻
- タイムゾーン
- SSL証明書
- 暗号化通信

注意

- ［初期設定に戻す］の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。
- 一度 [OK] をクリックすると、初期設定に戻す処理は中断できません。

本体リセットスイッチから工場出荷設定に戻す

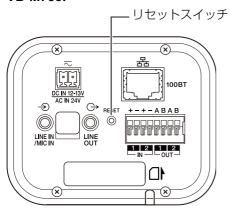
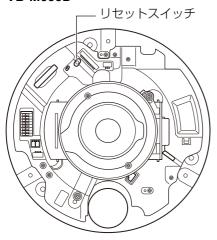
カメラのIPアドレスや管理用パスワードが不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、カメラのリセットスイッチを押します。

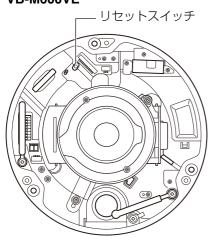
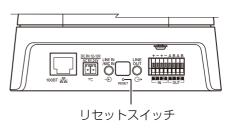
1 VB-M600D/VB-M600VEの場合はドームケースを外す

ドームケースの外しかたについては、『VB-M600D/VB-M600VE設置ガイド』を参照してください。

2 カメラの電源を切る

カメラには電源スイッチがありません。LAN ケーブル (PoE 給電) 、AC アダプターや外部電源の電源プラグを抜き差しすることで、電源の入/切をします。

3 リセットスイッチを押したまま電源を入れ、5秒以上押し続ける

リセットスイッチは穴の奥にあります。クリップの先端など、細いもので押してください。
カメラの日付と時刻以外の全設定が工場出荷設定に戻ります。

重 要

リセットスイッチを押して初期化すると、カメラのIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスなどネットワークに関連した設定値も工場出荷設定に戻るため、接続していたPC から操作ができなくなります。カメラの初期設定時、PCにインストールされた「VB初期設定ツール」で、ご使用の環境に適合したIP アドレスを設定してください (P. 2-5「カメラの初期設定をする」参照)。

VB-M700F

VB-M600D

VB-M600VE

VB-M40

4 VB-M600D/VB-M600VEの場合はドームケースを取り付ける

ドームケースの取り付けかたについては、『VB-M600D/VB-M600VE 設置ガイド』を参照してください。

工場出荷設定一覧

項目	設定値
• ユーザ名 (管理者ID) • 管理用パスワード	root camera
• 設定ページのパス	admin
• LAN LANインターフェイス 最大パケットサイズ • IPv4 IPv4アドレス設定方式 IPv4アドレス サブネットマスク IPv4デフォルトゲートウェイアドレス • IPv6 IPv6 の使用 自動設定 IPv6アドレス (手動設定) プレフィックス長 IPv6デフォルトゲートウェイアドレス IPv6アドレス (自動設定) • DNS ネームサーバーアドレス 1 ネームサーバーアドレス 2 ホスト名 ホスト名のDDNS登録 • SNMP SNMPの使用 コミュニティ名 管理者連絡先 管理用の機器名称 設置場所	 オート 1500 マニュアル設定 192.168.100.1 255.255.255.0 使用する 有効 64 登録しない 使用しない public M700 VB-M700 M600 VB-M600 M40 VB-M40
• 現在の日付と時刻 • 設定 設定方法 NTPサーバー タイムゾーン	 手動で設定する (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

項目	設定値
• カメラ名 カメラ名 (半角英数字) カメラ名 (日本語) • 起動時設定 AEモード スローシャッター シャッタースピード 露出補正 測光方式 スマートシェード補正 ホワイトバランス Rゲイン Bゲイン • カメラ制御 M40 デジタルズーム ブレ補正 • デイナイト モード 切り換える明るさ 応答性 (秒) • 設置条件 ドーム M40 LEDの点灯 M700 M40 映像反転 M40 • カメラ位置制御 M40 プリセットに限定 制御権を持たないときの動作 • 外部入力デバイス1 デバイス名 (半角英数字) デバイス名 (日本語) • 外部入力デバイス2 デバイス名 (半角英数字) デバイス名 (日本語) • 外部出力デバイス1 デバイス名 (半角英数字) デバイス名 (日本語) • 外部出力デバイス2 デバイス名 (半角英数字) デバイス名 (日本語)	 Camera オート 使用しない 1/100 0 中央部重点 使用しない オート 255 255 使用しない 使用しない マニュアル 標準 20 使用しない 点灯する 反転しない 限定しない ホームポジションへ移動しない

項目	設定値
• 起動時設定	
インテリジェント機能情報	付加しない
• JPEG	
映像品質:160x120	3
映像品質:320x240	3
映像品質:640x480	3
映像品質:1280x960	3
映像サイズ:映像送信	320x240
最大フレームレート:映像送信	30.0
映像サイズ:アップロード	320x240
• H.264	
ビットレート制御	ビットレート制御する
映像品質	3
目標ビットレート (kbps)	1024
映像サイズ	320x240
フレームレート (fps)	30
• オンスクリーン表示	
日付表示	表示しない
日付表示位置	左上
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	表示しない
時刻表示位置	左上
テキスト表示	表示しない
テキスト表示位置	左上
テキスト文字列	
文字の色	黒
輪郭の色	白
文字と輪郭の濃さ	文字と輪郭を塗りつぶす

項目	設定値
• アップロード全般	
アップロードの動作	アップロード無効
• HTTPアップロード	
通報内容	HTTPで通知のみ行う
URI	
ユーザー名	
パスワード	
プロキシサーバー	
プロキシポート番号	80
プロキシユーザー名	
プロキシパスワード	
パラメーター (query string)	
• FTPアップロード	
通報内容	映像をFTPする
FTPサーバー	
ユーザー名	
パスワード	
PASVモード	使用する
ファイルアップロードパス	
ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
作成サブディレクトリ名	
作成ファイル名	image.jpg
最大ループ数	0
• メール通報	
通報内容	テキストのみ
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
パスワード	
POPサーバー	
表題	
本文	

項目	設定値
• 映像サーバー	
最大クライアント数	30
最大制御権待ち数	30
最大接続時間 (秒)	0
カメラ制御時間 (秒)	20
• オーディオサーバー	
カメラからの音声送信	送信しない
入力音量	50
無音検出	検出しない
ビューワーからの音声受信	受信しない
出力音量	50
エコーキャンセラー	使用しない
音声入力モード	ライン・イン
• HTTPサーバー	
認証方式	Basic認証
HTTPポート番号	80
HTTPSポート番号	443
Webページのグローバルアドレス	IPv4アドレス
IPv4アドレス (Webページのグローバルアドレス)	
ポート番号 (Webページのグローバルアドレス)	
• 映像バッファ	
フレームレート	1
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
• 音量検知	
音量検知イベント	使用しない
検知条件	基準音量レベル以上
基準音量レベル	50
検知条件の継続時間 (秒)	0
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
プリセット M40	プリセットを指定しない
アップロード	実行しない
メール通報	実行しない
• 外部デバイス入力	
外部デバイス入力イベント	使用する
• 外部デバイス入力1	
入力の入 / 切の反転	反転しない
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
プリセット M40	プリセットを指定しない
アップロード	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50

項目	設定値
• 外部デバイス入力2	
入力の入 / 切の反転	反転しない
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
プリセット M40	プリセットを指定しない
アップロード	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• タイマー	
タイマーイベント設定1	使用しない
開始時刻	00:00
繰り返し設定	使用しない
繰り返し間隔	1秒
繰り返し回数	1
タイマーイベント設定2	使用しない
開始時刻	00:00
繰り返し設定	使用しない
繰り返し間隔	1秒
繰り返し回数	1
タイマーイベント設定3	使用しない
開始時刻	00:00
繰り返し設定	使用しない
繰り返し間隔	1秒
繰り返し回数	1
タイマーイベント設定4	使用しない
開始時刻	00:00
繰り返し設定	使用しない
繰り返し間隔	1秒
繰り返し回数	1
アップロード	実行しない
メール通報	実行しない
• 再生音ファイル登録1	
参照ファイル	
再生音名	
• 再生音ファイル登録2	
参照ファイル	
再生音名	
• 再生音ファイル登録3	
参照ファイル	
再生音名	

項目	設定値
• 登録ユーザーアカウント	
ユーザー名	
パスワード	
ユーザーリスト	
• ユーザー権限	
登録ユーザー	
特権カメラ制御	チェックあり
一般カメラ制御	チェックあり
映像配信	チェックあり
音声配信	チェックあり
一般ユーザー	
一般カメラ制御	チェックあり
映像配信	チェックあり
音声配信	チェックあり
• IPv4ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可 02: / 32 許可 03: / 32 許可 04: / 32 許可 05: / 32 許可 06: / 32 許可 07: / 32 許可 08: / 32 許可 09: / 32 許可 10: / 32 許可 11: / 32 許可 12: / 32 許可 13: / 32 許可 14: / 32 許可 15: / 32 許可 16: / 32 許可 17: / 32 許可 18: / 32 許可 19: / 32 許可 20: / 32 許可

項目	設定値
• IPv6ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
プレフィックス / プレフィックス長	01: / 128 許可 02: / 128 許可 03: / 128 許可 04: / 128 許可 05: / 128 許可 06: / 128 許可 07: / 128 許可 08: / 128 許可 09: / 128 許可 10: / 128 許可 11: / 128 許可 12: / 128 許可 13: / 128 許可 14: / 128 許可 15: / 128 許可 16: / 128 許可 17: / 128 許可 18: / 128 許可 19: / 128 許可 20: / 128 許可
• IPsec設定方法	
IPsec設定方法	自動鍵交換
• 自動鍵交換の設定	
IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
IPsec SA 有効期間 (分)	480
ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1
DHグループ	グループ2
ISAKMP SA 有効期間 (分)	480

項目	設定値
• IPsec セット1	使用しない
IPsecセットの使用	トンネルモード
IPsec動作モード	
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	ESP
IPsecプロトコル	
セキュリティゲートウェイの	
IPv4アドレス	16
セキュリティゲートウェイの	16
IPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	AES
接続先のプレフィックス長	HMAC_SHA1_96
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	
SA ESP 認証アルゴリズム	
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	

項目	設定値
• IPsec セット2	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイの	
IPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイの	16
IPv6アドレス	16
接続先のサブネットマスク長	
接続先のプレフィックス長	AES
IKE事前共有鍵	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号化アルゴリズム	
SA ESP 認証アルゴリズム	
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	使用しない

項目	設定値
• IPsec セット3	トンネルモード
IPsecセットの使用	
IPsec動作モード	
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	ESP
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	
セキュリティゲートウェイの	16
IPv4アドレス	16
セキュリティゲートウェイの	
IPv6アドレス	AES
接続先のサブネットマスク長	HMAC_SHA1_96
接続先のプレフィックス長	
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	
SA ESP 認証アルゴリズム	
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	

項目	設定値
• IPsec セット4	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイの	
IPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイの	16
IPv6アドレス	16
接続先のサブネットマスク長	
接続先のプレフィックス長	AES
IKE事前共有鍵	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号化アルゴリズム	
SA ESP 認証アルゴリズム	
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	使用しない

項目	設定値
• IPsec セット5 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス IPsecプロトコル セキュリティゲートウェイの IPv4アドレス セキュリティゲートウェイの IPv6アドレス 接続先のサブネットマスク長 接続先のプレフィックス長 IKE事前共有鍵 SA ESP 暗号化アルゴリズム SA ESP 認証アルゴリズム SA ESP 暗号鍵 (送信) SA ESP 認証鍵 (送信) SA ESP SPI (送信) SA ESP 暗号鍵 (受信) SA ESP 認証鍵 (受信) SA ESP SPI (受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵 (送信) SA AH SPI (送信) SA AH 認証鍵 (受信) SA AH SPI (受信)	トンネルモード ESP 16 16 AES HMAC_SHA1_96 HMAC_SHA1_96
• 証明書 証明書の状態 国名 (C) 都道府県名 (ST) 市区町村名 (L) 組織名 (O) 組織単位名 (OU) 一般名 (CN) 有効期限開始日 有効期限終了日 • 暗号化通信 SSL通信	 インストールされていません 使用しない
• SDカードの操作 動作設定 • SDカードの情報 SDカードの認識	 ログを保存する SDカードが入っていません

索引

オ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

テ

ト

ナ

ニ

ネ

ハ

ヒ

フ

ホ

マ

ム

メ

モ

ユ

リ

ロ

ワ

お問い合せ先

製品に関するお問い合せは、お客様相談センターをご利用ください。

キヤノンお客様相談センター

ネットワークカメラ / モニタリング機器

☎ 050-555-90074

受付時間 <平日>9:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 (土・日・祝日及び年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

- 上記番号をご利用いただけないかたは ☎ 043-211-9622 をご利用ください。
- IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。
- 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後 7 年間です。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6 CANON S TOWER

YT1-5628-000